60th Anniversary

# 60年のあゆみ

社団法人 日本馬事協会

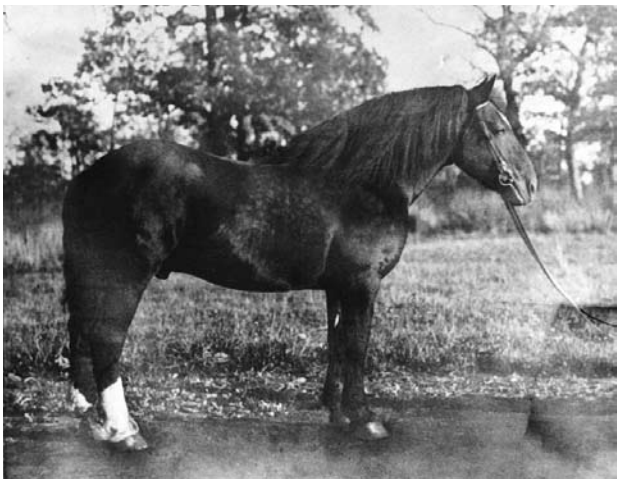
# 序

昭和24年に設立された（社）日本馬事協会は、平成21年に60周年を迎えることとなりました。そして、 平成11年に記念誌「日本の馬産・戦後50年のあゆみ」が発刊されて10年が経ちました。

この10年で馬産をとりまく環境も大きく変わって、当協会がかかわる競走馬以外の馬の飼養頭数も減少傾向がつづいていますが、一方で、馬の多面的な機能に着目した新しい活動の展開も進みつつあります。

そこで、今回設立60周年を記念して、本誌を編纂することといたしました。日本馬事協会ＯＢを含めた記念誌編集委員会を立ち上げて編纂した前回の50周年記念誌に比べ、今回の記念誌は現役の役職員だけによる現存資料に基づく編纂となり意をつくした内容とはならなかった感がありますが、50周年記念誌で書かれた以降10年間の当協会の活動の軌跡を残すことが大事だとの観点に立って編纂いたしました。したがって、当協会の60年全体の活動の流れをみていただくためには、50年記念誌を併せて読んでいただければと思います。

本記念誌が過去の当協会の活動の内容を理解していただく一助となり、併せて、今後の馬事振興を考える手助けになれば幸甚であります。



**名馬「イレネー号」**

わが国の農用馬改良はペルシュロン種など外国種を輸入・交配して行われたが、この改良に最大の貢献をしたのはフランス産のペルシュロン種「イレネー号」（十勝種馬所繋養、明治43年輸入、体高162cm、胸囲202cm、管囲23.7cm、種付け供用　明治44年～昭和３年の18年間で種雄馬生産217頭に達する）である。

昨年、生誕100年を迎えた。

# ごあいさつ

社団法人　日本馬事協会
会長　赤保谷　明正

日本馬事協会は、昭和24年3月に創立されてから本年で満60年を迎えました。これまでに日本馬事協会の業務運営と諸活動に対し関係団体等から賜ったご指導、ご支援に厚くお礼申し上げますとともに、戦後の混乱期の下で設立に奔走され、また、これまで当協会の発展にご尽力された諸先輩に心から感謝申し上げます。

今改めて当協会の歴史を振り返ってみますと、組織や事業規模は決して大きくはありませんが、農業団体等に支部としての業務協力をいただき、また、日本中央競馬会や地方競馬全国協会から多大なご支援を受けながら、それぞれの時期に意義ある事業に取り組んで参りました。

昭和40年に国から移管された種雄馬の全国配置事業を始めとして、種馬登録事業、乗用馬の生産育成及び馬の生産技術開発事業、在来馬の保存活用等々馬事振興を重ねてまいりました。以来、20年を経過した40周年時はバブル経済の最中であり、競馬の売得金も飛躍的な増加を見せておりましたが、馬の飼養頭数は10万頭余で現状を維持するにとどまり、以後、乗用馬を除いて漸減に転じる等厳しい現実に直面することになりました。

このような状況を踏まえて平成2年、農林水産省のご指導を受けて、馬事・馬産関係団体が意見交換や当面の諸問題を検討するため馬事振興検討会が設置され、事務局を当協会が担当することになりました。検討会には、総括検討委員会、連絡調整委員会及び専門部会（現在、農用馬生産・乗用馬生産・在来馬・登録の4部会が設けられている。）が置かれて鋭意検討が行われて参り、平成8年には農用馬生産部会の報告書が、翌9年には乗用馬生産部会、在来馬部会の報告書がそれぞれ提出されたところです。登録部会におきましても、平成3年1月から13年11月まで10回の検討を重ねて報告書が取りまとめられ、これを受け平成15年3月28日農林水産大臣の承認を得て種馬登録規程の改正が行われました。また、18年には、第11回登録部会を開催し、種馬登録規程事務細則の大幅な改正を行ったところでもあります。

農用馬の飼養頭数は10年前に比べて半減して約1万頭となり、軽種馬も約2万頭減少して5万頭を割りました。在来馬の中には絶滅が危惧される馬種も出てくるなど、馬産を取り巻く環境は大変厳しいものがありますが、当協会は関係団体等と連携を図りながら、今後とも馬事振興に努めて参る所存であります。

創立60周年にあたり記念誌を発刊することにいたしましたが、先に「日本の馬産・戦後50年のあゆみ」を発刊しておりますので、ここでは、それ以降の10年間に重点を置いて編集いたしました。本誌が当協会の活動を理解していただくうえでお役に立てば幸甚に存じます。

これまでに会員並びに関係団体等から賜りましたご指導、ご鞭撻に心から感謝申し上げますとともに、今後とも格別のご協力とご支援を賜りますようお願い申し上げ、発刊の挨拶といたします。

# 60 年のあゆみ

## 目　次

**序**

ごあいさつ

**Ⅰ．馬産の動きと協会の取り組み**

1. 農用馬 …… 3
   (1) 農用馬の生産
   (2) 農用馬の改良
2. 乗用馬 …… 4
   (1) 乗用馬の生産
   (2) 乗用馬の改良
3. 在来馬 …… 5
   (1) 在来馬の飼養
   (2) 在来馬の保存
   (3) 日本在来馬保存会全国会議の開催等

**Ⅱ．種馬の登録と生産指導**

1. 種馬の登録 …… 8
2. 馬の生産指導
   (1) 農用馬
   (2) 乗用馬
3. 種馬の配置 ……11

＜グラビア 1.＞ ……19

・日本の在来馬　・生産指導と技術者の養成

・優良農用馬の生産者等を表彰　・馬と文化

**Ⅲ．馬産に対する新たな取り組み**

1. 畜産振興対策支援事業（乗用馬生産振興・普及推進事業）……23
   (1) 事業実施期間（平成 14 年度～18 年度）
   (2) 事業実施の概要

2. 家畜等繁殖・生産技術向上対策事業（馬繁殖性改善緊急対策事業）……24
（1）事業実施期間（平成 17 年度～19 年度）
（2）事業実施の概要
3. 家畜生産技術向上等特別対策事業（馬生産技術向上推進事業）……24
（1）事業実施期間（平成 19 年度～21 年度）
（2）事業実施の概要
4. 大家畜生産技術向上対策事業（馬繁殖性向上対策事業）……25
（1）事業実施期間（平成 20 年度～22 年度）
（2）事業実施の概要
5. 馬の人工授精を推進 ……27

＜資料＞　馬生産地における現状と課題……29
＜提言＞　農用馬に明確な指針を……34

**＜グラビア 2.＞** ……35
・馬事知識普及公開セミナー　・乗用馬振興
・ホースイベントを支援　・馬事普及啓発事業

**Ⅳ．調査研究事業**……39

**Ⅴ．馬事普及啓発事業**……40
パンフレット、貸し出し用パネル、VTR、馬事資料等

**Ⅵ．再生にかける ばんえい競馬** ……43
1. ばんえい競馬の経緯
2. 優良農用馬生産者等表彰

**資料編**……49

**編集後記**…… 103

# I 馬産の動きと協会の取り組み

## 1．農用馬

### (1) 農用馬の生産

農用馬は、ばんえい競走用、食肉用としての需要に支えられ、北海道を主産地として東北、九州等で生産されているが、農用馬の生産頭数は、年々減少傾向を示している。

この要因としては、①中核となる馬生産技術者（馬に携わっていた獣医師、農協等の技術者）が引退等により、生産現場における生産及び衛生管理指導が十分に行われなくなったこと、②農用馬生産の主産地である北海道において、ばんえい競馬場４場のうち３場が競馬開催を撤退したこと等により、農用馬の生産意欲が低下していること、③ばんえい競馬の低迷が長期に及び、馬主に対する報奨金が削減されたことにより、馬主の購買意欲が低下していること、④肥育素馬の輸入価格が比較的安価であることから輸入頭数が増大しており、これに伴い国内の生産意欲が低下していること、⑤繁殖は自然交配が主流であり、これまで種雄馬管理者が担ってきていたが、種雄馬管理者の高齢化と後継者の不足等により種付けが困難になってきていること、⑥自然交配が主流であることから、優良種雄馬の利用効率が悪いこと、⑦人工授精による受胎率は、他の畜種に比較して低いこと等があげられる。

そこで、凍結精液による人工授精を推進するために、人工授精実施体制の整備、馬人工授精師の確保、生産・衛生管理技術向上のための指導的技術者の養成及び繁殖率の向上を図るための馬精液濃縮法の改善に取り組んでいるところである。

### (2) 農用馬の改良

農用馬の改良は、国の家畜改良増殖目標に沿って、ブルトン、ペルシュロン等により強健・温順で粗飼料の利用性が高く、早熟で繁殖能力、哺育能力の高いもの、体幅及び体長が適度で、体各部の均称の良いものにし、産肉量の向上を図るとともに、運動性に富み、けん引力に優れたものを目標として行われてきた。

当協会は、独立行政法人家畜改良センター十勝牧場（以下「十勝牧場」という）で純粋繁殖されているブルトン、ペルシュロンの種雄馬を借り受け、産地に配置するとともに地方競馬全国協会からの補助により、これら純粋種を適宜輸入するとともに、ばんえい競馬

で優秀な成績を挙げた雄馬から選抜・購買したものを産地に貸し付け、配置している。

しかしながら、近年、十勝牧場においては、ブルトン、ペルシュロンの輸入による新たな系統馬の導入が行われていないため、産地においては、十勝牧場で交配・育成した種雄馬の系統に特化してきている。このことから近交係数が高まり、配合に苦慮している状況にある。

このため、ブルトン、ペルシュロン等優良純粋種の維持確保とその適切な利用に努めるとともに、優良種雄馬の広域利用を推進してきた。さらに海外から優良種雄馬の凍結精液の輸入を検討しているところである。

## 2. 乗用馬

### (1) 乗用馬の生産

乗用馬の生産は、北海道十勝、根釧及び岩手県遠野地域等を中心に、セル・フランセ、アングロ・アラブ、サラブレッド等を繁殖基礎馬として行われているが、国内乗用馬の大半は競走用馬からの転用であり、競技用馬の殆どは輸入馬である。近年、レジャーの多様化等を背景として、乗馬人口が増加するとともにホーストレッキング、エンデュランス、ホースセラピーなど新たな馬の利活用を反映して、飼養頭数は増加傾向にある。

乗用馬の生産者も高齢化が進んでおり、新たな担い手を確保する必要がある。また、新たな需要に対応するための飼養管理技術、馴致調教技術の向上等が望まれている。このため、関係団体の協力を得て、生産地において乗用馬生産育成技術検討会などを開催しているところである。

### (2) 乗用馬の改良

乗用馬の生産は、初心者や女性、子供などが安全に乗馬を楽しめる馬だけでなく、優良な競技用馬が求められている。当協会では種雄馬を家畜改良センター十勝牧場、日本中央競馬会、日本軽種馬協会から寄贈または借り受けた馬を十勝、根釧、遠野、山梨等の乗用馬生産者団体に転貸している。

また、日本中央競馬会の助成により繁殖用の種雌馬（セル・フランセ）を輸入して、主な生産地に配置して、乗用馬の生産振興を図ってきたところである。当該繁殖用の種雌馬導入事業は、平成12年度をもって終了したが、乗用馬生産のレベルアップに多大な効果をもたらした。

また、平成13年度にドイツから購買した種雄馬（ウエストファーレン）は、これまでの種雄馬の産駒に比べ質も高く、全国的に注目されているところである。今後、優良な種雄馬の凍結精液の活用等による広域利用に努め、改良推進に取り組んでいくことにしている。

## 3. 在来馬

### (1) 在来馬の飼養

我が国固有の馬として、8馬種（北海道和種馬、木曽馬、野間馬、対州馬、御崎馬、トカラ馬、宮古馬、与那国馬）が在来馬として認められ、各保存会がそれぞれ保存・利活用に努めている。また、昭和52年からは日本中央競馬会の助成を受けて、種雄馬管理や種付け奨励、雌馬の保留奨励金を助成するなど各種の保存対策を講じてきた。

しかし、近年、飼養者の高齢化、新たな担い手の確保難、また、一部の在来馬にあっては、飼養管理方法に適性を欠くこと等から繁殖率の低下が見られ、飼養頭数は馬種により異なるものの、平成6年をピークに全体としては減少が続いている。

とりわけ対州馬、宮古馬、与那国馬の3馬種は飼養頭数、繁殖率の推移から見て絶滅危惧種と位置づけした。そこで繁殖率の向上等を図るため、放牧場の整備、専門家による飼養管理の指導、不妊馬の治療等の特別対策を実施している。与那国馬については保存登録実施の前提として平成20年度から個体識別のためのマイクロチップの埋め込み及び親子判定のためのDNA型検査を実施している。

安定的な在来馬の生産へ各保存会それぞれが地域、馬種にあった保存・利活用をいかに推進していくかが課題となっている。

### (2) 在来馬の保存

在来馬は性質温順で持久力に富み、飼養管理も比較的容易であるなどの特質を有しており、我が国固有の貴重な遺伝資源、文化遺産であり、その保存・活用が重要である。

**表1・1　種類別飼養頭数の推移**

（単位：頭）

| 年次 | 軽種馬 | 農用馬 | 乗用馬 | | 小格馬 | 在来馬 | 肥育馬 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 平成10 | 64,120 | 22,412 | 11,646 | (11,646) | − | 2,892 | 10,260 | 111,330 |
| 11 | 61,954 | 20,574 | 12,189 | (12,189) | − | 2,677 | 9,436 | 106,830 |
| 12 | 60,795 | 19,537 | 11,739 | (11,739) | − | 2,510 | 9,396 | 103,977 |
| 13 | 59,883 | 18,236 | 13,274 | (12,601) | 2,013 | 2,455 | 8,700 | 104,561 |
| 14 | 58,413 | 16,963 | 14,225 | (13,457) | 1,627 | 2,400 | 12,390 | 106,018 |
| 15 | 56,096 | 15,057 | 13,755 | (12,971) | 1,610 | 2,301 | 13,136 | 101,955 |
| 16 | 53,027 | 13,576 | 13,705 | (13,022) | 1,602 | 2,294 | 12,399 | 96,603 |
| 17 | 50,411 | 11,951 | 14,512 | (13,799) | 1,486 | 2,087 | 12,439 | 92,886 |
| 18 | 47,596 | 10,578 | 15,468 | (14,849) | 1,412 | 2,067 | 9,847 | 86,968 |
| 19 | 45,978 | 9,362 | 14,799 | (14,183) | 1,237 | 1,851 | 10,748 | 83,974 |

（注）乗用馬の（　）内は、乗馬施設で供用されている馬で内数

## 表１・２　日本在来馬の飼養頭数の推移

（単位：頭）

| 馬種／年度 | 北海道和種馬（北海道） | 木曽馬（長野県） | 野間馬（愛媛県） | 対州馬（長崎県） | 御崎馬（宮崎県） | トカラ馬（鹿児島県） | 宮古馬（沖縄県） | 与那国馬（沖縄県） | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 昭和 55 年 | 1,307 | 39 | 8 | 171 | 82 | 62 | | 55 | 1,724 |
| 56 | 1,478 | 56 | 10 | 123 | 80 | 68 | 13 | 57 | 1,885 |
| 57 | 1,581 | 50 | 11 | 109 | 84 | 69 | 10 | 55 | 1,969 |
| 58 | 1,681 | 56 | 13 | 92 | 90 | 69 | 7 | 60 | 2,068 |
| 59 | 1,680 | 61 | 15 | 89 | 94 | 70 | 9 | 60 | 2,078 |
| 60 | 1,666 | 64 | 17 | 75 | 91 | 75 | 8 | 60 | 2,056 |
| 61 | 1,545 | 66 | 22 | 61 | 99 | 88 | 9 | 62 | 1,952 |
| 62 | 1,731 | 66 | 25 | 59 | 102 | 89 | 10 | 65 | 2,147 |
| 63 | 2,083 | 67 | 28 | 59 | 96 | 91 | 11 | 71 | 2,506 |
| 平成元年 | 2,245 | 69 | 30 | 65 | 97 | 92 | 14 | 89 | 2,701 |
| 2 | 2,561 | 68 | 34 | 75 | 93 | 104 | 15 | 115 | 3,065 |
| 3 | 2,925 | 68 | 35 | 89 | 84 | 118 | 19 | 112 | 3,450 |
| 4 | 2,665 | 98 | 36 | 92 | 86 | 114 | 21 | 91 | 3,203 |
| 5 | 2,834 | 86 | 38 | 92 | 82 | 110 | 25 | 94 | 3,361 |
| 6 | 2,928 | 92 | 42 | 84 | 87 | 115 | 23 | 95 | 3,466 |
| 7 | 2,614 | 87 | 47 | 79 | 88 | 113 | 21 | 108 | 3,157 |
| 8 | 2,693 | 84 | 50 | 70 | 92 | 110 | 21 | 81 | 3,201 |
| 9 | 2,419 | 76 | 63 | 40 | 92 | 108 | 19 | 81 | 2,898 |
| 10 | 2,408 | 57 | 75 | 33 | 98 | 106 | 16 | 99 | 2,892 |
| 11 | 2,174 | 64 | 72 | 32 | 112 | 103 | 17 | 103 | 2,677 |
| 12 | 1,950 | 86 | 74 | 30 | 119 | 113 | 18 | 120 | 2,510 |
| 13 | 1,857 | 127 | 77 | 31 | 117 | 121 | 19 | 106 | 2,455 |
| 14 | 1,790 | 136 | 76 | 28 | 120 | 126 | 19 | 105 | 2,400 |
| 15 | 1,722 | 128 | 78 | 27 | 120 | 107 | 22 | 97 | 2,301 |
| 16 | 1,673 | 162 | 82 | 26 | 122 | 114 | 19 | 96 | 2,294 |
| 17 | 1,471 | 161 | 83 | 25 | 117 | 113 | 23 | 94 | 2,087 |
| 18 | 1,468 | 157 | 85 | 27 | 122 | 96 | 25 | 90 | 2,070 |
| 19 | 1,248 | 149 | 84 | 31 | 113 | 110 | 31 | 85 | 1,851 |
| 20 | 1,254 | 149 | 81 | 30 | 115 | 115 | 31 | 85 | 1,860 |

資料：（社）日本馬事協会調べ（各保存団体報告値）

在来馬の保存に当たっては、それぞれの馬種の特質を生かした利活用を図っていくことが重要であるが、近年、その特質を活用した用途として、児童用乗馬、乗馬療法、流鏑馬等への利活用が図られつつあるが、保存・利活用を通じて一定の収益を得る体制をいかに構築していくかが課題となっている。日本在来馬の保存・利活用推進のため連絡会議を開催するとともに、8馬種のうち5馬種（北海道和種馬、木曽馬、対州馬、野間馬、宮古馬）について登録（血統登録、繁殖登録）を実施している。

### (3) 在来馬の保存活用に向けた日本在来馬保存会全国会議の開催等

在来馬各馬種の保存、利活用を円滑にするため、保存活動の活性化が必要な馬種について、その実態調査を実施し、その調査内容を踏まえ平成19年度までに在来馬保存会の意見集約等を目的に日本在来馬保存会全国会議を開催、「日本在来馬の保存と利活用に関する基本構想」（資料編　54ページ参照）を取りまとめた。

なお、昭和52年度に発足した「日本在来馬の保存活用に関する連絡会議」は、平成20年度からは全国会議を一時休止して、各馬種ごとに具体的な保存活動について現地で検討することにしている。

**表1・3　日本在来馬保存会の発足及び登録開始時期等**

| 馬種 | 保存会発足年月 | 登録開始年月日 | 備考 |
|---|---|---|---|
| 北海道和種馬 | 昭和51年6月 | 昭和54年4月1日 | 平成16年10月<br>北海道文化遺産選定 |
| 木曽馬 | 昭和44年10月 | 昭和51年4月1日 | 昭和58年<br>長野県天然記念物指定 |
| 野間馬 | 昭和53年6月 | 平成12年9月14日 | 昭和63年<br>今治市指定文化財指定 |
| 対州馬 | 昭和47年7月 | 昭和54年4月1日 | |
| 御崎馬 | 昭和43年4月 | — | 昭和28年<br>天然記念物指定 |
| トカラ馬 | 昭和48年11月 | — | |
| 宮古馬 | 昭和55年4月 | 平成18年4月1日 | 平成3年<br>沖縄県指定天然記念物 |
| 与那国馬 | 昭和50年10月 | — | 昭和44年<br>与那国町指定天然記念物 |

# Ⅱ 種馬の登録と生産指導

## 1．種馬の登録

日本馬事協会の種馬登録事業は、家畜改良増殖法第32条の2の規定に基づき、昭和51年4月8日付け農林省指令51畜A第364号で農林大臣の承認を得た「日本馬事協会種馬登録規程」により、それまで地方に残っていた登録3団体（ホクレン農業協同組合連合会、十勝農業協同組合連合会及び長野県種馬登録協会）の登録事業を継承統合して、軽種馬を除く輓系馬、乗系馬、小格馬（日本在来馬を含む）について登録事業を開始し現在に至っている。

登録は、馬の血統と個体識別を明確にし、繁殖成績を記録することによって馬の改良増殖を図ることを目的としている。血統登録と繁殖登録のほか当分の間の措置として補助血統登録、補助繁殖登録に区分し、登録申込馬につき実馬並びに関係書類の厳密な審査を行い、種馬登録証明書を交付するとともに，登録馬は種馬登録名簿に登録公示し、平成16年度以降は当協会ホームページにて公示している。

## 2．馬の生産指導

### (1) 農用馬

#### ①種雄馬管理指導の実施

種雄馬の飼養管理の適正化を図り、事故を未然に防止するため、日本馬事協会及び支部が主体となって、全国に配置中の種雄馬について管理状況を把握するとともに、種雄馬管理人に対し飼養管理技術の向上を図るための指導を行った。

#### ②生産技術指導の実施

農用馬の生産振興を図るため、技術者又は飼養者を対象とする講習会の開催、巡回生産技術指導を行う農協､農協連等に対し、毎年度予算の範囲内で指導奨励金を交付した。

③馬事技術指導者養成研修会の開催

農用馬生産農家の技術指導に当たる者を指導する専門技術指導者を計画的に養成し、指導体制を強化するため、平成11年度から16年度の5カ年間、十勝牧場において馬事知識及び技術に関する研修会を開催し、馬事技術指導者を次のとおり養成した。

| 平成11年度 | 平成12年度 | 平成13年度 | 平成15年度 | 平成16年度 |
|---|---|---|---|---|
| 11名 | 8名 | 12名 | 12名 | 13名 |

④農用馬診療技術等研修会の開催

馬の診療技術者の養成及び生産技術の向上を図るため、農用馬の診療に携わる獣医師及び種雄馬管理者の知識及び技術の向上に関する研修・講習会を平成13年度から16年度の4カ年間、十勝牧場において開催した。

⑤農用馬生産振興推進協議会の開催

平成11年度から16年度までの6年間、全国8ないし9地区において農用馬生産振興地方協議会を開催するとともに、全国の馬産に係る関係者の参集を得て東京で中央推進協議会を開催した。

なお、平成17年度からは、農用馬生産地の北海道，東北、九州の3地区においてブロック会議を開催し、それぞれの地域の実態に即した生産振興策を検討した。

## (2) 乗用馬

①乗用馬の飼養管理・育成技術の現地研修会の開催

乗用馬生産に係る飼養管理・育成技術の向上を図り、乗用馬生産の経営の安定に資するため、乗用馬生産関係団体の技術者及び生産者を対象とした現地研修会を開催した。

②乗用馬の生産育成促進指導の実施

乗用馬生産農家の組織と生産基盤の強化を図るため、計画的生産の促進、現地に適した生産体制についての検討会を釧路市及び遠野市で開催するとともに、乗用馬市場の円滑な実施とせり名簿の作成について助言、協力した。

### 表２・１　輓系・乗系馬の血統登録頭数

（単位：頭）

| 年度＼道県 | 北海道 | 青森県 | 岩手県 | 熊本県 | 宮崎県 | その他 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 平成 10 年 | 4,018 | 82 | 148 | 126 | 130 | 52 | 4,556 |
| 11 | 3,748 | 81 | 165 | 139 | 100 | 57 | 4,290 |
| 12 | 3,560 | 60 | 149 | 115 | 98 | 42 | 4,024 |
| 13 | 3,252 | 64 | 127 | 120 | 78 | 46 | 3,687 |
| 14 | 3,172 | 49 | 104 | 97 | 57 | 50 | 3,529 |
| 15 | 2,924 | 50 | 118 | 94 | 51 | 43 | 3,280 |
| 16 | 2,531 | 42 | 118 | 106 | 24 | 75 | 2,896 |
| 17 | 2,248 | 43 | 99 | 72 | 37 | 50 | 2,549 |
| 18 | 2,308 | 48 | 101 | 91 | 31 | 51 | 2,630 |
| 19 | 2,198 | 43 | 99 | 104 | 15 | 53 | 2,512 |
| 20 | 2,030 | 31 | 88 | 127 | 22 | 47 | 2,345 |

### 表２・２　輓系・乗系馬の繁殖登録頭数

（単位：頭）

| 年度＼道県 | 北海道 | 青森県 | 岩手県 | 熊本県 | 宮崎県 | その他 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 平成 10 年 | 707 | 28 | 46 | 23 | 16 | 22 | 842 |
| 11 | 645 | 16 | 45 | 20 | 32 | 15 | 773 |
| 12 | 617 | 21 | 34 | 12 | 20 | 53 | 757 |
| 13 | 532 | 12 | 29 | 25 | 13 | 53 | 664 |
| 14 | 539 | 15 | 27 | 18 | 11 | 7 | 617 |
| 15 | 661 | 17 | 31 | 24 | 17 | 28 | 778 |
| 16 | 497 | 5 | 31 | 46 | 12 | 23 | 614 |
| 17 | 369 | 12 | 10 | 19 | 16 | 30 | 456 |
| 18 | 410 | 7 | 15 | 28 | 5 | 16 | 481 |
| 19 | 320 | 7 | 18 | 37 | 6 | 18 | 406 |
| 20 | 324 | 4 | 18 | 20 | 6 | 19 | 391 |

## 3. 種馬の配置

農用馬及び乗用馬の生産振興の核となる種馬の配置については、国から農用種雄馬配置業務を移管されたことに伴い、昭和40年に農用種雄馬の配置業務を、昭和46年に乗用馬の同業務を開始した。昭和50年7月には「社団法人　日本馬事協会種雄馬管理規程」、昭和56年8月には「乗用雌馬貸付規程」を制定し、同規程に則った配置業務を行うこととなった。ちなみに、この配置事業の原資は①地方競馬全国協会からの助成事業「馬の改良増殖推進事業」によるばんえい馬の国内購買と純粋種の輸入、②家畜改良センターやその他の団体からの無償貸付、③中央競馬会からの助成金による乗用馬の購買と同会からの寄贈により確保した種馬によっている。

なお、平成10年度までの本事業の動きは「日本の馬産・戦後50年のあゆみ」に記載されているので、平成11年度以降の動きを以下に述べる。

種馬配置に関係する年度別の配置馬については、会有種雄馬年表を表2・3、センター有種雄馬年表を表2・4、乗用種雄馬年表を表2・5、乗用種雌馬年表を表2・6に掲載した。

平成13年度に、家畜改良センターの独立行政法人化に伴い、これまでの国有配置馬は「センター有配置馬」となった。また、会有馬については、平成12年度、平成14年度、平成16年度の3回にわたり、フランスから農用馬純粋種計5頭を輸入した。

**表2・3　会有種雄馬配置年表**

| 配置年度（平成） | 馬　　名 | 品種 | 生年月日 | 血　　統<br>父<br>母 | 配　置　先 |
|---|---|---|---|---|---|
| 11年度 | コブラテンリュウ | 半血 | H2.<br>4.13 | ペル　ダイスーパーエース<br>半血　大力 | 釧路農協連 |
| 〃 | キングダム | 半血 | H5.<br>5.28 | 半血　カゲオー<br>半血　清鈴 | 根室生産農協連 |
| 〃 | クリタワー | 半血 | H5.<br>3.10 | 半血　シマノカチクリ<br>半血　清姫 | 上川生産農協連 |
| 〃 | キンフジ | 半血 | H2<br>4.18 | 半血　ゴウカイ<br>半血　第二宝姫 | 十勝農協連 |
| 〃 | ドライバーショット | 半血 | H2<br>4.5 | ペル　タケシ<br>半血　洋子 | ホクレン札幌支所 |
| 12年度 | エビスホウザン | 半血 | H3.<br>5.6 | 半血　アサヒキロク<br>半血　アリストクイン | 釧路農協連 |
| 〃 | イシノタロウ | 半血 | H3.<br>4.30 | 半血　ハヤホマレ<br>半血　ダイヤカール | ホクレン岩見沢支所 |
| 〃 | ダイヤキンショウ | 半血 | H4.<br>2.17 | 半血　マツノコトブキ<br>半血　陽姫 | 十勝農協連 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 〃 | シルバープリンス | 半血 | H7.<br>3.2 | 半血　ハクタイコー<br>半血　レディカップ | ホクレン苫小牧支所 |
| 〃 | トモエリキ | 半血 | H5.<br>3.7 | 半血　ヒカルタイショオ<br>半血　クシロホープ | 上川生産農協連 |
| 〃 | タケノツバメ | 半血 | H4.<br>2.17 | 半血　キタノシンザン<br>ペル　エイカンユー | 釧路農協連 |
| 〃（輸） | ジョワユー | ペル | H9.<br>4.30 | ペル　CALINEUR DU GUE<br>ペル　VAILLANTE | 上川生産農協連 |
| 〃（輸） | コブー | ペル | H10.<br>6.5 | ペル　GLAMOUR<br>ペル　CHIC PRINCES | 十勝牧場 |
| 13 年度 | タカラゼンシン | 半血 | H2.<br>4.13 | 半血　ゼンシン<br>半血　春姫 | 釧路農協連 |
| 〃 | タカラホウショウ | 半血 | H5.<br>1.17 | 半血　ホウショウリキ<br>半血　ジュリエットニセイ | 根室生産農協連 |
| 〃 | ウメノセイウン | 半血 | H8.<br>4.16 | ペル　タケシ<br>半血　タミヒメ | 上川生産農協連 |
| 〃 | ヒロノフウジン | 半血 | H4.<br>4.15 | 半血　アサヒキロク<br>半血　松栄 | 釧路農協連 |
| 14 年度 | アキバオーショウ | 半血 | H4.<br>4.15 | 半血　アオヤマトップ<br>半血　梅宝 | 十勝農協連 |
| 〃 | マルミフロンティア | 半血 | H7.<br>4.16 | 半血　ニュウフロンテア<br>半血　隼姫 | 根室生産農協連 |
| 〃 | ダイヤタイショウ | ペル系 | H5.<br>2.16 | 半血　アトランター<br>ペル　白栄 | ホクレン函館支所 |
| 〃 | リュウセイライオン | 半血 | H5.<br>3.26 | 半血　グレートパンサー<br>半血　タカノヒメリュー | ホクレン北見支所 |
| 〃 | ニュートリノ | 半血 | H4.<br>4.4 | 半血　カゲオー<br>ペル系　アイドル | 釧路農協連 |
| 〃（輸） | ラブリー・ド・レトワール | ブル | H11<br>6.3 | ブル　GAMIN<br>ブル　BELLE DE NUITS | 十勝牧場 |
| 〃（輸） | メネシス・ドュ・ムーラン | ペル | H12<br>4.10 | ペル　HAUDITEUR DU GUE<br>ペル　GENIALE | 上川生産農協連 |
| 15 年度 | ウンカイ | 半血 | H6.<br>3.10 | 半血　マツノコトブキ<br>半血　ミハル | 十勝農協連 |
| 〃 | ヴィクトリーベガ | 半血 | H10.<br>5.5 | 半血　エビスタイショウ<br>ベルジ　サリー | 上川生産農協連 |
| 〃 | スペシャルワンダー | 半血 | H10.<br>3.25 | 半血　マルミキンザン<br>半血　真鯉 | ホクレン函館支所 |
| 〃 | サロマオーカン | 半血 | H5.<br>3.5 | 半血　フジノパワー<br>半血　宝姫 | ホクレン北見支所 |
| 〃 | ダイジャー | 半血 | H7.<br>4.22 | 半血　ダイヤテンリュウ<br>半血　睦姫 | ホクレン苫小牧支所 |
| 16 年度 | マルニエーカン | 半血 | H7.<br>4.19 | 半血　ダイヤテンリュウ<br>半血　カミホロレディ | ホクレン函館支所 |
| 〃 | タカラエンジュ | 半血 | H6.<br>3.28 | 半血　オーカン<br>半血　ハヤホマレ | 上川生産農協連 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 〃 | ヨシノタロウ | 半血 | H6.<br>4.5 | 半血　キングスター<br>半血　勝姫 | ホクレン北見支所 |
| 〃（輸） | ネスタードカリュー | ブル | H13.<br>5.14 | ブル　DAKAR<br>ブル　JAV LABOUR | 十勝牧場 |
| 17 年度 | サンデーブライアン | 半血 | H8.<br>4.30 | 半血　オーカン<br>半血　ハヤホマレヒメ | 十勝農協連 |
| 〃 | ヤマノキャプテン | 半血 | H7.<br>3.14 | 半血　マツノコトブキ<br>半血　パワーハヤテ | ホクレン岩見沢支所 |
| 18 年度 | キタノスサノオ | 半血 | H8.<br>4.29 | 半血　キタノハヤブサ<br>半血　芳梅 | 上川生産農協連 |
| 〃 | ヒカルセンプー | 半血 | H9.<br>4.15 | 半血　ヒカルテンリュウ<br>半血　オリュウ | ホクレン稚内支所 |
| 19 年度 | エビスオウジャ | 半血 | H9.<br>4.20 | ベルジ　マルゼンバージ<br>半血　風鈴の一 | 釧路農協連 |
| 〃 | タカラボーイ | 半血 | H9.<br>3.8 | 半血　タカラヒカル<br>半血　ハツヒメ | ホクレン倶知安支所 |
| 20 年度 | シンザンウィーク | 半血 | H11.<br>4.6 | 半血　シンザンボシ<br>半血　キタノフクヒメ | 釧路農協連 |
| 〃 | キョクシンオー | 半血 | H10.<br>4.28 | 半血　トカチリュウ<br>半血　タカラチハル | 上川生産農協連 |

## 表２・４　センター有種雄馬配置年表

| 配置年度 | 品種別 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | ブルトン | | | ペルシュロン等 | | |
| | 馬　名 | 血　統<br>父<br>母 | 配　置　先 | 馬　名 | 血　統<br>父<br>母 | 配　置　先 |
| 平成十一年度 | 電鳥 | ウラヌス<br>鴻輓 | 岩手県<br>九戸畜産農協 | 懸蔵 | ファニオン<br>財勝 | 北海道<br>根室生産農協連 |
| | 斬励 | ダルタニアン<br>勉雪 | 熊本県<br>熊本県畜産農協 | 蘭藍 | フランブール<br>青麦 | 北海道<br>釧路農協連 |
| | 電雲 | ウラヌス<br>空納 | 北海道<br>日高生産農協連 | 釧鉄 | 栄秀<br>鍛克 | 北海道<br>根室生産農協連 |
| | 電快 | ウラヌス<br>壮輓 | 北海道<br>上川生産農協連 | 賢双<br>（ア） | グレイスコーサー<br>シヤムジヤリガナ | 北海道<br>根釧乗用馬生産振 |
| | 電水 | ウラヌス<br>長源 | 熊本県<br>熊本県畜産農協 | | | |
| | 凱殿 | ファンシュ<br>勇砲 | 沖縄県<br>石垣農用馬生産組 | | | |
| 平成十二年度 | 鋭端 | ダルタニアン<br>毫臣 | 北海道<br>根室生産農協連 | 萬生 | 厚蛮<br>協太 | 北海道<br>ホクレン岩見沢支所 |
| | 伯霧 | ファンシュ<br>雲蒼 | 岩手県<br>盛岡畜産農協 | 倫福 | ファニオン<br>裕地 | 長崎県<br>島原市農協 |
| | 伯雲 | ファンシュ<br>空納 | 熊本県<br>熊本県畜産農協 | 遠印 | フランブール<br>刻明 | 北海道<br>根室生産農協連 |
| | | | | 遠命 | フランブール<br>長再 | 青森県<br>田名部畜産農協 |
| | | | | 賢双の二<br>（ア） | グレイスコーサー<br>シヤムジヤリガナ | 北海道<br>十勝乗用馬生産組 |
| 平成十三年度 | 星励 | ウラヌス<br>勉雲 | 北海道<br>十勝農協連 | 欧寳 | フランブール<br>財肖 | 北海道<br>十勝農協連 |
| | 槍矢 | ダルタニアン<br>弓玄 | 岩手県<br>新岩手農協 | 欧寛 | フランブール<br>勧愛 | 北海道<br>釧路農協連 |
| | 槍葉 | ダルタニアン<br>渓成 | 宮崎県<br>都城農協 | 賢美<br>（ア） | グレイスコーサー<br>ヌビアノティアック | 沖縄県<br>沖縄農用馬生産振 |
| | 殊気 | ファンシュ<br>勇菜 | 島根県<br>隠岐どうぜん農協 | | | |
| | フアンシュ | SIROCCO<br>QUINE | 北海道<br>根室生産農協連 | | | |
| 平成一四年度 | 仏強 | ファンシュ<br>勉昴 | 青森県<br>田名部畜産農協 | 論熔 | フランブール<br>輝頂 | 北海道<br>根室生産農協連 |
| | 仏様 | ファンシュ<br>神源 | 岩手県<br>九戸農協 | 論容 | フランブール<br>寛桐 | 岩手県<br>遠野畜産振興公社 |
| | 王城 | オヌール<br>殿源 | 岩手県<br>安比高原組合 | 論淨 | フランブール<br>清舞 | 青森県<br>田名部畜産農協 |
| | 仏栗 | ファンシュ<br>花嶺 | 宮崎県<br>小林農協 | | | |
| 平成十五年度 | 米業 | ファンシュ<br>家剣 | 熊本県<br>熊本県畜産農協 | 尚祭 | 武潮<br>祝釧 | 北海道<br>根室生産農協連 |
| | 泰閃 | オヌール<br>光陽 | 宮崎県<br>都城農協 | 管同 | フランブール<br>協懸 | 北海道<br>釧路農協連 |
| | 泰水 | オヌール<br>鳥源 | 長崎県<br>島原雲仙農協 | 尚駕 | 武潮<br>雅釧 | 青森県<br>三戸畜産農協 |
| | 泰栗 | オヌール<br>花嶺 | 島根県<br>隠岐どうぜん農協 | 輪良 | 倫福<br>善蘭 | 北海道<br>上川生産農協連 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 平成十六年度 | 影鷲 | オヌール<br>禿陽 | 熊本県<br>熊本県畜産農協 | 山藍 | フランブール<br>青麦 | 北海道<br>ホクレン岩見沢支所 |
| | 影凰 | オヌール<br>雲剣 | 北海道<br>日高生産農協連 | 篤沖 | コブー<br>海桐 | 青森県<br>田名部畜産農協 |
| | 影学 | オヌール<br>勉斬 | 熊本県<br>熊本県畜産農協 | 大裕 | 大麒麟<br>幕西 | 北海道<br>根室生産農協連 |
| | 影蓮 | オヌール<br>束槍 | 岩手県<br>岩手ふるさと農協 | | | |
| | 昆鷹 | 星励<br>翼剣 | 岩手県<br>九戸畜産農協 | | | |
| | 昆亀 | 星励<br>鶴才 | 宮崎県<br>都城農協 | | | |
| 平成十七年度 | 琉凰 | オヌール<br>雲剣 | 岩手県<br>盛岡畜産農協 | 爵宮 | フランブール<br>雅桐 | 岩手県<br>盛岡畜産農協 |
| | 琉兵 | オヌール<br>殿天 | 北海道<br>上川生産農協連 | 爵藍 | フランブール<br>青麦 | 北海道<br>根室生産農協連 |
| | 鉾元 | 槍参<br>気峰 | 熊本県<br>熊本県畜産農協 | 爵祭 | フランブール<br>祝釧 | 北海道<br>釧路農協連 |
| | 鉾亀 | 槍参<br>鶴才 | 熊本県<br>熊本県畜産農協 | 験福 | コブー<br>裕地 | 北海道<br>根室生産農協連 |
| | 鉾甘 | 槍参<br>芳幸 | 岩手県<br>九戸畜産農協 | | | |
| 平成十八年度 | 玷将 | オヌール<br>校斬 | 北海道<br>釧路農協連 | 騅錦 | コブー<br>燃論 | 北海道<br>根室生産農協連 |
| | 玷兵 | オヌール<br>殿天 | 熊本県<br>熊本県畜産農協 | 騅協 | コブー<br>会翔 | 北海道<br>ホクレン岩見沢支所 |
| | 蝶登 | ラブリー・ド・レトワール<br>谷鋭 | 岩手県<br>盛岡畜産農協 | 騅駕 | コブー<br>雅釧 | 北海道<br>釧路農協連 |
| | 蝶飛 | ラブリー・ド・レトワール<br>翼凌 | 熊本県<br>熊本県畜産農協 | | | |
| | 蝶学 | ラブリー・ド・レトワール<br>勉斬 | 岩手県<br>遠野市畜産振興公社 | | | |
| 平成十九年度 | 球軍 | オヌール<br>将仏 | 宮崎県<br>こばやし農協 | 士令 | 大裕<br>命踊 | 北海道<br>十勝農協連 |
| | 鋒分 | 槍参<br>校殊 | 北海道<br>十勝農協連 | 驚生 | コブー<br>協太 | 北海道<br>根室生産農協連 |
| | 律詣 | ラブリー・ド・レトワール<br>参及 | 宮崎県<br>都城農協 | 驚錦 | コブー<br>燃論 | 熊本県<br>熊本県畜産農協 |
| | 律鷹 | ラブリー・ド・レトワール<br>翼剣 | 熊本県<br>熊本県畜産農協 | グレイスコーサー(ア) | イブンギャラルニノニ<br>イブンギャライチノロク | 北海道<br>日本純血アラブ馬協会 |
| | 律霧 | ラブリー・ド・レトワール<br>雲槍 | 岩手県<br>九戸畜産農協 | 慧艶<br>(ア) | グレイスコーサー<br>双苑 | 山梨県<br>県馬事振興センター |
| 平成二十年度 | 鐘畔 | 槍参<br>範雪 | 北海道<br>上川生産農協連 | 策熔 | コブー<br>輝頂 | 北海道<br>釧路農協連 |
| | 蜃文 | ラブリー・ド・レトワール<br>校伯 | 熊本県<br>熊本県畜産農協 | | | |
| | 蜃健 | ラブリー・ド・レトワール<br>健槍 | 北海道<br>ホクレン岩見沢支所 | | | |
| | 笠包 | ネスタードカリュー<br>束影 | 北海道<br>日高生産農協連 | | | |
| | 笠学 | ネスタードカリュー<br>勉斬 | 熊本県<br>熊本県畜産農協 | | | |

## 表２・５　乗用種雄馬配置年表

| 配置年度（平成） | 馬　　名 | 借受等内容 | 品　　種 | 生年月日 | 血統　父<br>母 | 配　置　先 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 十年度 | 苑美 | センター借受 | アラブ | H8 | バーディー<br>ヌビアデノティアツク | 山梨県<br>県馬事振興センター |
| | マイクジュニア | 〃 | ハーフ | H7<br>5.14 | ステックパンクト<br>マイク | 北海道<br>十勝乗用馬生産振興会 |
| 十一年度 | 賢双 | 〃 | アラブ | H9<br>5.3 | グレイスコーサー<br>シャムジャリカ | 北海道<br>根釧乗用馬生産育成振興会 |
| | フロドラジェルベーズ | JRA 寄贈 | セル・フランセ | H5<br>5.11 | QRDO DE PAULSTRA<br>VENISE DU THOT | 岩手県<br>遠野市畜産振興公社 |
| 十二年度 | マデクシー | JRA 寄贈 | ハノーバー | H7<br>4.15 | MATULA<br>DIXIE | 北海道<br>根釧乗用馬生産育成振興会 |
| | 賢双の二 | センター借受 | アラブ | H10<br>4.27 | グレイスコーサー<br>シャムジャリカ | 北海道<br>十勝乗用馬生産振興会 |
| 十三年度 | フリーデンスラート | JRA 助成 | | H8<br>5.9 | FERRAGAMO<br>DANCING GIRL | 岩手県<br>遠野市畜産振興公社 |
| | 賢美 | センター借受 | アラブ | H11<br>4.27 | グレイスコーサー<br>ヌビアデノティアツク | 沖縄県<br>沖縄農用馬生産振興会 |
| 十四年度 | オオヒエイ | 日本軽種馬協会寄贈 | アングロアラブ | S61<br>5.20 | キタノトウザン<br>ヒダカトップレディ | 北海道<br>道北乗用馬生産振興会 |
| | | | | | | |
| 十七年度 | フルーロンドベルサック | 日本軽種馬協会寄贈 | アングロアラブ | H8<br>1.10 | DONALD DUCK<br>BELLE DE BERSAC | 北海道<br>十勝乗用馬生産振興会 |
| | | | | | | |
| 十九年度 | グレイスコーサー | センター借受 | アラブ | H4<br>5.25 | イブンギャラルニノニ<br>イブンギャラルイチノロク | 北海道<br>日本純血アラブ馬協会 |
| | ケイエン | センター借受 | アラブ | H16<br>5.23 | グレイスコーサー<br>ソウエン | 山梨県<br>県馬事振興センター |
| | アルバ | 東京大学借受 | クリオージョ | H18<br>5.19 | カチョロ<br>ロフィータ | 北海道<br>はまなす乗用馬生産組合 |
| 二十年度 | ハルコン　デ　ラパラ | JRA 寄贈 | アンダルシアン | H3<br>4.2 | DEJADO<br>QUISQUILLOSA | 山梨県<br>県馬事振興センター |
| | ヴィクトーシモ | JRA 助成 | 日本スポーツホース | H20<br>10.21 | ヴァリシモ<br>ヴイクト・アール５ | 岩手県<br>遠野市畜産振興公社 |

## 表２・６　乗用種雌馬配置年表

| 配置年度（平成） | 馬　　名 | 借受等内容 | 品　　種 | 生年月日 | 血統　　父<br>母 | 配　置　先 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 十年度 | ジェルランド | JRA 助成 | セル・フランセ | H6<br>4.13 | AMI DE LA FOSSE<br>IMPERATRICE | 岩手県<br>遠野市乗用馬生産組合 |
| | ガミンヌ　ルージュ | JRA 助成 | セル・フランセ | H6<br>4.27 | PAPILLON ROUGE<br>AMETHYSTE DE BROIN | 岩手県<br>遠野市乗用馬生産組合 |
| | イースター　ドロドン | JRA 助成 | セル・フランセ | H4<br>5.10 | SOCRATE DE CHIVRE<br>JABOTTE | 北海道<br>十勝乗用馬生産振興会 |
| | ユメミタカ | JRA 寄贈 | 半血種（乗系） | H8<br>3.30 | ヨドノチカラ<br>グレースタガミ | 北海道<br>十勝乗用馬生産振興会 |
| 十一年度 | ロゼッタ | JRA 寄贈 | 半血種（乗系） | S59<br>4.14 | ERLKOENIG<br>STJERNE | 北海道<br>根釧乗用馬生産育成振興会 |
| | フルミ　ドゥリュス | JRA 助成 | セル・フランセ | H5<br>5.16 | TENOR DE CONDE<br>VALSE DE MEAUTIS | 北海道<br>根釧乗用馬生産育成振興会 |
| | ドリア　ラ　ルージュ | JRA 助成 | セル・フランセ | H3<br>4.11 | PAPILLON ROUGE<br>CASSETTE D’OR | 北海道<br>根釧乗用馬生産育成振興会 |
| | エクサラ　ドゥソセー | JRA 助成 | セル・フランセ | H4<br>5.11 | SIOUX DE BAUGY<br>GRISY DU BOIS | 岩手県<br>遠野市乗用馬生産組合 |
| | エロイーズ　ドゥ　ラソレ | JRA 助成 | セル・フランセ | H4<br>4.3 | JASMIN<br>PIE DE LA SORET | 岩手県<br>遠野市乗用馬生産組合 |
| 十二年度 | 第６アマベル | JRA 寄贈 | セル・フランセ | H3<br>5.7 | ビュルボダルトアール<br>グランドベール | 岩手県<br>遠野市乗用馬生産組合 |
| | エルマⅢ | JRA 助成 | セル・フランセ | H4<br>3.30 | PAGE DE PAULSTRA<br>QUALMA | 岩手県<br>遠野市乗用馬生産組合 |
| | アズルカ　ルージュ | JRA 助成 | セル・フランセ | H7<br>4.22 | VERT ET ROUGE<br>MASURCA DU CHESNAY | 北海道<br>十勝乗用馬生産振興会 |
| | アイカ　デュテール | JRA 助成 | セル・フランセ | H7<br>4.19 | QREDO DE PAULSTRA<br>INIERBELLE | 北海道<br>十勝乗用馬生産振興会 |
| | ヒロイン　デシェーヌ | JRA 助成 | セル・フランセ | H7<br>5.26 | BACUS DE NOUVOLIEU<br>DOUCE DES CHENES | 岩手県<br>遠野市乗用馬生産組合 |
| | カウントチャイナダハール | JRA 寄贈 | アラブ | S63<br>3.10 | COUNT GALAGOR<br>SILVER DAHL | 北海道<br>日本純血アラブ馬協会 |
| 十五年度 | パーンリッヒ | JRA 寄贈 | ウエストファーレン | H5<br>5.15 | パンサー<br>リヒーナ | 岩手県<br>遠野市乗用馬生産組合 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| 十六年度 | ピガール | JRA 寄贈 | ベルギー温血種 | H4<br>5.5 | VELCOME FONTAINE<br>FLEUR | 岩手県<br>遠野市乗用馬生産組合 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 十七年度 | ミランドラ | JRA 寄贈 | KWPN | H6<br>4.16 | BRUIN<br>IRANDRA | 岩手県<br>遠野市乗用馬生産組合 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| 十九年度 | ダイヤモンドレイン | JRA 寄贈 | 個体識別証明 | | 不詳<br>不詳 | 岩手県<br>遠野市乗用馬生産組合 |
| | スラートマリー | JRA 助成 | セル・フランセ | H17<br>4.27 | フリーデンスラート<br>スタークイン | 岩手県<br>遠野市乗用馬生産組合 |
| | ビケン | センター借受 | アラブ | H9<br>5.28 | グレイスコーサー<br>ヌビアデノテイアック | 北海道<br>日本純血アラブ馬協会 |
| | ブリザ | 東京大学借受 | クリオージョ | H18<br>5.3 | パトロンシート<br>ペルラ | 北海道<br>はまなす乗用馬生産組合 |
| 二十年度 | グレイスグレイ | JRA 寄贈 | 半血種（乗系） | H12<br>5.13 | グレイスコーサー<br>ユメミタカ | 岩手県<br>遠野市乗用馬生産組合 |
| | ココシャネル | JRA 寄贈 | ベルギー温血種 | H14<br>7.12 | SHEYN NE DE BAUGY<br>OKE | 岩手県<br>遠野市乗用馬生産組合 |
| | ロサリンダ | JRA 寄贈 | KWPN | H10<br>3.18 | LENNARD<br>HARINDA | 岩手県<br>遠野市乗用馬生産組合 |
| | ケルビナ | JRA 寄贈 | 個体識別証明 | H5 | 不詳<br>不詳 | 岩手県<br>遠野市乗用馬生産組合 |
| | リンダ | JRA 寄贈 | KWPN | H5<br>6.21 | GOOD TIME<br>HIDE | 岩手県<br>遠野市乗用馬生産組合 |

# 日本の在来馬

北海道和種馬

木曽馬

野間馬

対州馬

御崎馬

トカラ馬

宮古馬

与那国馬

# 生産指導と技術者の養成

繁殖・生産技術の向上が課題

ドイツでの擬牝台による採精研修

馬産農家の巡回指導

# 優良農用馬の生産者等を表彰

ばんえい競走馬の馬主、調教師、騎手らが一同に会し生産者を励ます祝賀会場

平成10年度から始まった優良農用馬生産者等の表彰

ばんえい競走で最大の難関、第２障害に挑む

# 馬と文化

はねあげた泥しぶきがかかると病気にならないと平安時代から続くという奇祭「御田祭」（宮崎県美郷町）

日頃の馬の労苦に感謝し、無病息災を祈る「チャグチャグ馬コ」（岩手県盛岡地方）

３～15歳までの少年が乗り子になる賀茂神社の「お供馬」（愛媛県今治市菊間町）

年々盛んになる流鏑馬

五色の「花」を背負った花馬が登場する「木曽の花馬」（長野県南木曽町）

# Ⅲ 馬産に対する新たな取り組み

馬産に対する取り組みは、従来から地方競馬全国協会及び日本中央競馬会の補助金（助成金）により事業を展開してきたが、平成 14 年度からは、新たに財団法人全国競馬・畜産振興会からの助成金による事業にも取り組んでいる。

その事業概況は、次の通りである。

## 1. 畜産振興対策支援事業（乗用馬生産振興・普及推進事業）

我が国の乗用馬の生産は、北海道の十勝、根室地域や岩手の遠野地域において行われているが、取り組み体制は必ずしも十分なものではなく、関係機関の連携を一層強化し、全国的な視点から推進することが必要となってきた。

このため、乗用馬の生産推進会議の開催、計画交配の指導、生産技術向上に関する調査研究及び巡回指導等を実施し、今後の乗用馬生産指針を策定した。

### (1) 事業実施期間 : 平成 14 年度～18 年度

### (2) 事業実施の概要

①乗用馬生産振興推進会議の開催

乗用馬生産者、馬生産関係団体の職員等をもって構成する推進会議を開催し、効率的な生産のあり方について調査・分析課題等の検討を行った。（これにより別添 59 ページ「乗用馬生産振興対策事業報告書」を取りまとめた）。

②技術情報等の調査・分析等事業

乗用馬の効率的な生産技術等のあり方についての調査・分析及び取りまとめを行った。

③技術情報等の普及・啓発事業

乗用馬生産関係団体等を対象に、②で取りまとめた技術情報等の提供を行うとともに、技術研修会の開催及び巡回指導を行った。

## 2. 家畜等繁殖・生産技術向上対策事業（馬繁殖性改善緊急対策事業）

我が国の農用馬等の生産は、自然交配を中心に行われてきたが、飼養者の高齢化等に伴い、技術の伝承が十分に行えない状況となっており、その見直しが必要となっていた。

このため、凍結精液による人工授精を普及し、少数の優良種雄馬による改良及び安定した馬産経営を推進する必要があった。こうした状況の下、モデル地区（3 地区）において、凍結精液を用いた人工授精の実施体制の整備を図るとともに、凍結精液の製造・保管及び凍結精液の輸入を行うこととしていたが、精液の輸入については輸出国との衛生条件の締結ができなかったため、未実施に終わった。

### (1) 事業実施期間 : 平成 17 年度～平成 19 年度

### (2) 事業実施の概要

①優良精液利用促進委員会の開催

学識経験者等からなる優良精液利用促進委員会を開催し、人工授精の普及を効率的に推進するための方策を検討した。

②優良精液の確保

国内の優良種雄馬の精液の製造、保管は計画通り実施した。なお、フランスからの精液の輸入は、衛生条件について合意に至らなかったことから、実施することができなかった。

③凍結精液の供給

モデル地区（(社）遠野市畜産振興公社、(財）山梨県馬事振興センター及び熊本県畜産農業協同組合阿蘇支所）において技術者養成のための講習会を開催するとともに、人工授精のための器具・機材を整備した。

また、当地において凍結精液の製造及び人工授精の技術移転を行った。

## 3. 家畜生産技術向上等特別対策事業（馬生産技術向上推進事業）

我が国における馬の生産については、生産者の高齢化、馬産地における指導的生産者の減少により、生産、衛生管理等の伝承が困難な状況となっている。

一方、馬の新たな用途としてホーストレッキング、エンデュランス、ホースセラピー等多様化しているものの、それらの用途に応じた馬の生産技術が未成熟な状況にある。

そこで、馬の用途拡大に資するための生産体制を整備する事業を実施することにした。

**(1) 事業実施期間：平成 19 年度～平成 21 年度**

**(2) 事業実施の概要**

①馬生産技術向上推進委員会及び生産・衛生管理技術向上等専門委員会の開催

学識経験者等からなる推進委員会を開催し、事業の効率的な実施方針を検討するとともに、馬産地における課題の把握及び生産技術等の向上に関する検討を行っている。

②馬生産技術向上指導事業

イ．馬の生産技術及び衛生管理技術向上研修会の開催

生産現場における指導者の技術向上を図るため、農協職員、獣医師等を対象とした生産、衛生管理技術向上研修会を開催する。

ロ．人工授精の普及

馬の人工授精師を確保するため、家畜人工授精講習会を 3ヶ所で開催するとともに、馬産地における人工授精の拠点として、農業協同組合等が整備する凍結精液の保管等に必要な器具・機材の導入を支援する。

また、海外における凍結精液の品質、供給体制等の実態を調査するとともに、海外における優良種雄馬の精液の輸入を行う。

③馬事知識普及啓発事業

馬の生産に係る新たな担い手を確保するため、馬事知識普及啓発公開セミナーを開催するとともに、平成 19 年度にはセミナーで使用するテキストを作成した。

## 4．大家畜生産技術向上対策事業（馬繁殖性向上対策事業）

我が国の畜産をめぐる情勢は、世界的な飼料価格の高騰や激化する国際競争に対応するために、より効率的な経営が強く求められている状況にあるものの、馬については、飼養者の高齢化等に伴い自然交配が困難になってきていることから、人工授精の普及を図っているところであるが、特に馬は牛等に比べて凍結精液による受胎率が低く、その改善が課題となっている。また、国内には、擬牝台を活用した採精手法が無いことから、早急な導入を行う必要がある。

このため、平成 20 年度より下記のとおり事業を実施している。

## (1) 事業実施期間：平成 20 年度～平成 22 年度

## (2) 事業実施の概要

①馬繁殖技術向上対策委員会開催等事業

学識経験者等からなる馬繁殖技術向上対策委員会を開催し、馬精液の濃縮方法の開発等事業の効率的な実施方策の検討及び具体的な改善方法の取りまとめ等を行う。

②馬繁殖技術向上対策事業

イ．馬精液濃縮技術開発

遠心分離方式に代わる新しい濃縮方式を検討し、開発を行う。

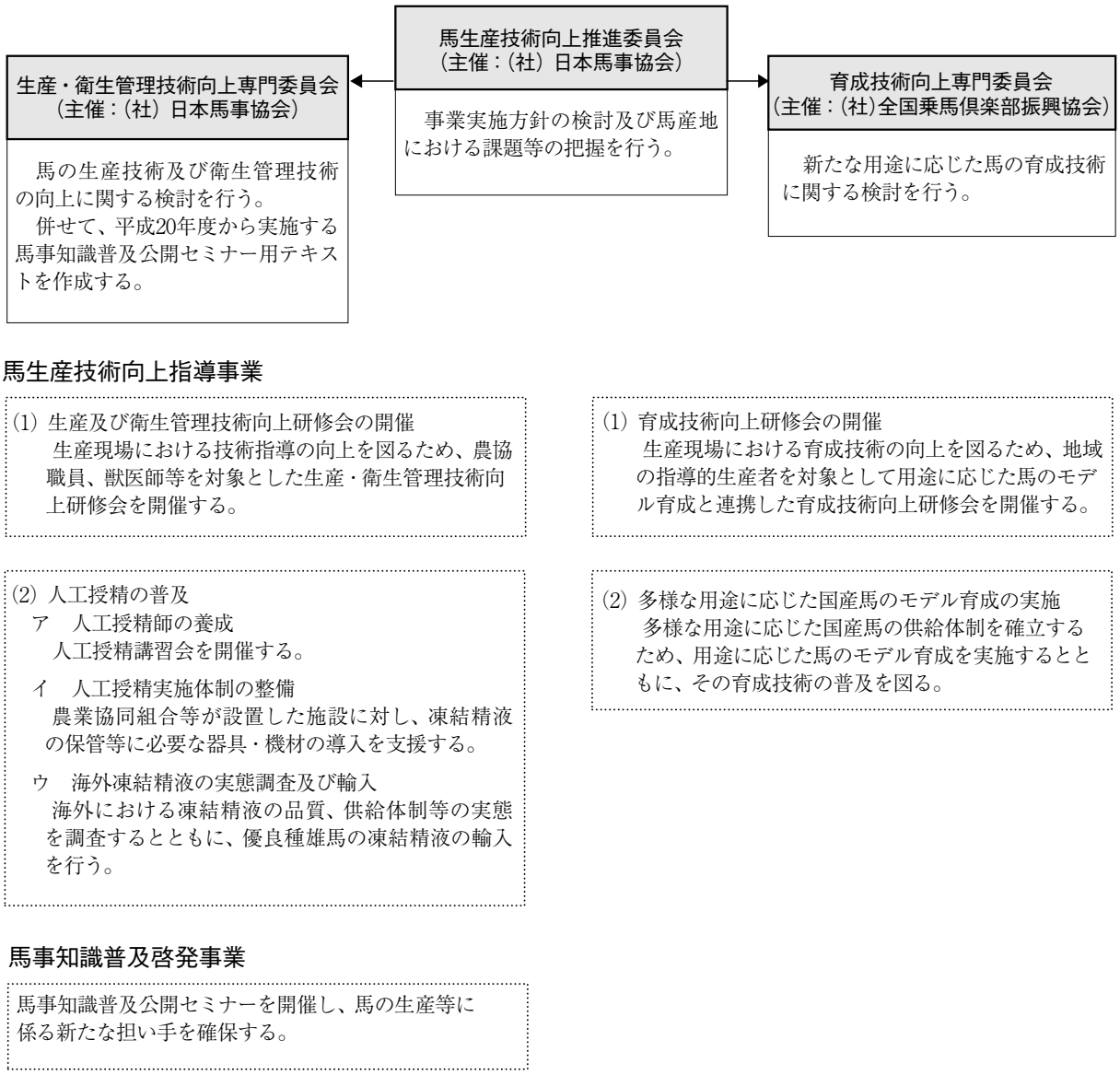
ロ．擬牝台の設置及び精液採取技術の習得・普及

海外において実施されている擬牝台による精液採取方法の調査及び採取技術の習得・研修を行う。また、周年採取体制を確立するため、遠野市畜産振興公社に擬牝台を設置するとともに、擬牝台による採取が行えるよう雄馬の調教方法を確立する。また、馬生産関係者を対象に、雄馬の調教技術、擬牝台による採取技術の習得を目的とした研修会を開催し、技術の普及を図る。

**表３・１　馬繁殖性改善緊急対策事業・馬生産技術向上推進事業及び大家畜繁殖性向上対策事業の比較**

| | 馬繁殖性改善緊急対策事業 | 馬生産技術向上推進事業 | 大家畜繁殖性向上対策事業 |
|---|---|---|---|
| 事業実施期間 | 平成17年度～ 19年度 | 平成19年度～ 21年度 | 平成20年度～ 22年度 |
| 委員会の開催 | 凍結精液による人工授精の普及を効率的に推進するための方策を検討 | 1. 事業実施方針の検討及び馬産地における課題等の把握<br>2. 馬の生産技術及び衛生管理技術の向上に関する検討<br>3. 馬事知識普及公開セミナー用テキストの作成 | 事業の効率的な実施方策の検討や開発結果等の検討・評価、具体的な改善方策の取り纏め |
| 優良精液の確保 | 1. 凍結精液の輸入（農用馬）<br>2. 国内優良種雄馬の精液の製造・保管 | 1. 海外における凍結精液の実態調査<br>2. 凍結精液の輸入（乗用馬） | |
| 講習会（研修会）の開催 | 技術者養成のための講習会の開催<br>（モデル地区：3地区）<br>農用馬：熊本県草地畜産研究所<br>乗用馬：(社)遠野市畜産振興公社<br>乗用馬：(財)山梨県馬事振興センター | 1. 生産・衛生管理技術向上研修会の開催（農協職員、獣医師を対象）<br>2. 家畜人工授精（馬）講習会（講座の開設） | |
| 人工授精実施体制の整備 | 凍結精液の保管のための器具機材の整備<br>（モデル地区：3地区）<br>農用馬：熊本県草地畜産研究所<br>乗用馬：(社) 遠野市畜産振興公社<br>乗用馬：(財)山梨県馬事振興センター | 凍結精液の保管のための器具・機材の整備<br>（農業協同組合等：年1箇所） | 1. 擬牝台の設置<br>2. 擬牝台による精液採取技術の習得<br>3. 擬牝台による精液採取馬の調教 |
| 馬事知識の普及 | | 馬事知識普及公開セミナーの開催　（20 ～ 21年度） | |
| 人工授精技術開発 | | | 1. 馬精液濃縮法の開発<br>2. 擬牝台による精液採取調教済種雄馬の導入 |

**図３・１　馬生産技術向上推進事業の概要図**




## 5. 馬の人工授精を推進

我が国における馬の生産をめぐる情勢として、生産者の高齢化、馬産地における指導的生産者の減少により、繁殖率の低下が危惧されてきている。日本馬事協会は、平成４年５月８日４畜Ａ第933号で農林水産省畜産局長より「家畜人工授精に関する講習会の開催者の指定」を受け、平成４年から平成20年の間５回にわたり人工授精講習会を開催した。

なお、この講習会により下記の受講者が資格試験に合格し、全国各地で活躍している。

**平成４年５月11日～６月２日**
**北海道　農林水産省家畜改良センター十勝牧場**

| | |
|---|---|
| 新田弘喜 | 岩手県 |
| 堂村　旭 | 宮崎県 |
| 川野義彦 | 宮崎県 |
| 永井和弘 | 北海道 |
| 大森保幸 | 北海道 |
| 岡　明男 | 北海道 |
| 下村義一 | 北海道 |
| 米山　光 | 北海道 |
| 和合宏泰 | 北海道 |

**平成14年６月17日～７月５日**
**北海道　農林水産省家畜改良センター十勝牧場**

| | |
|---|---|
| 石川大輔 | 北海道 |
| 小林英聡 | 北海道 |
| 熊谷将輝 | 岩手県 |
| 樋口敏則 | 北海道 |
| 辻本由美 | 北海道 |
| 石村裕久 | 北海道 |
| 中村　進 | 北海道 |
| 石田　誠 | 北海道 |
| 和合宏泰 | 北海道 |

**平成17年６月20日～７月８日**
**北海道（独）家畜改良センター十勝牧場**

| | |
|---|---|
| 加茂英恵 | 北海道 |
| 新津良明 | 北海道 |
| 荒川由紀子 | 北海道 |
| 山崎正人 | 北海道 |
| 高山征司 | 北海道 |
| 楊　文樹 | 北海道 |
| 間木野尚司 | 北海道 |
| 川又満幸 | 北海道 |
| 菅沼純一 | 北海道 |
| 菊地昌茂 | 岩手県 |
| 山下大輔 | 東京都 |
| 村岡博之 | 宮崎県 |

**平成19年７月31日～８月25日**
**熊本県（社）熊本県畜産協会及び熊本県畜産農業協同組合阿蘇支所**

| | |
|---|---|
| 鈴木弘二 | 宮城県 |
| 久保薗裕 | 鹿児島県 |
| 小倉裕樹 | 東京都 |
| 田中寛久 | 福岡県 |
| 竹原真理子 | 熊本県 |
| 園田淳二 | 熊本県 |
| 笹原憲治 | 熊本県 |
| 森本康文 | 熊本県 |
| 古閑靖将 | 熊本県 |

**平成20年７月22日～８月５日**
**岩手県（社）遠野市畜産振興公社**

| | |
|---|---|
| 佐々木　薫 | 千葉県 |
| 村上瑛摩 | 宮城県 |
| 冨井　進 | 北海道 |
| 舘澤直央 | 岩手県 |
| 太田幸一 | 岩手県 |
| 藤田久仁華 | 茨城県 |
| 堀切良明 | 岩手県 |

# 馬生産地における現状と課題

（平成 21 年 3 月 19 日、馬生産技術向上推進事業での「生産衛生管理技術向上専門委員会」提出資料からの抜粋）

## 1．農用馬

### (1) 農用馬の生産

農用馬は、ばんえい競走用、食肉用としての需要に支えられ、北海道を主産地として東北、九州等で生産されているが、次のようなことから生産率、生産頭数は年々減少傾向をたどっている。

※農用馬の地域別生産頭数の推移（資料１参照）

①中核となる馬生産技術者（獣医師、農協等の技術者）の引退等により、生産現場における生産及び衛生管理指導が充分に行われていない。

②農用馬の繁殖は、自然交配が主流であり、これまで種雄馬管理者が担ってきたが、近年、種雄馬管理者の高齢化と後継者不足により、これまでの巡回種付け、引き付けによる種付けが困難な状況にある。

③自然交配が主流であることから、優良種雄馬の利用効率が悪いこと。

※種雄馬１頭当たり種付け頭数の推移（資料２参照）

④馬凍結精液の受胎率は、他の家畜に比較して低い。

⑤ばんえい競馬の長期にわたる売得金の低迷により、馬主への報償金が削減され馬主の競走馬購買力が低下していること、ばんえい競馬場４場のうち３場が競馬開催を撤退

**資料１　農用馬の地域別生産頭数の推移**

（単位：頭、％）

| 地　域 | 平成10年 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 北海道 | 4,478<br>(85.5) | 4,327<br>(86.6) | 4,079<br>(86.8) | 3,546<br>(86.0) | 3,458<br>(88.5) | 3,341<br>(89.6) | 2,821<br>(89.2) | 2,395<br>(90.2) | 2,085<br>(90.3) | 1,930<br>(90.0) |
| 東　北 | 293<br>(5.0) | 281<br>(5.0) | 244<br>(5.0) | 236<br>(5.0) | 181<br>(4.0) | 159<br>(4.0) | 131<br>(4.0) | 117<br>(4.0) | 96<br>(4.0) | 91<br>(4.2) |
| 九　州 | 324<br>(6.0) | 263<br>(5.0) | 248<br>(5.0) | 237<br>(5.0) | 206<br>(5.0) | 169<br>(4.0) | 137<br>(4.0) | 104<br>-3 | 97<br>(4.0) | 85<br>(4.0) |
| その他 | 145<br>(2.0) | 127<br>(2.0) | 130<br>(2.0) | 102<br>(2.0) | 61<br>(1.0) | 61<br>(1.0) | 74<br>(2.0) | 39<br>(1.0) | 31<br>(1.0) | 41<br>(1.9) |
| 合　計 | 5,240<br>(100.0) | 4,998<br>(100.0) | 4,701<br>(100.0) | 4,121<br>(100.0) | 3,906<br>(100.0) | 3,730<br>(100.0) | 3,163<br>(100.0) | 2,655<br>(100.0) | 2,309<br>(100.0) | 2,147<br>(100.0) |

資料：農林水産省生産局畜産部畜産振興課「馬関係資料」

したことにより、農用馬の生産意欲が低下している。

⑥肥育素馬の輸入頭数が増大していること、しかも、国内生産馬に比較して低価格で輸入されていることもあり、生産意欲が低下してきている。

※食肉を目的とした馬の輸入頭数の推移（資料３参照）

## (2) 農用馬の改良

農用馬の改良は、国の家畜改良増殖目標に沿って、ブルトン、ペルシュロン及びベルジアンの輸入により，粗飼料の利用性の向上、けん引能力の向上，産肉量の増大等を図って

**資料２　種雄馬１頭当たり種付け頭数の推移**

（単位：頭）

| 種類 | 区分 | 平成16年 | | | 平成17年 | | | 平成18年 | | | 平成19年 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 種雄馬頭数 | 種付雌馬頭数 | 種雄馬1頭当り種付頭数 | 種雄馬頭数 | 種付雌馬頭数 | 種雄馬1頭当り種付頭数 | 種雄馬頭数 | 種付雌馬頭数 | 種雄馬1頭当り種付頭数 | 種雄馬頭数 | 種付雌馬頭数 | 種雄馬1頭当り種付頭数 |
| 輓系馬 | センター有 | 52 | 586 | 11.3 | 61 | 582 | 9.5 | 46 | 631 | 13.7 | 47 | 560 | 11.9 |
| | 会　有 | 46 | 842 | 18.3 | 44 | 897 | 20.4 | 37 | 748 | 20.2 | 32 | 700 | 21.9 |
| | 民　間 | 284 | 3,885 | 13.7 | 258 | 3,364 | 13.0 | 207 | 3,044 | 14.7 | 162 | 2,572 | 15.9 |
| | 計 | 382 | 5,313 | 13.9 | 363 | 4,843 | 13.3 | 290 | 4,423 | 15.3 | 241 | 3,832 | 15.9 |
| 乗用馬 | センター有 | 4 | 19 | 4.8 | 1 | 2 | 2.0 | 1 | 1 | 1.0 | 3 | 15 | 3.0 |
| | 会　有 | 5 | 62 | 12.4 | 6 | 73 | 12.2 | 5 | 65 | 13.0 | 4 | 61 | 15.3 |
| | 民　間 | 34 | 215 | 6.3 | 39 | 289 | 7.4 | 36 | 240 | 6.7 | 31 | 225 | 7.3 |
| | 計 | 43 | 296 | 6.9 | 46 | 364 | 7.9 | 42 | 306 | 7.3 | 38 | 301 | 7.9 |
| 在来馬 | センター有 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 会　有 | 8 | 65 | 8.1 | 8 | 51 | 6.4 | 6 | 42 | 7.0 | 6 | 54 | 9.0 |
| | 民　間 | 75 | 659 | 8.8 | 57 | 526 | 9.2 | 42 | 492 | 11.7 | 44 | 516 | 11.7 |
| | 計 | 83 | 724 | 8.7 | 65 | 577 | 8.9 | 48 | 534 | 11.1 | 50 | 570 | 11.4 |
| 小格馬 | センター有 | 0 | 0 | 0 | 1 | 4 | 4.0 | 1 | 4 | 4.0 | 2 | 16 | 8.0 |
| | 会　有 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 民　間 | 130 | 653 | 5.0 | 114 | 653 | 5.7 | 95 | 596 | 6.3 | 84 | 550 | 6.5 |
| | 計 | 130 | 653 | 5.0 | 115 | 657 | 4.9 | 96 | 600 | 6.3 | 86 | 566 | 6.6 |

注）種雄馬１頭当たりの種付頭数には、人工授精による種付けを含んでいる。

**資料３　食肉を目的とした馬の輸入頭数の推移**

（単位：頭）

| 輸入先 | 平成10年度 | 11年度 | 12年度 | 13年度 | 14年度 | 15年度 | 16年度 | 17年度 | 18年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| アメリカ | 1,288 | 2,057 | 2,062 | 2,241 | 2,158 | 1,297 | 199 | 0 | 0 |
| カナダ | 917 | 1,703 | 2,200 | 1,784 | 2,031 | 2,432 | 4,949 | 5,492 | 5,215 |
| 計 | 2,205 | 3,760 | 4,262 | 4,025 | 4,189 | 3,729 | 5,148 | 5,492 | 5,215 |

資料：農林水産省生産局畜産部畜産振興課「馬関係資料」

きたが、現在、飼養されている繁殖雌馬は、ブルトン、ペルシュロン、ベルジアン等の交雑種が殆どであり、交雑種同士の繁殖が続くと能力が低下するともいわれている。

一方、ブルトン、ペルシュロンの純粋種の生産は、（独）家畜改良センター十勝牧場で行われ、主要な農用馬生産地に配置されているが、新たな系統の種雄馬の導入が少なく、十勝牧場が農用馬生産地に配置する候補種雄馬及び種畜譲渡馬（雌）は、近交係数が高まり、配置先においても十勝牧場の系統馬が主体であり配合に苦慮している。

※農用繁殖用馬の品種別輸入頭数の推移（資料４参照）

**資料４　農用繁殖用馬の品種別輸入頭数の推移**

（単位：頭）

| 品　　種 | 性 | 昭47～51 | 昭52～56 | 昭57～61 | 昭62～平3 | 平4～8 | 平9～13 | 平14～18 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ペルシュロン | 雄 | 10 | 5 | 8 | 6 | 13 | 5 | 1 |
| | 雌 | 3 | 259 | 0 | 242 | 29 | 0 | 0 |
| ブルトン | 雄 | 3 | 3 | 5 | 9 | 6 | 1 | 2 |
| | 雌 | 0 | 121 | 16 | 177 | 18 | 0 | 0 |
| ベルジアン | 雄 | 4 | 10 | 0 | 12 | 5 | 0 | 0 |
| | 雌 | 2 | 164 | 0 | 624 | 29 | 0 | 0 |
| クライズデール | 雄 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| | 雌 | 4 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| アルデンネ | 雄 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 雌 | 0 | 29 | 6 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| アングロノルマン | 雄 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 雌 | 0 | 1 | 6 | 2 | 0 | 0 | 0 |
| その他 | 雄 | 0 | 0 | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 |
| | 雌 | 0 | 164 | 0 | 37 | 0 | 0 | 0 |
| 計 | 雄 | 18 | 18 | 16 | 30 | 24 | 6 | 3 |
| | 雌 | 9 | 738 | 79 | 1,089 | 76 | 0 | 0 |

資料：農林水産省生産局畜産部畜産振興課「馬関係資料」

## 2. 乗用馬

### (1) 乗用馬の生産と改良

乗用馬の生産は、北海道十勝、根釧及び岩手県遠野地域等を中心に行われており、これらの繁殖基礎馬は、セル・フランセ、アングロアラブ、サラブレッド等である。

近年、レジャーの多様化等を背景として、乗馬施設、乗馬人口の増加、ホーストレッキング、ホースセラピー等の新たな利活用を反映して、飼養頭数は増加傾向にあるが、そこで使われている乗用馬は、競走馬からの転用が多く、初心者向きの馬が少ないことが乗馬発展の阻害要因ともなっている。

また、我が国の乗用馬は種雄馬、繁殖雌馬ともに諸外国に比べて全体として資質は低レベルにあり、競技用馬のほとんどは輸入馬である。

このため、国内産による優秀な乗用馬の生産が望まれている。

※乗用馬頭数、乗馬施設の推移（資料 5-1、5-2 参照）

### (2) 生産体制の確立

乗用馬生産にあっても、飼養者の老齢化が進んでおり、新たな担い手の確保が急務となっている。また、飼養管理技術や育成・馴致調教技術の向上、さらには生産施設の充実を図ることが必要である。

### (3) 市場取引の活性化

セリ市場で高い評価を受けるため、育成・馴致調教技術の向上を図るとともに上場される馬の持つ詳細な情報を発信できる体制の整備を図る必要がある。

## 資料 5-1　乗用馬頭数の推移

（単位：頭）

| | 平成10年 | 11年 | 12年 | 13年 | 14年 | 15年 | 16年 | 17年 | 18年 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 北海道 | 820 | 903 | 756 | 832 | 1,087 | 1,217 | 1,170 | 1,329 | 1,309 |
| 東　北 | 748 | 818 | 883 | 984 | 791 | 859 | 857 | 1,145 | 1,311 |
| 関　東 | 5,517 | 5,703 | 5,906 | 5,903 | 6,797 | 6,097 | 6,016 | 6,246 | 6,991 |
| 北　陸 | 298 | 299 | 310 | 296 | 277 | 330 | 313 | 324 | 334 |
| 東　海 | 779 | 889 | 852 | 946 | 852 | 815 | 776 | 813 | 753 |
| 近　畿 | 1,358 | 1,429 | 1,352 | 1,461 | 1,517 | 1,487 | 1,530 | 1,493 | 1,602 |
| 中･四国 | 950 | 891 | 948 | 970 | 905 | 1,132 | 1,113 | 1,136 | 1,236 |
| 九　州 | 1,124 | 1,219 | 1,111 | 1,139 | 1,114 | 1,151 | 1,172 | 1,229 | 1,230 |
| 沖　縄 | 52 | 36 | 46 | 70 | 120 | 98 | 75 | 84 | 82 |
| 合　計 | 11,646 | 12,189 | 12,164 | 12,601 | 13,457 | 13,186 | 13,022 | 13,799 | 14,849 |

## 資料 5-2　乗馬施設の推移

（単位：箇所）

| | 平成10年 | | | 11年 | | | 12年 | | | 13年 | | | 15年 | | | 16年 | | | 17年 | | | 18年 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 一般乗馬クラブ | 大学高校 | 計 | 一般乗馬クラブ | 大学高校 | 計 | 一般乗馬クラブ | 大学高校 | 計 | 一般乗馬クラブ | 大学高校 | 計 | 一般乗馬クラブ | 大学高校 | 計 | 一般乗馬クラブ | 大学高校 | 計 | 一般乗馬クラブ | 大学高校 | 計 | 一般乗馬クラブ | 大学高校 | 計 |
| 北海道 | 50 | 6 | 56 | 54 | 7 | 61 | 50 | 6 | 56 | 54 | 5 | 59 | 80 | 6 | 86 | 82 | 7 | 89 | 85 | 7 | 92 | 85 | 7 | 92 |
| 東　北 | 61 | 13 | 74 | 67 | 13 | 80 | 71 | 13 | 84 | 74 | 18 | 92 | 65 | 12 | 77 | 87 | 17 | 104 | 83 | 17 | 100 | 92 | 14 | 106 |
| 関　東 | 275 | 30 | 305 | 316 | 36 | 352 | 333 | 38 | 371 | 345 | 39 | 384 | 336 | 40 | 376 | 319 | 39 | 358 | 319 | 35 | 354 | 368 | 38 | 406 |
| 北　陸 | 19 | 3 | 22 | 27 | 2 | 29 | 35 | 2 | 37 | 27 | 2 | 29 | 25 | 2 | 27 | 29 | 2 | 31 | 32 | 2 | 34 | 34 | 2 | 36 |
| 東　海 | 43 | 10 | 53 | 52 | 12 | 64 | 51 | 10 | 61 | 55 | 12 | 67 | 58 | 13 | 71 | 45 | 7 | 52 | 47 | 7 | 54 | 49 | 8 | 57 |
| 近　畿 | 40 | 10 | 50 | 60 | 10 | 70 | 57 | 10 | 67 | 66 | 10 | 76 | 64 | 11 | 75 | 72 | 11 | 83 | 65 | 11 | 76 | 71 | 13 | 84 |
| 中･四国 | 63 | 17 | 80 | 61 | 12 | 73 | 70 | 13 | 83 | 74 | 12 | 86 | 91 | 12 | 103 | 96 | 15 | 111 | 103 | 13 | 116 | 107 | 13 | 120 |
| 九　州 | 79 | 16 | 95 | 87 | 13 | 100 | 88 | 12 | 100 | 89 | 12 | 101 | 90 | 23 | 113 | 102 | 12 | 114 | 112 | 11 | 123 | 113 | 10 | 123 |
| 沖　縄 | 4 | | 4 | 4 | | 4 | 4 | | 4 | 8 | | 8 | 12 | | 12 | 9 | 1 | 10 | 15 | | 15 | 8 | | 8 |
| 合　計 | 634 | 105 | 739 | 728 | 105 | 833 | 759 | 104 | 863 | 792 | 110 | 902 | 821 | 119 | 940 | 841 | 111 | 952 | 861 | 103 | 964 | 927 | 105 | 1,032 |

資料 5-1、5-2 とも：中央畜産会調べ　（2 の平成 14 年は調査なし）

〈提　言〉

# 農用馬に明確な指針を

十勝馬事振興会会長　佐々木　啓文

北海道の農用馬飼養頭数は、全国の約９割を占める。その北海道開拓当初から名実共に農業の礎として活躍してきた農用馬は平成５年をピークに年々減少を続けている。その原因は生産者の高齢化に伴う離農や後継者不足、経済的な理由等が重なり農用馬飼養を中止するわけだが、最大の理由は競馬産業の衰退、それに起因する将来不安が生産意欲の減退に直結している。馬券発売額が低迷する一方で、肉用素馬の市場価格は上昇傾向をたどっている。農用馬の振興には、ばんえい競馬の継続・発展が車の両輪の関係にあるだけに、極めて心配な状況にある。もし、再び平成18年のようにばんえい競馬存廃論議が再燃するような危機的な事態となれば、歴史を重ねてきた馬文化は崩壊し、北海道から農用馬生産がなくなるといっても過言ではない。

本来的には、我が国で馬、とりわけ農用馬は必要がないのかを問いたい。戦前までは軍馬を中心にあれだけ馬産振興に傾注してきたのに、戦後は馬について関係機関・団体での話し合い、方向付けが全くなされず、今日に至っている。現場に立脚しない、行き当たりばったり、その場しのぎを繰り返していては石炭産業の二の舞になるのは自明である。大型の重種馬は「用なし」として扱いに苦労している国がある一方で、馬大国・先進国のフランスは国立種馬所を持ち、競馬の益金のすべてを競走馬、農用馬生産に還元して振興していることを忘れてはならない。

日本では馬産農家だけでなく、農業全体に後継者難というが、それは農業に魅力が乏しく、先行きに夢がもてないからだ。しかし、農業大国・フランスのように国が確たる自信を持って一貫性のある政策を打ち出せば、まさに強いメッセージとなり、生産者もそれに呼応するであろうことが推察できる。我が国の競走馬、農用馬をどのような方向に導くか――今こそ現場を踏まえて政策当局・関係団体が誠心誠意話し合い、あるべき姿、展望を見出す時ではないかと訴えたい。そのためにはまず競馬の報奨金を引き上げ、馬主や生産者、競馬ファンらに魅力を感じさせる積極策が先決であり、それが馬生産者に還元されることで、活気をもたらすだろう。我々は先の「ばんえい競馬存廃論議」の渦中で、生産意欲をそがれるなど計り知れない影響を受けた。しかし、世界に冠たるばんえい競馬文化と農用馬を守り、発展させたい一心で、道内はもちろん全国のばんえい競馬ファン、市民と猛運動を展開して帯広単独開催を実現した。

ばんえい競走馬は種付けしてから出走するまで３年かかる。先人は長い年月地道な努力を重ね、今日のばんえい競馬・農用馬を作ってきた。我々もそうした地道な努力を続けるしかない。行政・関係団体もその原点に立ち返って競馬の振興に英知を絞り、農用馬生産者を鼓舞して欲しいものだ。

# 馬事知識普及公開セミナー

帯広市で開いた馬事知識普及公開セミナー（平成20年８月19日）

「乗馬の基本」の実習では、
受講生も乗馬して学習（同）

指のサインだけで馬を横臥させる
講師の技術に、参加者の目はくぎづけ

参加者の関心が高かった「馬の種類及び品種」の
解説（熊本市、平成20年10月26日）

治療的乗馬の効用を語る東京農大の川嶋講師

# 乗用馬振興

内国産馬の生産で期待の大きい
遠野市乗用馬市場

馴致調教の成果をフリージャンプで披露
（北海道乗用馬市場）

専門家から馴致調教を学ぶ

盛んになるエンデュランス

# ホースイベントを支援

現役の騎手も苦戦、人気を集めたポニー競馬（第１回熊本県ホースショー、平成15年５月18日）

馬とのふれあいを楽しむ人たち（同上）

選りすぐりの種雄馬が勢ぞろいした北海道優良種雄馬展示会（平成20年10月８日、音更町で）

幼児、幼稚園児をはじめ身体に障害を持つ人たち、ホースセラピーと乗馬への関心が高まっている（北海道上川馬事振興会青年部）

第100回の金字塔を打ち立てた釧路種馬共進会（平成20年７月26日）

# 馬事普及啓発事業

小学校高学年向けに作成・配布している馬のブックレットの一部

競馬場や畜産団体のイベント用に貸し出している馬のパネル

馬のパネルは等身大のペルシュロンを含めて７種類ある

平成２年から20年３月まで発行された馬の雑誌「ホースメイト」

博物館明治村（愛知県犬山市）に続き、馬とのかかわりの深い下鴨神社（京都市）と日光東照宮（栃木県）に貸し出し中の儀装馬車＝写真は日光東照宮で

# Ⅳ 調査・研究事業

調査・研究事業は昭和30～40年代に農用馬の需給動態、農用馬の規格決定、農業経営における馬の位置付け、凍結精液試験調査、受精卵移植試験、潜在生殖細胞の保存、まき馬実験牧場経営、日本在来馬の免疫学的特性調査、日本在来馬の学術的調査、初期妊娠診断など馬の体格・体型や馬産経営を中心に取り組み、昭和40年代以降は人工授精技術など繁殖に関するテーマが多くなっている。

平成に入ると、生殖機能の人為的調節法、欧米の農用馬海外資源調査、農用馬の放牧肥育技術、日本在来馬の観光等との有機的連携、治療的乗馬等への利活用、馬具など馬に関する文化等賦存調査、乗用馬の生産・需要動向調査など新たな調査・研究対象を広げている。平成11年度以降の調査・研究について表4・1に示した。

なお、平成10年以前の調査・研究事業については50ページの年譜参照。

**表4・1　調査・研究事業（平成11～20年）**

| 年度 | 刊行物名 | 著者 |
|---|---|---|
| 平成11年（1999） | 輓曳馬におけるヘテローシスに関する研究<br>農用馬の肥育技術の確立に関する調査研究<br>スウェーデン及びデンマークにおける農用馬の資源並びに馬産事情調査 | 柏村文郎（帯広畜産大学）<br>熊本県農業研究センター<br>柏村文郎（帯広畜産大学） |
| 平成12年（2000） | イギリス及びアイルランドにおける農用馬の資源並びに馬産事情調査 | 柏村文郎（帯広畜産大学） |
| 平成13年（2001） | イタリア・オーストリア・ハンガリー及びフランスにおける農用馬の資源並びに馬産事情調査 | 柏村文郎（帯広畜産大学） |
| 平成14年（2002） | — | — |
| 平成15年（2003） | 農用馬放牧肥育技術確立検討事業報告書<br>野間馬の保存・活用による多面的機能の計測に関する研究 | 左　久（帯広畜産大学）<br>佐藤和夫（酪農学園大学） |
| 平成16年（2004） | 乗用馬の生産・需要動向調査成績報告書 | 日本馬事協会 |
| 平成17年（2005） | 乗用馬の生殖機能と受胎促進に関する調査研究 | 三宅陽一（帯広畜産大学） |
| 平成18年（2006） | 治療的乗馬における日本在来馬の活用調査<br>木曽馬に関する馬文化等賦存状況委託調査報告書 | 滝坂信一（東京農業大学）<br>木曽町開田支所教育事務所 |
| 平成19年（2007） | — | — |
| 平成20年（2008） | — | — |

# V 馬事普及啓発事業

馬事普及に係わる人達や馬に関心を持つ人々を対象に、馬に関する情報、知識の提供、馬事の普及と啓発に役立たせるため、馬の広報誌「ホースメイト」の発行（平成20年3月まで。以降、機関誌「馬事協会便り」を年2回、10月と3月に発行)、全国の馬関係団体等が主催する各種イベントを支援するためのパンフレット類やビデオテープの作成配布、ライディング・シミュレーターの貸付（平成17年度まで）のほか、研修用の教材などとしての馬事資料の編集配布などを行ってきた。今までに作成発行したパンフレット類、ビデオテープ、馬事資料などは表の通りである。

**表5・1　普及啓発用パンフレット類**

| |
|---|
| お馬さんとなかよく |
| 今日までの馬と人 |
| 馬とのふれあい |
| 馬とスポーツ |
| マンガ・ゴンの大冒険 |
| マンガ・馬になった男 |
| 絵本・うまのおはなし　Ⅰ |
| 絵本・うまのおはなし　Ⅱ |
| 童話・白菊姫と白馬 |
| シールブック・いろいろな馬たち |
| 馬のグラフ　Ⅰ　世界の馬と祭り |
| 馬のグラフ　Ⅱ　日本の馬と祭り |
| 日本の馬車 |
| 馬のいろいろ　Ⅰ　馬のからだ |
| 馬のいろいろ　Ⅱ　馬の道具 |
| 馬のいろいろ　Ⅲ　馬の体と人間の体 |
| 馬のいろいろ　Ⅳ　馬のからだ |
| 馬のいろいろ　Ⅴ　なんでも探偵団 |
| 馬のいろいろ　Ⅵ　馬の切手 |
| 馬のいろいろ　Ⅶ　かわいい子馬とのふれあい |
| 馬のいろいろ　Ⅷ　馬はともだち |
| 馬のいろいろ　Ⅸ　ポニーとぼく |
| 馬のいろいろ　Ⅹ　馬・からだのひみつ |
| 馬のいろいろ　Ⅺ　お馬　なぜなにBOOK |
| 日本の馬と祭り |

＊平成21年3月末の在庫は、「馬のいろいろ」
Ⅶ、Ⅸ、Ⅹ、Ⅺ、「日本の馬と祭り」の5種類である。

**表５・２　貸し出し用パネル**

| | |
|---|---|
| ペルシュロン等身大 | （組み立て式） |
| 北海道和種馬等身大 | （組み立て式） |
| 馬の知識 | （16 枚セット） |
| 日本の馬と祭り　Ⅰ | （　〃　） |
| 世界の馬と祭り | （　〃　） |
| 日本の馬と祭り　Ⅱ | （　〃　） |
| 日本の馬車 | （　〃　） |

**表５・３　作成 VTR 一覧**

| 技術指導用 VTR | 普及啓発用 VTR |
|---|---|
| 農用馬の繁殖技術向上 | 馬に親しむ |
| 種雄馬の管理 | 馬と祭り　Ⅰ　「飯田八幡神社・鉄砲祭り」・埼玉県 |
| 繁殖雌馬と子馬の管理 | 「神宮初午祭り・鈴懸け馬」・鹿児島県 |
| 馬の人工授精 | 馬と祭り　Ⅱ　「馬ッコつなぎ」・岩手県 |
| 相　　馬 | 「駒樋」・岩手県・滝沢村 |
| 馬の調教・馴致（2 才～3 才） | 「チャグチャグ馬ッコ」・岩手県 |
| 馬具と馬装具 | 馬と祭り　Ⅲ　「松倉観音」「絵馬市」・岐阜県高山市 |
| | 「若一王子神社・流鏑馬」・長野県大町市 |
| | 「木曽の花馬」・長野県開田村 |
| | 「五宮神社・花馬祭」・長野県南木曽町 |
| | 「伊豆神社・競馬」・長野県阿南町 |
| | 馬と祭り　Ⅳ　「阿蘇神社・田の実祭」・熊本県一の宮町 |
| | 「藤崎八旛宮・例大祭」・熊本市 |
| | 「八代神社・妙見祭」・熊本県八代市 |
| | 馬と祭り　Ⅴ　「上加茂神社・競馬」・京都府京都市 |
| | 「藤森神社・駈馬」・京都府京都市 |
| | 「県神社・大弊神事」・京都府宇治市 |
| | 馬と祭り　Ⅵ　「加茂神社・お供馬」・愛媛県菊間町 |
| | 「住吉神社・馬駈け神事」・大阪府河内長野市 |
| | 「若宮神社・春日若宮おん祭」・奈良県奈良市 |
| | 馬と祭り　Ⅶ　「気多大社・おいで祭」・石川県羽咋市 |
| | 馬と祭り　Ⅷ　「加茂神社・やんさんま」・富山県下村 |
| | 「金峰神社・幌負流鏑馬」・新潟県長岡市 |
| | 「寒河江八幡宮・作試し流鏑馬」・山形県寒河江市 |
| | 馬と祭り　Ⅸ　「八坂神社・祇園祭り」・茨城県龍ヶ崎市 |
| | 「玉前神社・十二社祭」・千葉県一宮町 |
| | 「吾妻神社・馬出し祭り」・千葉県富津市 |
| | 馬と祭り　Ⅹ　「多度大社・上げ馬」・三重県多度町 |
| | 「八幡神社・流鏑馬」・岐阜県土岐市 |

**表５・４　馬事資料等一覧**

| 番号 | 著者又は訳者 | 書　名 | 備　考 |
|---|---|---|---|
| 1 | 中村悟朗 | フランスの馬政及び馬種 | |
| 2 | 大塚秀雄 | ウィーンのスペイン乗馬学校　ほか | 馬事資料第１輯 |
| 3 | 〃 | ピント・ホースのすべて　ほか | 2 |
| 4 | 〃 | ペルシュロン特集　ほか | 3 |
| 5 | 〃 | ファーナム馬事叢書　から | 4 |
| 6 | 〃 | 古牧の跡を探る　ほか | 5 |
| 7 | 〃 | ファーナム馬事叢書　から | 6 |
| 8 | 川村太郎次　他 | 馬の改良と登録の歴史 | 7 |
| 9 | 大塚秀雄 | 馬の理解と調教　ほか | 8 |
| 10 | 〃 | 馬の実用的飼養　ほか | 9 |
| 11 | 及川浩吉　他 | 1980 年フランス馬事年鑑　抄訳 | 10 |
| 12 | 及川浩吉 | アメリカン・クォーターホース | 11 |
| 13 | 〃 | フランスの馬と人 | 12 |
| 14 | 〃 | フランスの乗馬と輓馬 | 13 |
| 15 | 〃 | 世界の馬種 | 14 |
| 16 | 〃 | ポニーの品種と乗馬スポーツ | 15 |
| 17 | 〃 | 馬の購入と飼養管理 | 16 |
| 18 | 〃 | 馬の生体と人とのかかわり | 17 |
| 19 | 〃 | 馬の行動習性 | 18 |
| 20 | 〃 | 馬の行動習性（続） | 19 |
| 21 | 中村正展 | 英国馬産業の経済的貢献 | 20 |
| 22 | 及川浩吉 | 今日の馬と人 | 21 |
| 23 | 〃 | 馬車競技用馬とその調教 | 22 |
| 24 | 千葉幹夫 | 馬具図鑑 | 23 |
| 25 | 〃 | 騎乗ゲームとジムカーナ | 24 |
| 26 | 澤崎　坦 | お馬の学校 | 25 |
| 27 | 日仏経済技術交流会 | フランスの馬のための国立種馬所 | 26 |
| 28 | 中村・成田 | 馬のテキスト | テキスト |
| 29 | 〃 | 農馬の飼養と繁殖 | 〃 |
| 30 | 〃 | 馬の審査 | 〃 |
| 31 | 澤崎　坦監修 | 馬の飼い方マニュアル | 〃 |
| 32 | 澤崎　坦 | ドイツの馬産、冷血種馬 | 27 |
| 33 | 日仏経済技術交流会 | アルデンネ馬 | 28 |
| 34 | ㈱プロコムインターナショナル | 年をとった馬を若く維持する方法 | 29 |
| 35 | 日本馬事協会 | 新日本の在来馬 | テキスト |
| 36 | 西山あき | フランスの馬肉 | 〃 |
| | | （馬事知識普及公開セミナー） | |
| 1 | 末崎　真澄 | ウマと人間の歴史 | テキスト |
| 2 | 岩村　俊春 | 馬の種類及び品種、日本馬事協会の種馬登録 | 〃 |
| 3 | 岩村　俊春 | 馬体各部の名称、馬の個体識別、毛色遺伝 | 〃 |
| 4 | 松井　　朗 | 馬の栄養および飼養管理 | 〃 |
| 5 | 森　　達也 | 馬の見方 | 〃 |
| 6 | 南保　泰雄 | 馬の繁殖、馬の初期育成 | 〃 |
| 7 | 川嶋　　舟<br>増井　光子 | 新たな馬の利活用　・治療的乗馬<br>〃　・ホーストレッキング・エンデュランス | 〃<br>〃 |
| 8 | 物江　貞雄 | 馬の病気 | 〃 |

# Ⅵ 再生にかける ばんえい競馬

## 1．ばんえい競馬の経緯

ばんえい競馬は、北海道の農村の娯楽「お祭りばんば」から生まれ、開拓の歴史を刻むものとして親しまれてきた。昭和28年には旭川、帯広、北見、岩見沢の4市が主催する市営競馬が発足、次第に販売金額を拡大し、平成3年度は322億円と過去最高を記録、地方財政、地域経済に貢献してきた。しかし、この年を境にバブル経済の崩壊などの影響で発売額は減少、累積赤字を抱え18年度に存廃論議は頂点に達した。

結局、市営競馬組合は解散、債務清算に至った。ところがばんえい競馬は農用馬生産と両輪の関係にあり、さらには世界で唯一の馬事文化であることから生産者団体、市民団体などから強力な存続運動が起こった。帯広市がソフトバンクループの支援をえて帯広単独開催することで決着した。賞金等のコスト削減に大なたを振るう一方、新たにナイター競

**表6・1　ばんえい競馬の沿革**

| | |
|---|---|
| 昭和21年 | 地方競馬施行規則第9条により公営となる |
| 22 | 北海道馬匹組合連合会主催の下、旭川、岩見沢でばんえい競馬を実施 |
| 28 | 旭川、帯広、北見、岩見沢市営競馬発足 |
| 41 | 道営ばんえい競馬は中止となり、市営のみ競馬を開催 |
| 43 | 北海道市営競馬協議会設立 |
| 45 | 岩見沢総合スタンド落成 |
| 49 | 北見競馬場移転新設 |
| 50 | 旭川競馬場移転新設 |
| 57 | 帯広競馬場で場外発売開始 |
| 59 | 4市競馬場で相互場外発売開始 |
| 59～63 | 釧路、旭川、岩見沢市内で場外発売 |
| 平成元年 | 北海道知事より北海道市営競馬組合の設立認可 |
| 12 | 電話投票事業開始。スカイパーフェクTVで実況放送開始 |
| 14～16 | 苫小牧市内場外開設、小樽、滝川、東京・大井競馬場でばんえい競馬発売。名寄市内で場外発売。中標津、留萌、札幌駅前でばんえい競馬発売 |
| 16 | 「北海道の馬文化」として北海道遺産に選定 |
| 17 | 開催期間を3月下旬まで延ばし、通年開催<br>高崎市で年間通じて場外発売。千歳、函館港町、江別でばんえい競馬発売。スーパーペガサス、ばんえい記念4連覇 |
| 18 | 発売額減少に歯止めかからず、存廃論議高まる |
| 19 | 3月、北海道市営競馬組合解散。4月、ソフトバンクグループの支援により帯広市の単独開催で決着 |

馬を導入するなど新機軸を打ち出している。いかに魅力のあるファンサービスで顧客を取り込むか。このケースが成功すれば、他の地方競馬再生のモデルケースになるものとして注目されている。

**表6・2　ばんえい競馬発売金額の推移**

| 年度 | 開催日数 | 発売金額 | 前年比 | 1日平均 | 前年比 |
|---|---|---|---|---|---|
| 平成元年度 | 138日 | 28,002,724,200円 | | 202.918.291円 | |
| 2 | 138 | 32,105,078,900 | 114.6% | 232.645.499 | 114.6% |
| 3 | 138 | 32,292,488,800 | 100.6 | 234.003.542 | 100.6 |
| 4 | 138 | 29,225,593,600 | 90.5 | 211.779.664 | 90.5 |
| 5 | 144 | 30,542,571,500 | 104.5 | 212.101.191 | 100.2 |
| 6 | 144 | 30,563,390,400 | 100.1 | 212.245.767 | 100.1 |
| 7 | 156 | 29,813,994,700 | 97.5 | 191.115.351 | 90.0 |
| 8 | 150 | 27,628,376,100 | 92.7 | 184.189.174 | 96.4 |
| 9 | 150 | 26,992,859,700 | 97.7 | 179.952.398 | 97.7 |
| 10 | 150 | 23,368,775,100 | 86.6 | 155.791.834 | 86.6 |
| 11 | 150 | 21,163,154,900 | 90.6 | 141.087.699 | 90.6 |
| 12 | 150 | 20,717,068,000 | 97.9 | 138.113.787 | 97.9 |
| 13 | 148 | 19,601,627,800 | 94.6 | 132.443.431 | 95.9 |
| 14 | 148 | 18,494,861,200 | 94.4 | 124.965.278 | 94.4 |
| 15 | 153 | 16,910,260,100 | 91.4 | 110.524.576 | 88.4 |
| 16 | 152 | 14,447,388,100 | 85.4 | 95.048.606 | 86.0 |
| 17 | 162 | 15,416,608,400 | 106.7 | 95.164.249 | 100.1 |
| 18 | 162 | 14,524,139,100 | 94.2 | 89.655.180 | 94.2 |
| 19 | 150 | 12,933,971,600 | 89.0 | 86.226.477 | 96.2 |
| 20 | 150 | 11,555,358,700 | 89.3 | 77,035,725 | 89.3 |

（注）平成18年度までは北海道市営競馬組合（4市計）、19年度は帯広市。

## 2. 優良農用馬生産者等表彰

優良農用馬生産者等表彰は、農用生産者並びに地域の農用馬生産振興に貢献されている方を対象に、これからも益々優秀な農用馬の生産に励んでもらいたい、という願いと生産意欲の向上を図ることを目的に平成10年度から優秀な生産者並びに指導者を選定し表彰を行っている。

この表彰は、優良農用馬生産者賞、優良農用馬指導技術者賞及び優良農用馬生産技術賞の3部門により行われ、指導技術者賞及び生産技術者賞については学識経験者などからなる選考委員会で選ばれた。

表彰者の選定については、優良農用馬生産者賞については、ばんえい記念（10年度～現在）、ヒロインズカップ競走（10年度～14年度）、ばんえいオークス競走（15年度～現在）というばんえい競馬の基幹的な競走に出走した馬を生産した者に対し、表彰を行うものである。優良農用馬生産技術賞（10年度～17年度）は、全国の主な農用馬の生産地において生産技術、経営等が優秀な者であって、それぞれの地域の行政機関、農用馬の生産団体等からの推薦を受けた者である。優良農用馬指導技術者賞（11年度～14年度）は、地域の農用馬生産、育成等の指導普及に努め、地域の農用馬生産振興に貢献している者であって、地域の行政機関、生産団体等から推薦を受けた者をそれぞれ表彰してきた。

受賞者は次のとおり（市町村名は平成21年3月末現在）。

### 優良農用馬生産者賞

**ばんえい記念競走**

| | | |
|---|---|---|
| 今野　貞夫 | (平成10) | 中川郡本別町 |
| 金岡　恒司 | (平成10、11、12、13) | 中川郡池田町 |
| 青田　善夫 | (平成10、11) | 中川郡幕別町 |
| 野村　貞子 | (平成10、11、12) | 紋別郡湧別町 |
| 岩岡　則夫 | (平成10、11、12、16) | 広尾郡大樹町 |
| 岡嶋　司郎 | (平成10、11) | 北見市 |
| 佐藤　秀雄 | (平成10) | 北見市 |
| 橋詰　隆男 | (平成10) | 中川郡幕別町 |
| 秋葉　守 | (平成11、12、13、14) | 中川郡本別町 |
| 長谷川　修一 | (平成11) | 標津郡標津町 |
| 吉村　進 | (平成11、12、13、14) | 足寄郡足寄町 |
| 大野　啓子 | (平成11) | 網走市 |
| 高山　支征 | (平成12、13、14) | 中川郡池田町 |
| 太田　輝雄 | (平成12、13) | 名寄市 |
| 加藤　勝一 | (平成12) | 北見市 |
| 播　静雄 | (平成12、14) | 中川郡池田町 |
| 三井　宏悦 | (平成12、13、14、15、16、17、18、19、20) | 帯広市 |
| 片山　光夫 | (平成13、14、15、16、17、18、19) | 夕張郡長沼町 |
| 松井　紀行 | (平成13、14、15) | 阿寒郡鶴居村 |
| 松野　貢 | (平成13、14) | 白糠郡白糠町 |
| 加藤　鶴雄 | (平成14) | 標津郡標津町 |
| 木幡　勇 | (平成14、15、16、17、18) | 中川郡豊頃町 |
| 二谷　守一 | (平成16、17) | 沙流郡平取町 |
| 浅野　守 | (平成16) | 稚内市 |
| 岩佐　勝明 | (平成16、17) | 中川郡池田町 |
| 川向　義信 | (平成16、17) | 中川郡豊頃町 |
| 互野　居衣夫 | (平成16) | 沙流郡平取町 |
| 稲場　洋二 | (平成17、18、19、20) | 釧路市 |
| 佐藤　秀雄 | (平成17) | 北見市 |
| 久末　代志市 | (平成18、19、20) | 檜山郡上ノ国町 |
| 小枝　重市 | (平成18) | 十勝郡浦幌町 |
| 鶴巻　廣一 | (平成18) | 石狩郡当別町 |
| 林　豊嗣 | (平成19、20) | 足寄郡陸別町 |
| 安富　功 | (平成19) | 中川郡池田町 |
| 山田　義宣 | (平成19、20) | 釧路市 |
| 米田　貢 | (平成19、20) | 稚内市 |

| | | |
|---|---|---|
| 大　場　登喜男 | (平成19、20) | 北見市 |
| 管　野　富　夫 | (平成20) | 足寄郡足寄町 |
| 高　井　成　男 | (平成20) | 河東郡上士幌町 |
| (株) 坂井牧場 | (平成20) | 旭川市 |

## ヒロインズカップ

| | | |
|---|---|---|
| 高　山　支　征 | (平成10、11、12、13) | 中川郡池田町 |
| 山　内　紀　光 | (平成10) | 北見市 |
| 今　野　　薫 | (平成10、11) | 中川郡本別町 |
| 長　谷　川　勉 | (平成10、11) | 中川郡幕別町 |
| 太　細　保　春 | (平成10、11) | 伊達市 |
| 武　山　喜八郎 | (平成10、11、12) | 川上郡弟子屈町 |
| 細　川　貞　夫 | (平成10) | 北見市 |
| 半　澤　　達 | (平成10) | 札幌市 |
| 大　野　啓　子 | (平成10) | 網走市 |
| 石　川　達　敏 | (平成10、11) | 中川郡幕別町 |
| 木　幡　　勇 | (平成11、12、13) | 中川郡豊頃町 |
| 中　野　秀　雄 | (平成11、12) | 虻田郡ニセコ町 |
| 山　根　　清 | (平成11、12、13、14) | 釧路市 |
| 菊　川　義　春 | (平成11) | 足寄郡陸別町 |
| 北　島　勇　祈 | (平成12、13、14) | 士別市 |
| 高　山　　稔 | (平成12、13) | 河東郡音更町 |
| 長谷川　勝　雄 | (平成12) | 瀬棚郡今金町 |
| 鍛治舎　正　信 | (平成12) | 上川郡清水町 |
| 木　幡　利　則 | (平成12) | 河東郡士幌町 |
| 土　田　　健 | (平成13) | 北見市 |
| 岩　佐　勝　明 | (平成13、14) | 中川郡池田町 |
| 川　尻　　弘 | (平成13、14) | 常呂郡佐呂間町 |
| 浅　野　　守 | (平成13、14) | 稚内市 |
| 木　幡　一　男 | (平成13) | 中川郡幕別町 |
| 佐々木　啓　文 | (平成14) | 帯広市 |
| 加　藤　　崇 | (平成14) | 川上郡弟子屈町 |
| 三　井　宏　悦 | (平成14) | 帯広市 |
| 後　藤　有　弘 | (平成14) | 足寄郡足寄町 |

## ばんえいオークス

| | | |
|---|---|---|
| 土　田　　健 | (平成15) | 河西郡更別村 |
| 森　田　政　則 | (平成15) | 河西郡更別村 |
| 仲　野　仲　次 | (平成15、16、17) | 網走郡大空町 |
| 久　末　代志市 | (平成15) | 檜山郡上ノ国町 |
| 早　崎　久　矩 | (平成15) | 稚内市 |
| (有) 佐藤牧場 | (平成15) | 網走市 |
| 長谷川　順　吉 | (平成15) | 島牧郡島牧村 |
| 石　黒　基　夫 | (平成15、16) | 稚内市 |
| 桑　辺　敏　文 | (平成15) | 紋別郡興部町 |
| 森　　昭　一 | (平成15) | 川上郡標茶町 |
| 延　壽　武　好 | (平成16、17) | 標津郡中標津町 |
| 三　井　宏　悦 | (平成16) | 帯広市 |
| 土　田　　健 | (平成16) | 北見市 |
| 徳　田　文　子 | (平成16) | 常呂郡佐呂間町 |
| 山　田　恵理実 | (平成16) | 白糠郡白糠町 |
| 田　中　猪之助 | (平成16、19) | 岩内郡共和町 |
| 河　野　邦　雄 | (平成16) | 常呂郡訓子府町 |
| 角　谷　俊　紀 | (平成17) | 中川郡幕別町 |
| 山　端　隆　治 | (平成17) | 中川郡幕別町 |
| 稲　場　洋　二 | (平成17) | 釧路市 |
| 八　巻　武　雄 | (平成17) | 中川郡美深町 |
| 金　岡　　猛 | (平成17) | 中川郡池田町 |
| 管　野　富　雄 | (平成17) | 足寄郡足寄町 |
| 板　倉　政　勝 | (平成17) | 稚内市 |
| 亀　田　英　二 | (平成18) | 標津郡中標津町 |
| 岩　本　国　造 | (平成18) | 旭川市 |
| 門　馬　　発 | (平成18) | 名寄市 |
| 富　沢　保　男 | (平成18) | 標津郡中標津町 |
| 鈴　木　義　尚 | (平成18) | 河東郡上士幌町 |
| 水　口　弘　之 | (平成18) | 士別市 |
| 小　林　清　秀 | (平成18) | 苫前郡初山別村 |
| 岩　本　政　治 | (平成18) | 石狩郡当別町 |
| 岩　渕　文　雄 | (平成18) | 常呂郡訓子府町 |
| 芝桜高橋牧場 | (平成18、19) | 紋別郡滝上町 |
| 吉　仲　竹　男 | (平成19) | 十勝郡浦幌町 |
| 佐々木　七　郎 | (平成19) | 足寄郡足寄町 |
| 西　村　祐　一 | (平成19) | 足寄郡足寄町 |
| 坂　井　健　一 | (平成19、20) | 川上郡標茶町 |
| 佐々木　正　人 | (平成19) | 釧路市 |
| 宮　田　光　男 | (平成19) | 標津郡中標津町 |
| 細　川　貞　夫 | (平成19) | 北見市 |
| 芳　川　敏　文 | (平成20) | 十勝郡浦幌町 |
| 松　田　　肇 | (平成20) | 十勝郡浦幌町 |
| 佐々木　啓　文 | (平成20) | 帯広町 |
| 菊　川　義　春 | (平成20) | 足寄郡陸別町 |
| 金　岡　　猛 | (平成20) | 中川郡池田町 |
| 風　間　　進 | (平成20) | 中川郡本別町 |
| 大　野　　稔 | (平成20) | 網走郡津別町 |
| 佐　藤　　勇 | (平成20) | 函館市 |
| 辻　口　愛　子 | (平成20) | 檜山郡厚沢部町 |

## 優良農用馬指導技術者賞

| | | |
|---|---|---|
| 大　口　哲　夫 | (平成11) | 足寄郡陸別町 |
| 鈴　木　　昭 | (平成11) | 阿寒郡鶴居村 |
| 竹　中　勝　利 | (平成11) | 斜里郡小清水町 |
| 菅　野　一　敏 | (平成11) | 旭川市 |
| 川　向　幸　雄 | (平成11) | 九戸郡種市町 |
| 吉　永　民　雄 | (平成11) | 熊本市 |
| 土　屋　君　春 | (平成11) | 都城市 |
| 岩　間　長　夫 | (平成12) | 帯広市 |
| 岩　沢　敏　彦 | (平成12) | 常呂郡佐呂間町 |
| 竹　下　　章 | (平成12) | 上川郡剣淵町 |

| | | |
|---|---|---|
| 附田政三 | (平成12) | 上北郡東北町 |
| 工藤浩 | (平成12) | 盛岡市 |
| 山﨑政治 | (平成12) | 菊池郡菊陽町 |
| 別府純一 | (平成12) | 北諸県郡三股町 |
| 篠原一明 | (平成13) | 中川郡本別町 |
| 内ヶ島英一 | (平成13) | 上川郡剣淵町 |
| 鳥谷部只之助 | (平成13) | 三戸郡五戸町 |
| 岩清水忠男 | (平成13) | 奥州市 |
| 窪野悟 | (平成13) | 小林市 |
| 石井三都夫 | (平成14) | 釧路郡釧路町 |
| 前川俊昭 | (平成14) | 中川郡幕別町 |
| 長尾政幸 | (平成14) | 常呂郡訓子府町 |
| 三浦賢良 | (平成14) | 奥州市 |
| 若杉保英 | (平成14) | 熊本市 |
| 堂村旭 | (平成14) | 北諸県郡三股町 |

## 優良農用馬生産技術賞

| | | |
|---|---|---|
| 三井幹雄 | (平成10) | 帯広市 |
| 山根清 | (平成10) | 釧路市 |
| 永本義典 | (平成10) | 網走市 |
| 太田輝男 | (平成10) | 名寄市 |
| 長谷川修一 | (平成10) | 標津郡標津町 |
| 福村福美 | (平成10) | 上北郡東北町 |
| 大坪昇 | (平成10) | 岩手郡滝沢村 |
| 笹原範治 | (平成10) | 阿蘇市 |
| 児玉健一郎 | (平成10) | 小林市 |
| 加藤茂 | (平成11) | 足寄郡足寄町 |
| 松井紀行 | (平成11) | 阿寒郡鶴居村 |
| 下山誠治 | (平成11) | 斜里郡小清水町 |
| 坂井秀彰 | (平成11) | 旭川市 |
| 横田好一 | (平成11) | 標津郡中標津町 |
| 菊池茂勝 | (平成11) | 遠野市 |
| 上村高成 | (平成11) | 熊本市 |
| 日高清市 | (平成11) | 都城市 |
| 笠間貞雄 | (平成12) | 中川郡幕別町 |
| 川村巌 | (平成12) | 川上郡標茶町 |
| 岩淵幸夫 | (平成12) | 常呂郡訓子府町 |
| 南日出男 | (平成12) | 中川郡美深町 |
| 大道實 | (平成12) | 野付郡別海町 |
| 前田谷吉郎 | (平成12) | 遠野市 |
| 岡田富雄 | (平成12) | 合志市 |
| 中神一男 | (平成12) | 都城市 |
| 竹ヶ原由太郎 | (平成13) | 中川郡幕別町 |
| 小野田喜一 | (平成13) | 釧路市 |
| 千田良市 | (平成13) | 紋別郡遠軽町 |
| 斉藤義雄 | (平成13) | 士別市 |
| 大石正義 | (平成13) | 標津郡標津町 |
| 熊沢勝男 | (平成13) | 上北郡東北町 |
| 種市幸雄 | (平成13) | 八幡平市 |

| | | |
|---|---|---|
| 中村清和 | (平成13) | 熊本市 |
| 松田安弘 | (平成13) | 小林市 |
| 岩瀬勇三郎 | (平成14) | 根室市 |
| 長村豊司 | (平成14) | 釧路市 |
| 林千代吉 | (平成14) | 中川郡本別町 |
| 林茂 | (平成14) | 常呂郡訓子府町 |
| 渡辺孝 | (平成14) | 名寄市 |
| 中村喜良 | (平成14) | 九戸郡野田村 |
| 古閑清和 | (平成14) | 熊本市 |
| 新村国一 | (平成14) | 都城市 |
| 香川義勝 | (平成15) | 野付郡別海町 |
| 阪口栄造 | (平成15) | 川上郡弟子屈町 |
| 酒井義雄 | (平成15) | 広尾郡大樹町 |
| 佐藤久夫 | (平成15) | 網走市 |
| 水口弘之 | (平成15) | 士別市 |
| 菊地酉男 | (平成15) | 奥州市 |
| 柚上広昭 | (平成15) | 阿蘇市 |
| 東脇正 | (平成15) | えびの市 |
| 亀田英二 | (平成16) | 標津郡中標津町 |
| 佐々木正吉 | (平成16) | 釧路市 |
| 角谷俊紀 | (平成16) | 中川郡幕別町 |
| 細川貞夫 | (平成16) | 北見市 |
| 結城寛 | (平成16) | 中川郡美深町 |
| 宇部義雄 | (平成16) | 久慈市 |
| 志水勝國 | (平成16) | 熊本市 |
| 山下美明 | (平成16) | 都城市 |
| 下内勝 | (平成17) | 根室市 |
| 松野宏 | (平成17) | 白糠郡白糠町 |
| 鈴木義尚 | (平成17) | 河東郡上士幌町 |
| 今邦夫 | (平成17) | 常呂郡佐呂間町 |
| 山岸俊治 | (平成17) | 士別市 |
| 佐々木利見 | (平成17) | 遠野市 |
| 坂梨哲郎 | (平成17) | 阿蘇市 |

# 資　料　編

## 目　次


1．(社)日本馬事協会活動の年譜 ……50

2．日本在来馬の保存と利活用に関する基本構想 ……54

3．乗用馬生産振興対策事業報告書 ……59

4．馬の総飼養状況 ……69

5．農用馬の種雄馬、種付雌馬及び生産頭数の推移 ……70

6．乗用馬の種雄馬、種付雌馬及び生産頭数の推移 ……71

7．農用馬の市場取引成績の推移 ……72

8．乗用馬市場取引成績 ……73

9．補助金の受け入れ状況 ……74

10．一般会計事業の推移 ……75

11．特別会計事業の推移 ……76

12．主な規程類の設定と改正経緯 ……77

13．(社)日本馬事協会定款 ……79

14．役職員の推移 ……88

15．(社)日本馬事協会役員名簿 ……90

16．(社)日本馬事協会会員名簿 ……91

17．(社)日本馬事協会支部・事務委託先・事務所 ……95

18．日本在来馬保存会一覧 ……96

19．「ホースメイト」総索引 ……97

# 1．（社）日本馬事協会活動の年譜

| 年度 | 事項 | 事業（陳情等） |
|---|---|---|
| 1945<br>（昭和 20 年） | | |
| 1946<br>21 | 社団法人　中央馬事会発足 | |
| 1947<br>22 | | |
| 1948<br>23 | 社団法人　中央馬事会解散<br>日本馬事協会設立認可申請書提出　設立総会開催(11 月)<br>設立許可受領（24 年 3 月） | |
| 1949<br>24 | 創　立　　総会開催　初代会長：松村眞一郎（6 月）<br>事務所　　東京都千代田区神田駿河台 1 丁目 2 番地<br>機関紙　　「馬と人」を発行 | |
| 1950<br>25 | 馬事審議会を設け各委員委嘱<br>定款一部改正 | 馬の輸送運賃等格下げ並びに市場取引馬の運賃割引陳情<br>馬の伝貧撲滅のための殺処分手当て増額を陳情 |
| 1951<br>26 | 東北馬産大会開催 | 農林省に対し緊急馬産対策陳情<br>競馬民営化を陳情 |
| 1952<br>27 | | 馬の博覧会開催を陳情 |
| 1953<br>28 | | 国営の原種馬生産釧路基地設置に関する陳情<br>飼料需給安定法に関する陳情 |
| 1954<br>29 | 中央畜産会に加入 | 畜産団体に関する単行法制定陳情<br>種馬登録団体に対する助成陳情<br>畜産局に馬事課設置要望 |
| 1955<br>30 | | 国有種雌馬の補充促進について農林省、大蔵省に陳情 |
| 1956<br>31 | 馬事功労者及び功労馬表彰規程制定 | 国有種雄馬の貸付制度復活陳情<br>地方競馬民営化促進を陳情 |
| 1957<br>32 | 馬事審議会を開催<br>中央競馬会より馬事振興事業に対し助成を受ける | 馬の需要変動の概況調査 |
| 1958<br>33 | | 農用馬の規格決定に関する調査（4 年継続）<br>農用種雄馬の登録基準の設定、登録機関の設置及び業者に対する助成を申請 |
| 1959<br>34 | 創立 10 周年 | 馬事叢書第 1 輯「馬の需要動向の概要」刊行（昭和 40 年第 15 輯）<br>農業経営における馬の位置づけに関する調査（5 年継続） |
| 1960<br>35 | | 昭和 36 年度馬関係国費予算に対する陳情<br>馬に対する試験研究実施に対する陳情 |
| 1961<br>36 | | 馬政の確立について陳情<br>競馬益金を畜産振興に充当せしむるための競馬法の改正を陳情 |

| | | |
|---|---|---|
| 1962<br>37 | 全国馬事協議会開催（9月） | 全国馬事協議会の決議を陳情<br>農用馬の規格及び簡易能力測定研究調査（2年継続） |
| 1963<br>38 | 創立15周年記念式典挙行（12月）<br>第2代会長　鈴木　一就任 | 農用馬の需要動態調査 |
| 1964<br>39 | | 第2回北海道・東北馬大会決議に基づき地方競馬の益金の馬事への積極的充当等を陳情 |
| 1965<br>40 | 臨時総会開催、定款一部改正<br>日本馬事協会支部規程を制定（7支部設置）<br>種雄馬配置規程制定 | 会報「馬事協会便り」第1号発行（平成3年109号終刊）<br>種雄馬整備事業開始 |
| 1966<br>41 | | 農用馬生産流通基本調査（3年継続）<br>馬の凍結精液の試験調査（12年継続）<br>農用馬市場価格調査実施 |
| 1967<br>42 | | 種雄馬の資源調査（6年継続）<br>農用馬生産流通基本調査（2年継続）<br>外国産種雄馬購買貸付事業開始<br>乗用種雄馬の凍結精液製造保存開始 |
| 1968<br>43 | 創立20周年記念式典 | 馬事振興について陳情<br>種雄馬名簿（本会配置分）刊行 |
| 1969<br>44 | 馬事調査会開催 | 肉用馬の生産費調査事業（3年継続） |
| 1970<br>45 | まき馬実験牧場開設（釧路） | まき馬実験事業開始 |
| 1971<br>46 | 種雄馬3頭を日本中央競馬会より譲与配置<br>乗用馬の生産促進協議会開催 | 乗用馬の普及振興について構想作成発表<br>乗用馬の生産育成指導事業開始（遠野、いわき） |
| 1972<br>47 | 馬の種類に関する検討会開催<br>凍結精液による人工授精推進準備審議会開催 | 乗用馬の需要調査<br>昭和48年度政府予算編成に対する要望 |
| 1973<br>48 | 種雄馬管理委託規程制定<br>馬の人工授精センター設置（根釧） | 日本在来馬種の実態調査（北海道和種馬、対州馬）<br>乗用馬の生産育成費調査（3年継続）<br>馬産実態調査<br>人工授精技術研修会の開催（3年継続） |
| 1974<br>49 | 馬の人工授精センター設置（十勝） | 北海道農輓用馬資源調査（3年継続）<br>種馬登録準備調査事業（2年継続）<br>馬の授精卵移植試験（北海道大学、5年継続）<br>日本在来馬の保存活用に関する調査事業（林田博士他、2年継続） |
| 1975<br>50 | 種雄馬管理規程制定<br>種雄馬の配置規程並びに管理委託規程廃止<br>事業体系を<br>Ⅰ乗用馬等の生産育成振興事業<br>Ⅱ農用馬等の畜産振興事業及びその他の事業に大別 | フランスの馬政及び馬種　刊行<br>購買種雄馬の精液検査開始<br>乗用馬の生産育成指導事業開始 |
| 1976<br>51 | 定款一部改正<br>種馬登録事業開始（51. 4. 1）<br>種馬登録規程制定<br>馬の毛色及び特徴の記載要領設定 | 北米州乗用馬生産資源状況調査（報告書刊行）<br>在来馬保存事業開始（52. 3） |
| 1977<br>52 | （財）馬事文化財団に図書寄贈 | 日本在来馬の保存活用に関する連絡会議を開催<br>馬事資料第1輯刊行、現在26輯<br>馬人工授精師資格取得講習会開催<br>馬乳飲用化試験（2年継続）<br>種雄馬名簿刊行 |
| 1978<br>53 | 創立30周年記念式典挙行（10月） | まき馬実験牧場調査報告検討会実施<br>馬事専門技術指導者養成講習会事業開始<br>北海道和種馬集団の遺伝的構造の研究（北海道大学）<br>優良種雄馬の凍結精液の製造保存開始 |

| | | |
|---|---|---|
| 1979<br>54 | 種雄馬管理規程一部改正<br>乗用馬資源問題懇談会開催 | 馬の分娩誘発試験（帯広畜産大学）（3年継続）<br>ドサンコ富士山に登る（3年連続） |
| 1980<br>55 | 宮崎県に支部設置<br>馬の毛色及び特徴の記載要領一部改正 | 御崎馬の血液学術的調査 |
| 1981<br>56 | 乗用雌馬貸付規程制定<br>種雄馬の事故対策の充実 | 日本在来馬の免疫学的性特性に関する調査（東農大他、3年継続）<br>御崎馬の野生群形成における父子関係調査（3年継続）<br>乗用雌馬の貸付開始 |
| 1982<br>57 | 定款一部改正 | 馬の流産予防ホルモン投与試験（帯畜大、3年継続）<br>農用馬の繁殖技術現地研修会の開催（九州3地区） |
| 1983<br>58 | | 農用馬の繁殖技術現地研修会の開催（東北地区） |
| 1984<br>59 | | 無発情馬の治療法試験（3年継続）<br>野間馬に関する調査と検討会の開催<br>農用馬の繁殖技術現地研修会の開催（九州地区）<br>農用種雄馬の凍結精液の無償譲渡（北海道） |
| 1985<br>60 | 種雄馬管理規程一部改正 | 農用馬の繁殖技術現地研修会の開催（東北地区） |
| 1986<br>61 | | 農用馬等肥育調査検討事業（報告書刊行） |
| 1987<br>62 | | 御崎馬の野生群形成における種雄馬の特性に関する遺伝学並びに行動生態学的研究（5年継続） |
| 1988<br>63 | | |
| 1989<br>（平成元年） | 創立40周年記念式典挙行<br>登録業務のコンピュータ化を推進（北海道）<br>種馬登録規程一部改正<br>種馬登録規程の取り扱い要領の一部改正 | 馬の動向調査実施<br>①農用馬等の生産動向実態調査<br>②せり市場調査（過去3ヵ年の売買成績）<br>③馬肉の生産流通に関する座談会開催<br>馬事普及特別対策実施 |
| 1990<br>2 | 馬事振興検討会発足<br>北海道事務支所発足（北海道支部廃止）<br>馬事普及啓蒙推進事業基金造成 | ホースメイト　第1号発刊<br>馬の生産動向調査報告書<br>種雄馬の性機能に関する試験調査（3年継続） |
| 1991<br>3 | 馬事普及啓蒙推進事業実施規程制定 | 乗用馬動向（海外馬事事情）調査報告書 |
| 1992<br>4 | 第3代会長　庄野五一朗就任 | 馬事普及啓蒙推進事業による機材、展示馬の貸付開始 |
| 1993<br>5 | 種雄馬管理規程一部改正 | 遠野馬産の実態調査報告書<br>ライディングシミュレータ1基を車載型としてイベント等に貸し出し活用<br>馬事普及管理指導員の養成事業 |
| 1994<br>6 | 馬の毛色及び特徴の記載要領一部改正 | 農用馬生産振興推進協議会（全国及び9地区開催、継続中）<br>農用馬生産技術指導奨励事業 |
| 1995<br>7 | 種馬登録規程一部改正<br>種馬登録規程事務細則制定 | 馬事振興検討会　農用馬生産部会・乗用馬生産部会及び登録部会を開催<br>輸入乗用雌馬の貸付事業開始 |
| 1996<br>8 | 第4代会長　犬伏孝治就任<br>種馬登録規程事務細則一部改正 | 馬事振興検討会　農用馬生産部会・乗用馬生産部会報告書<br>農用馬海外資源調査（北米及びカナダ）<br>馬の飼い方マニュアル発刊<br>馬事振興検討会在来馬部会開催 |

| | | |
|---|---|---|
| 1997<br>9 | 乗用雌馬貸付規程一部改正<br>種馬登録規程一部改正<br>小格馬生産対策事業助成金交付規程制定 | 農用馬海外資源調査（フランス及びベルギー）<br>馬事振興検討会在来馬部会報告書<br>輓曳馬におけるヘテローシスに関する調査 |
| 1998<br>10 | 定款一部改正<br>乗用雌馬貸付規程一部改正<br>種馬登録規程一部改正 | 農用馬海外資源調査（ドイツ及びポーランド）<br>乗用馬生産対策推進事業（中畜委託事業）開始<br>農用馬低コスト肥育技術の確立に関する調査研究開始<br>優良農用馬生産者等表彰事業開始<br>日本の馬産戦後50年史編纂 |
| 1999<br>11 | 創立50周年記念式典挙行<br>定款一部改正 | 農用馬海外資源調査（スウェーデン及びデンマーク） |
| 2000<br>12 | 種馬登録規程の一部改正 | 農用馬海外資源調査（イギリス及びアイルランド）<br>農用馬の肥育技術の確立に関する調査試験報告書<br>輓曳馬におけるヘテローシスに関する調査<br>家畜改良状況調査事業開始（平成17年度まで）<br>海外馬事事情研修事業（フランス）<br>農用種雄馬・乗用種雌馬購買（フランス） |
| 2001<br>13 | 種馬登録規程事務細則の一部改正 | 農用馬海外調査（イタリア、オーストリア、ハンガリー）<br>馬放牧肥育確立に関する調査試験報告書（3年継続）<br>海外馬事事情研修事業（フランス）<br>乗用種雄馬購買（ドイツ） |
| 2002<br>14 | 犬伏会長死去、会長職務代行　瀬川良一就任<br>北海道事務所、畜産会館から共済ビルに移転<br>家畜改良センターが独立行政法人へ移行<br>家畜人工授精（馬）講習会開催<br>種雄馬管理規程一部改正 | 畜産振興対策支援事業（乗用馬生産振興・普及推進事業）（5年継続）<br>種雄馬購買（フランス）<br>海外馬事事情研修事業（カナダ・アメリカ） |
| 2003<br>15 | 第5代会長　岩崎充利就任<br>定款一部改正<br>本部事務所、神田駿河台から新川に移転<br>種馬登録規程、同事務細則の一部改正 | ホースイベント開催支援事業実施<br>馬診療技術等研修会開催<br>農用馬放牧肥育技術確立検討事業報告書<br>乗用馬の生産・需要動向調査成績報告書<br>野間馬の保存活用による多面的機能の計測に関する研究<br>海外馬事事情研修事業（カナダ・アメリカ） |
| 2004<br>16 | 競馬法一部改正（17年1月実施） | 種雄馬購買（フランス）<br>米国オハイオ州ドラフトホース事情視察 |
| 2005<br>17 | 第6代会長　赤保谷明正就任<br>種馬登録規程事務細則の一部改正<br>種雄馬管理規程の一部改正<br>家畜人工授精（馬）講習会開催<br>「家畜改良増殖目標」改定 | 家畜等繁殖・生産技術向上対策事業（馬繁殖性改善緊急対策事業）（3年継続）<br>内国産農用種雄馬購買・配置制度の改善<br>在来馬保存紹介事業（3年継続） |
| 2006<br>18 | 北海道事務所を共済ビルから獣医師会館に移転 | 日本在来馬　絶滅危惧種（対州馬、宮古馬、与那国馬）別に特別対策実施<br>フランスから馬生産事情調査団来日<br>馬事協会登録データをホームページにより公開 |
| 2007<br>19 | 種雄馬管理規程事務細則の一部改正<br>種雄馬管理規程の一部改正<br>家畜人工授精（馬）講習会開催<br>北海道市営競馬組合解散、ばんえい競馬帯広単独開催に<br>地方競馬全国協会が地方共同法人としてスタート | 家畜生産技術向上等特別対策事業（馬生産技術向上推進事業）（3年継続）<br>全国一元的に小格馬登録業務及び個体識別等証明業務を実施<br>優良農用馬資源確保緊急特別対策事業<br>農家定点調査事業開始（平成20年度まで）<br>フランスから馬生産事情調査団来日<br>「ホースメイト」休刊（最終第53号） |
| 2008<br>20 | 家畜人工授精（馬）講習会開催<br><br><br><br>創立60周年 | 馬人工授精実施体制を整備（ドイツへ職員ら派遣、実習）<br>主産地に擬牝台など器具機材の導入支援<br>「馬事協会だより」発行<br>大家畜生産技術向上対策事業（馬繁殖性向上対策事業）（3年継続）<br>家畜改良体制運営事業に参画<br>韓国乗用馬登録業務協力のため役職員を派遣<br>日本馬事協会「60年のあゆみ」発行 |

# ２．日本在来馬の保存と利活用に関する基本構想

平成 19 年３月
日本馬事協会

## Ⅰ　日本在来馬の現状

現在、我が国には８馬種の日本在来馬（以下「在来馬」という）が存在しており、その頭数は表１・２の通りで、中央競馬会からの助成を受けた当協会をはじめとする関係機関の支援と表１・３に掲げる各馬種保存会など地元関係者の努力にもかかわらず、全体としての頭数は平成６年度をピークに微減傾向が続いている。

馬種別の現状は以下のとおりとなっている。

### 1. 北海道和種馬

保存会は昭和 51 年に設立、登録業務も昭和 54 年には開始され、在来馬の中で最も多い頭数が飼養されており、当面、絶滅の危惧はないものの飼養農家の老齢化は進んでおり、飼養頭数は漸減傾向が続いている。特徴としては、用途に食用があり、肉質がいいことがあげられる。また、北海道文化遺産に登録され、道民の関心は高まっている。毎年、保存会が道内一円で共進会を開催し、北海道和種馬としての特徴を有した馬を表彰し、保存活動を行っている。最近では、流鏑馬競技への供用が盛んになっている。

### 2. 木曽馬

保存会は長野県旧開田村（現在木曾町）の尽力で昭和 44 年に設立、登録業務も昭和 51 年に開始され、保存会活動としては古い歴史を有している。保存会をはじめとする関係者の努力により、昭和 55 年には 39 頭まで減少した飼養頭数は平成 17 年には 161 頭にまで回復している。昭和 58 年には木曽馬の 20 頭が長野県の天然記念物に指定された。頭数回復の原動力となったのは、旧開田村の開田高原に開設された木曾馬の里・木曽馬乗馬センターが中心となってその利活用を積極的に進めたことである。また、木曽馬は歴史が古いことから、これにまつわる文化財が数多く存在するが、年を経るにしたがって、散逸する危険性が高まっている。

### 3. 野間馬

保存会は昭和 53 年に設立、登録業務は平成 12 年に開始された。野間馬は昭和 55 年には全体で８頭と絶滅の危機に瀕したが、今治市の積極的な関与により維持増頭され、平成 17 年には 83 頭まで回復している。野間馬は、昭和 62 年に今治市の天然記念物に指定された。今治市が市民のふれあいの場、観光の拠点として位置づけている「野間馬ハイランド」で飼養されている。ひとつの集団での飼養のため、近交係数の高まりが懸念される。

### 4. 対州馬

保存会は昭和 47 年に設立、登録業務は昭和 54 年に開始された。飼養方式が使役馬として飼われていたときと同じ舎飼いでかつ飼養者の老齢化等のため、飼養頭数は昭和 55 年には 171 頭いたものが平成 17 年には 25 頭に激減しており、絶滅が危惧される。この地域は地元市の財政難が深刻化しており、飼養環境の改善等について地元以外からの積極的な支援が必要となっている。

### 5. 御崎馬

保存会は、8馬種の中で最も古い昭和43年に設立、自然交配のため登録業務は行われていない。昭和28年には8馬種の中で唯一国の天然記念物に指定され、国立公園内の都井岬で飼養されている。頭数は平成10年ごろまでは80～100頭前後で推移していたが、現在では120程度でほぼ横ばいで推移している。

### 6. トカラ馬

保存会は、昭和48年に設立、自然交配のため登録業務は行われていない。この馬は本来の飼養地帯であるトカラ列島内での飼養が一時絶滅し、増殖のために飼養した鹿児島大学の牧場や開聞山麓自然公園で種が保存され、再度トカラ列島の中之島へ里帰りさせて現在に至っている。この里帰り事業は一時馬への寄生虫の伝染により大量の馬が死亡するというアクシデント（平成6年、鹿児島県十島村中之島において、放牧中のトカラ馬25頭のうち13頭が線虫寄生により死亡）に見舞われ、それを乗り越えて現在に至った。頭数的には、昭和52年の62頭から平成4年には118頭まで増えたものの、その後里帰り馬のアクシデントにより一時減少したりしたため増減を繰り返し、平成17年は113頭となっている。

### 7. 宮古馬

保存会は昭和55年に設立、登録業務は平成18年に開始された。この馬は保存会設立後の昭和58年には7頭にまで減少し、絶滅の危機に瀕した。その後島外の粟国島に持ち出され飼養されていた宮古馬を逆導入し、繁殖に努めた結果、平成5年には25頭まで回復してその後ほぼ横ばいで推移し、平成17年には23頭となっている。しかし、25頭以下の集団では近親交配による繁殖率の低下、奇形率の増加が懸念され、依然として、絶滅が危惧されている。また、飼養管理も周年舎飼い方式であることから運動不足による不受胎も懸念されている。計画的な交配や放牧による飼養管理の改善が必要となっている。

### 8. 与那国馬

保存会は昭和50年に設立、自然交配のため登録業務は行われていない。この馬の飼養頭数は昭和55年当時の55頭から増減を繰り返しながら、平成12年には120頭まで増頭したがその後減少に転じ、平成17年には94頭となっている。この馬種は保存会が管理運営する2つの牧場（牛との混牧）に全体の約7割、そのほかの個人牧場に約3割が飼養されている。保存会は2つの牧場の管理運営のほかに町が設置した「与那国馬ゆうゆう広場」も町からの委託を受けて管理運営している。この「ゆうゆう広場」は与那国馬と地域住民や観光客とのふれあいの中心的位置づけの役割を担っている。この地域は、昔から、牛馬を共同放牧する場合に牛馬の所有者を表すために家畜の耳に紋章を切り込む慣わし「耳判」という独特の風習が残っている。

## Ⅱ　保存・活用の課題と対応

以上見てきたように、我が国には我が国固有の馬として、8馬種が在来馬として認定され、昭和52年から中央競馬会からの助成による日本馬事協会からの支援等を受けて、各保存会がそれぞれの地域、馬種にあった保存・利活用のための活動を推進しているところである。しかし、近年、飼養者の高齢化、新たな担い手の確保難等から全体的には飼養頭数は減少（北海道和種馬の減の影響が大きい）する傾向にある。また、飼養管理等の問題から極端な繁殖率の低下、近交係数の高まりがみられ、在来馬をとりまく情勢には厳しいものがある。

在来馬はそれぞれの立地条件、用途などに応じて改良され、飼育されてきた。在来馬の共通点としては、中・小型で、性質は温順、また、強健で持久力に優れ、飼育管理も比較的容易であるといった特質があり、我

が国のかけがえのない遺伝資源、文化遺産である。

在来馬は日本人と馬が共生してきた証である。このため、この在来馬を今後、どうのようにして次世代に継承していくのか、その新たな指針と行動が求められている。

以上のような、在来馬に対する時代の要請にこたえていくためには次のような課題への対応が必要になっている。

1　在来馬は一般的には中・小型、温順、強健性等の特徴を有しており、近年、これらの特徴を活用した用途として、児童用乗馬、流鏑馬等伝統馬術文化、乗馬療法等向けへの関心が一部に強まってきている。しかし、これらの現象は口コミや個別の対応で行われているのが現状であり、在来馬の利活用を促進するためにはこれら在来馬に関する情報の普遍化、広域化が必要である。

　また、在来馬はそれぞれ独特の特色を有しており、その特色に応じた利活用を図るためにはそれらの情報を広く一般に理解してもらうと同時に、在来馬相互の情報交換も重要となっている。

2　在来馬をめぐる現在の厳しい情勢をまねいた原因の一つとして、在来馬の利活用への視点が希薄であったのではないかと考えられる。

　このため、今後の保存活動の展開は、利活用を促進させることを最優先に取り組むことが必要で、さらには保存・利活用を通じて一定の収益を生む体制を構築することが求められている。

3　各在来馬はその形成されてきた風土、歴史等によりそれぞれの特徴がある。これに伴い各保存会が抱える問題点・課題等もまたそれぞれに異なる。

　このため、8馬種を通した一律的な対応ではなく、各在来馬の特徴を生かすことを主眼に置いた事業の仕組みが必要である。

4　在来馬は他の産業動物と異なって人の文化活動との交わりを通じて長い歴史的過程の中で形成されてきた。この結果、馬具、農具、絵画等のほか、祭りや流鏑馬さらには駄載等有形無形の貴重な文化財が残されてきた。しかしながら、近年これらが現状のまま推移すれば、地域における経済効率化等の波の中で在来馬にかかるこれらの貴重な文化財が散逸してしまう危機にさらされており、早急な保存活動が求められている。

　また、近年地域のイベント等への在来馬の参画が期待されていることから、これらのイベント等での一層の活用が求められている。

5　在来馬の生産現場においては、飼養者の高齢化が進み、飼養技術も慣例的な管理に陥っているとともに、飼養環境にあっては施設の老朽化が進み、この結果、生産率の低下をきたしている。一方、現状で見たように一部在来馬（トカラ馬）にあっては過去に衛生対策の手遅れにより、大量の馬が死亡した事例もあった。

　このため、在来馬の頭数を確保し増産を図るには飼養技術の向上、飼養環境の整備のほか万全な衛生対策が望まれる。

6　なお、対州馬、宮古馬、与那国馬の3馬種は、飼養頭数の現状、繁殖率の推移等から判断して、このまま放置すれば絶滅の恐れのある実態となっている。

　このため、これら3馬種については生産体制の強化策等の絶滅を回避する特別な対策を講じる必要がある。

## Ⅲ　今後新たに対応すべき事業

Ⅱの基本的考え方に立って、今後、在来馬の保存・維持拡大を図っていくためには以下のような新たな事業対応が考えられる。

なお、これらの事業は各保存会の活動を通じて行うほか、一部については（社）日本馬事協会自らが行う。

### 1　利活用の促進

#### (1) 在来馬の普及啓発事業

在来馬の特性を生かした利活用を望む実需者に対し、在来馬に関する総合的・体系的な情報を定期的に提供する普及啓発を行う事業を実施する。具体的には現在行っている「ホースメイト」刊行による在来馬紹介事業を継続実施するほか、以下のような事業を行う。

①　印刷物の発行

歴史、特徴、性質、保存会の概要及び活動状況、飼養頭数の現状、種雄馬名簿、性別・年齢・登録の有無・調教の有無等を記載した全頭数の名簿、販売可能在来馬に関する情報（所有者、連絡先等を記載）等のほか、各種研修テキスト等を作成し配布する。

②　ホームページの開設及び情報の発信

それぞれの保存会の活動状況や在来馬に関する各種情報を広く周知するため、未だ開設していない会にあってはホームページの開設と運営、すでに開設している会にあっては当該ホームページの内容の充実を図るための事業を実施する。

ホームページに掲載する内容は、上記①にあげた項目を中心とし、その内容を適時更新することとする。

③　馬事文化保存活動の強化

有形、無形の馬事文化財の保存さらには普及啓発を図るため、次のような事業を実施する。

ア　在来馬にかかる文化財の保存活用

昭和後半からの大幅な頭数の減少等に伴い在来馬にかかる文化財が消失、または散逸の危機に瀕している。

このため、現存する有形無形の文化財を確認するとともに、これらの保存・活用手法等を検討し、地域に散在する消失が懸念される馬に関する有形文化財、又は普及啓発に必要な馬具・衣装等を購入するなど、今後これら文化財の保存活用対策を強化する。

イ　馬事伝統文化技術の継承

古式馬術、流鏑馬等祭事、駄載等の馬事伝統技術を継承するため、新たな担い手の確保を目的にした講習会等を開催する。

#### (2) 在来馬販売体制の整備

在来馬の利活用促進のため、次の事業を実施し、その販売の促進を図る。

①　飼養者と実需者との交流会の開催

飼養者は実需者が求める馬の資質を知り、また、実需者は馬生産実態の理解を深めるため、飼養者と実需者が恒常的に意見交換等を行う交流会を開催する。

②　調教への技術指導

需要に見合った在来馬の付加価値を向上させるため、飼養者等に対する初期調教技術の向上を図るため、調教専門家の現地指導派遣又は招聘及び地元研修会等の開催を実施する。

③　販売奨励金の助成

在来馬のうち、一定頭数以上が確保されて、それ以上の頭数が供給されるようになった場合、これらの馬を保存会を通して販売する場合、一定額の販売奨励金を保存会を通じて助成することを今後検討する。このことは、在来馬の利活用の促進につながるほか、保存会の運営基盤の強化にも資する。

## 2　生産体制の整備　－適正な保存頭数の確保－

### (1) 飼育費の助成

生産体制の維持を図るため、種雄馬管理奨励費、種付雌馬奨励費、雌馬保留奨励費及びその他飼育奨励費を助成している現在の事業を継続して実施する。

### (2) 専門家の招聘または派遣及び地元研修会の開催

繁殖率の向上を目指して、繁殖を中心にした飼養管理技術等について専門家を派遣又は招聘して地元研修会を開催し、技術の向上を図る

### (3) 衛生対策の強化

在来馬は絶対数が極めて少なく、一度伝染病や寄生虫が蔓延すると壊滅的打撃を受けて飼養頭数の回復が困難になることも予想される。このため、衛生対策には細心の注意が必要で、各種の予防注射、線虫等地域特有病に対する駆虫剤投与等の経常的衛生対策が実施できるようその体制確立に向け指導し、これら対策経費について助成する。

### (4) 絶滅危惧種対策等としての簡易施設整備の実施

絶滅が危惧される３馬種については、緊急に、繁殖率の向上等を図るための放牧場や子馬の早期分離のための施設に要する牧柵、水飲み場等の設置について助成する。また、その他の馬種を含め、飼養環境改善のための厩舎等の改修、厩舎周辺の環境美化を行う簡易な施設整備についても今後助成を検討する。

### (5) 保存会に対する人件費（賃金）助成

以上の（1）から（4）に上げた事業を新たに又は継続拡大していくとすれば、保存会の業務量の増嵩が見込まれる。

このため、適切且つ適正な業務の推進を図ることを目的に保存会に対し、事業費の一定割合を限度に人件費（賃金）を助成する。

## 3　在来馬に関する調査研究

今後、適切な在来馬の保存・利活用を推進するための問題・課題を抽出し、解決するための手法等を明らかにするための調査研究事業を実施する。

項目として次のようなものがあげられる。

① 種の保存のための頭数の学術的適正規模
② 近交回避のための馬種ごとの遺伝的調査に基づく交配計画の作成
③ 利活用促進のための新たな用途拡大対策
④ 在来馬の用途別需要量調査

# 3. 乗用馬生産振興対策事業報告書

平成 19 年 3 月 1 日
乗用馬生産振興会議
（座長　山口洋史）

## Ⅰ　概況

日本には古くから人と馬とが濃密な係わり合いを持つ伝統的な馬文化が存在していたが、残念ながらそれは乗馬の普及にあまり貢献しなかったし、近代スポーツとしての馬術競技や乗馬に必要な乗用馬生産にも結びつかなかった。

しかし、憧れがあるものの敷居が高く、なかなか自分がするスポーツとなりえなかった日本の乗馬・馬術が経済成長とともに発展をとげ、身近に乗馬クラブができ身近に乗馬をたしなむ人が増えてきて、一般の人でも気軽に乗馬ができる環境が整い始め、乗馬クラブ・乗馬人口の増加に伴い乗用馬も急激に増加した。高度経済成長期から若い女性が中心となって乗馬を盛り上げきたが、近年は少子化の影響で一人の子供への教育費が今までよりも多く使われるようになって、習い事のひとつとして乗馬を学ぶ子供が増え、さらには団塊の世代とその上の世代で若々しい意欲を持って乗馬にチャレンジする人が増えてきている。

このように乗馬施設・乗馬人口・乗用馬の頭数は増えているものの、そこで使われる初心者用のレッスンホースは、初心者にはあまり向かない競走馬からの転用が多く、初心者向きの馬が少ないことが日本の乗馬発展の大きな阻害要因となっている。

### 初心者に向いた馬

体高がやや低く馬体に幅があり、反撞が小さくて背があまり敏感でなく、温順で素直な馬。

また、全日本クラスの競技会に参加するレベルの競技用馬は、高い資質と高度な調教を必要とし、国内ではほとんど生産・調教されていないため、豊かな経済力を背景にヨーロッパの馬術先進国から購入することが多かった。

その中で、馬事関連団体は、種雄馬・繁殖雌馬の貸与や乗用馬市場（セリ）上場馬の購買などにより、内国産乗用馬の生産支援を行ってきたが、昨今の経済事情により、従来の方法では支援しきれなくなってきており、また、バブル崩壊後も順調に勢いを増していた乗馬クラブも、以前に比べ海外からの高額な輸入馬の数が減少し始めている。

しかし、そういった中で、伝統ある馬産地の遠野市で「馬の里」を中心に近代的な乗用馬生産が進められ、同様に根釧地区を中心とした北海道においても乗用馬生産が活気付き始めてきている。

### 乗用馬生産のレベルが向上している理由

① 高資質の種雄馬と日本馬事協会のセル・フランセ種繁殖雌馬（妊娠馬）の輸入により、血統の更新が進んだこと

② 馬事関連団体が生産者に対して、生産・馴致育成の知識・技術の指導を積極的に行ったこと

③ 日本の経済状況が悪化し海外から高資質（高額）の馬が買いにくくなり、内国産乗用馬への注目が高まったこと

日本の乗用馬生産はここ数年の間に格段に飛躍しているが、競走馬に比較して乗用馬は活躍し始める年齢が

遅く競技会等で結果が出るまでに時間がかるため、日本の馬術・乗馬界全体としてはまだ十分に認知されていない。しかし、日本の馬術のレベルアップのためには日本でも高資質の乗用馬を生産しなくてはならないと考えている馬術関係者は、日本の乗用馬生産の変化を十分感じ取り、乗用馬生産地を注目し始めているところである。

また、乗用場市場の盛り上がりについては、全国乗馬倶楽部振興協会の活躍が大きな要因となっている。全国乗馬倶楽部振興協会は、生産された乗用馬の主なユーザー（購買者）である乗馬クラブの窓口として、ユーザーのニーズの収集と生産馬の情報のスムーズな発信を担い、ユーザーと生産者の連絡役として乗用馬生産の発展に貢献している。

日本全国の生産地の中でも、遠野は生産馬の資質向上が顕著に表れている。遠野は古くからの乗用馬生産の歴史があるばかりでなく、近年も遠野市役所が全面的にバックアップしている「馬の里」が、乗用馬生産の中心基地として、多くの乗用馬生産者を指導するとともに、上場馬の馴致調教も行っている。

また、遠野の生産者も古くからの伝統とともに、「馬の里」及び馬事関連団体の指導や育成対策の援助を受けながら近代的な生産に積極的に取り組み良好な結果を出し始めている。さらに、地元の生産者以外に一般企業等に勤めていたＪターン・Ｉターンの者も加わり、特に、こういった近代的なビジネス感覚を持った新たな生産者層が乗用馬生産に良好な影響を与えることができたと思われる。また、乗用場市場においては、血統の更新や近代的な生産技術、さらには馴致・調教等の目覚しい進歩により上場馬のレベルが著しく向上したため、購買者が増え落札価格も上がって買いたくてもなかなか買えないという状況である。

根釧地区を中心とした北海道では、広い放牧地を利用して頑丈で多頭数の乗用馬を、それも比較的安価で生産することができ、日本の乗馬の普及に貢献してきた。

しかし、近年、乗用馬市場においては、馬術競技会等で高い能力を発揮できるような馬が求められるようになり、北海道の種雄馬・繁殖雌馬ではそれにあまり応えることができず、高価格となる競技用馬やレベルの高いレッスンホースは遠野で購買し、北海道では金額的に安いレッスンホースやトレッキングホースの購買という傾向が顕著になっている。

北海道は広い放牧地で自由に走り回らせて頑丈な馬を多頭数生産しているため、一頭一頭に十分な手がかけられないうえ、「馬の里」のような中心となる機関がないこともあり、遠野市役所・「馬の里」・生産者が三位一体となって取り組みどんどん良化する遠野産馬と比較して、上場馬の馴致調教不足が指摘され始めた。

そのため、北海道の生産者は乗用馬市場の上場前の馴致調教や上場時の馬の手入れ等にも力を注ぐように努力し始めたところである。

ただ、血統の更新については、地理的に中央から離れていること、乗馬クラブとの関係があまりないことなどから、なかなか進んでいないのが実状である。

## Ⅱ　今後の展望と課題

### １．国内における乗用馬生産の必要性

JOC 会長竹田恒和氏は日本馬術連盟機関誌「馬術情報」平成 19 年 1 月号に、「馬術の強い国は馬産に成功した国」と述べられており、これは日本の馬術向上には内国産乗用馬のレベル向上が必要であると言い換えられると思われる。

内国産乗用馬の必要性：

① 海外からの輸入に依存していると、いい馬にめぐり合ったときはよい成績を残せるが、その馬だけで終わってしまう。

② 本当にいい馬はどこの国も手放さないので、年齢的に峠を過ぎた馬か、その下のクラスを購入しなければならない。

③　競走転用馬に比較して内国産乗用馬は温和な馬が多いため、初心者の乗りやすい馬匹が増加して新たに乗馬を始める初心者が増え、それにより乗馬全体が盛んになる。

④　内国産乗用馬の需要拡大により上場馬の落札価格が高くなれば、良質の種雄馬や繁殖雌馬の導入が期待できる。

⑤　未調教馬を調教しなければならないため、調教技術のある者の必要性が高まるとともに、調教技術向上が図られる。

⑥　生産→育成→調教→競技→生産という生産サイクルが完成されれば、乗用馬生産のノウハウの蓄積ができる。

このように、日本の馬術向上やその基盤をより強化するためには国内における乗用馬生産の向上が不可欠であり、そのためには、生産者の技術向上・生産規模の拡大・繁殖馬のレベルアップ・生産施設の充実などを図っていかなければならない。

## ２．生産者の技術向上と生産者層の拡大

資質の高い乗用馬を数多く生産するためには、生産者の技術向上と生産者層の拡大が必要である。

### (1) 現在の生産者のレベルアップとそのための援助

現在乗用馬を生産されている方たちは馬に対する豊かな愛情と長い経験を持っているが、本業の仕事の合間での生産なので繋養頭数に限界がある。そのため、できるだけ効率よく子馬が生まれ、そのまま怪我や病気がなく健康で頑丈に成長して上場されるように、また、上場馬が高いパフォーマンスを発揮できるように、生産者の飼養管理技術や育成・馴致調教技術をさらにレベルアップするための援助が必要である。

### (2) 団塊世代の取り込み（新しいビジネス感覚の導入）

遠野ではＪターンにより初めて乗用馬を生産した者が、現在では生産組合をリードするほど大活躍しており、これは一般企業で長い間培ってきたビジネス感覚が大いに役立っていると思われる。今後団塊世代がいろいろな分野に参入すると取りざたされているが、その大勢の方たちの中には、馬は取り扱ったことはないが乗用馬を生産してみたいと思っている者は大勢いると思われる。そういった方たちを取り込むことができれば、生産者層の拡大ばかりでなく新しいビジネス感覚に基づいた乗用馬生産が行われるようになるはずである。

そういった初心者を集めて指導できる研修機関的な基地を設置した上で一般紙等に積極的に情報発信し、乗用馬生産に関する１泊２日や１週間程度の有料体験講座を実施する。こういったことを繰り返すことにより、本当にやりたいという情熱を持った者を取り込むことが可能となる。

### (3) 郊外型乗馬クラブの取り込み

全国の乗馬クラブや馬術関係者は、内国産乗用馬の著しいレベル向上に目を向け始めており、特に郊外型の乗馬クラブは所有している広い放牧地を活用して自分でも生産してみたいと思い始めている者も多くなってきているし、生産で一番重要となる高資質の雌馬（高額な輸入競技馬が多い）を持っている者も多い。しかし、繁殖雌馬にとって一番いい年齢は競技馬にとっても一番いい年齢であるため、最高に輝く時期に競技を引退させ繁殖に供用するという決断がなかなか難しいのが現状である。

したがって、高資質の雌馬ほど早く繁殖に供用して多くの産駒を生産することが次世代のための先行投資であることをアピールし、自分で生産した馬を自分で調教して競技で活躍することが一番すばらしいという風潮を日本全体に醸し出していくことが重要である。

### (4) 競馬関係者の取り込み（軽種馬・輓曳の生産者、軽種馬生産者の乗用繁殖雌馬の預託）

競走馬の生産が落ち込んでいる中で、軽種馬や輓曳の競走馬の生産者で、生産からの撤退や頭数削減を考えているがどうしても馬から離れられないという人たちも多い。このような生産者が乗用馬を生産したり、繁殖雌馬の預託を受けることは生産者層の拡大に繋がるとともに、先進的な競走馬の生産技術を身に付けているため乗用馬生産をリードすることができる。

また、都市型乗馬クラブでは高資質の雌馬を繁殖に供用しようと思っても放牧場や空き馬房に限りがあるため生産したくてもできないという状態があることから、そういった雌馬を競走馬の生産者に預託して生産することは、競走馬の生産者も馬から離れずに収入を得ることができ、乗馬クラブも自分の高資質の雌馬を繁殖に供用しやすくなる。

(5) 若い世代の取り込み（真の産業としての確立）

馬事関連団体は常々乗用馬生産の産業としての確立を提唱してきているが、そのためには趣味や定年後の仕事としての収入ではなく、若い世代が自分の家族を養える収入を確保することと一生の仕事として生きがいを持てることが必要となる。

しかし、いくら若い者が専業の仕事としても、乗用馬生産だけで生活に必要な収入を確保することは非常に難しい。

専業の乗用馬生産者の問題点

① 一人で扱える頭数には限界があるうえ、不受胎・流産・死産や怪我の可能性がある。

② 少ない上場馬数で必要な収入を確保しなければならないが、上場した馬をすべて高く売ることは難しい。

③ 産駒が高く売れる可能性の高い高資質の繁殖雌馬を、多数繋養することはさらに難しい。

④ 若く未調教の内国産乗用馬に対して、日本の馬術界が払う金額には限界がある。

したがって、若く情熱を持った専業の乗用馬生産者は、自分が生産するとともに他の人からの繁殖雌馬や養老馬の預託を受けて、まず生活を安定させるよう努力すべきである。また、彼らが今後の日本の乗用馬生産をリードしていくと思われることから、馬事関連団体が海外または国内の乗馬クラブから高資質の繁殖雌馬を彼らに優先的に有料で貸し付けを行う等で支援する必要がある。

土地や厩舎等についても公的団体・地方公共団体からの助成などを利用すべきだが、無料貸与はやめ、リスクを背負ってでも生産に参入したい者だけを援助するようにしなくてはならない。

若い世代が生きがいを持って仕事に就き、家族の生活を支えるだけの収入を得て生活基盤を確保することができて、初めて産業として確立されたということができる。

(6) 集合生産牧場の建設と法人化

乗用馬生産に新たに参入する若い世代が少ない理由に、生き物相手のため休みがあまりないことがあげられる。その解決方法として、繁殖馬等は個人所有であるが、厩舎・放牧地を複数名で共有するか一緒に借り受けて、施設・作業等を共有化・協同化することにより作業等の効率化と個人の作業軽減化を図るということが考えられる。

これにより、個人の負担が減るとともに、その分若干の規模拡大とそれに伴ってリスクの分散が可能となる。

最初は単なる施設・作業等の共有化・協同化であるが、最終的には近代的乗用馬生産の核となる法人設立をめざす。法人になって規模の拡大が進めば、さらにスケールメリット・リスクの分散が進み効率的な事業展開ができるばかりでなく、乗用馬生産の中心的存在となれば地方公共団体や馬事関連団体から積極的な支援が受けられるはずである。

ただし、乗用馬生産は馬が愛情の対象にもなるという特殊性があるため、一般のビジネスとは異なってただ単に利潤を追求すればいいというものではないので、法人化するときはそこに参画する者の馬に対する考え方や思い入れなどをよく話し合い統一しておかなければならない。また、基本的に収入が年に１回しかないため支出との兼ね合いが非常に難しくなるので、経理については特に慎重に管理していかなければならない。

## ３．生産

(1) 生産方針

自分が作ろうとする馬の用途を明確にし、それに最もふさわしい繁殖雌馬を選択する。自分で生産したい

馬の方向とセリで高く売れる馬の方向とが異なることがあるため、自分が馬を生産する目的をよく認識しておく必要がある。

購買者からの批判に、上場された馬のセールスポイントが分からない、生産目的が明確でないというものがある。

セリで高く評価されたいなら、購買者のニーズをよく把握し、それに沿った種雄馬と繁殖雌馬を選択して必要な育成・馴致調教を実施するとともに、そのセールスポイントを購買者にアピールしなければならない。

かつては競技馬とレッスンホース程度の区別しかなかったが、現在では多くの人たちがいろいろな乗馬の楽しみ方をしており、そのニーズは急激に多様化していっている。障害・馬場・総合馬術だけでなく、レッスンホースも上級・中級・初級・初心者用や、他にもウエスタン（レイニング）やエンデュランス、トレッキングホース、女性・高齢者・子供用ライディングポニー、子供・幼児用ポニー、愛玩用ミニチュアホース、ホースセラピー用ポニーなど、拡大する乗馬年齢層と幅広い用途のニーズがありそれに応じた馬が必要となる。

自分の生産した馬のセールスポイントを多くの購買者に正しく伝えなければ馬が持っている能力を十分に発揮できなくなる可能性があるばかりでなく、その馬をいちばん欲しいと望んでいる人に買ってもらえなくなってしまう。

したがって、インターネットやセリ名簿でその馬の持つ能力についてできるだけ詳細に情報発信し、セリのための馴致調教を自ら行うか乗馬クラブ（コンサイナー）に依頼して、セリで最高のパフォーマンスを披露できるようにする。

(2) 繁殖雌馬

ここ数年のセリの結果から分かるように、高資質の繁殖雌馬の産駒であって、よく馴致調教されていて、自由飛越等ですばらしいパフォーマンスを披露した馬が高い評価を得て、高額で売れている。

繋養している繁殖雌馬の今までの産駒たちが高く売れなかった場合は、初期の育成や馴致調教の問題などいろいろな理由が考えられるが、一番重要と思われるものはその繁殖雌馬の血統がユーザーから高い評価を得られていないということである。そのため、明確な評価基準を作って繁殖雌馬を厳正に評価し、よりよいと思われる繁殖雌馬に入れ替えることが必要である。

馬事普及にとっては競技用馬もレッスンホースもトレッキングホースもすべて同等に重要であるが、購買金額が高いことや日本の馬事普及を馬術競技がリードするという意味で、競技用馬が日本の乗用馬生産の中心に位置付けられることから、競技用馬について検討する。

【競技用馬からの導入】

繁殖雌馬の入れ替えについては、まず国内の競技会で活躍している競技用馬（雌馬）の繁殖入りが考えられる。高いレベルの競技会で活躍する馬のほとんどは海外からの輸入馬であるが、日本人が乗って好成績を挙げている実績等を考慮した場合、日本人にこれ以上合った繁殖雌馬はいないと思われる。ただ、繁殖に適した年齢と競技会で活躍する年齢が重なるため、競技会で活躍する馬ほど繁殖入りが難しいので、所有者に対して繁殖入りの重要性を訴える必要がある。

海外では、優秀な血統の雌馬は競技年齢に達する前に一度出産させ、その後競技用馬としての調教を始めることがしばしばあり、これにより雌馬は少し高い年齢になってからでも出産調教が可能で、また、精神的にも落ち着き競技等で強い精神力を発揮できるようになると言われている。

【競走馬からの導入】

次に、競走馬からの繁殖入りが考えられる。競走馬（サラブレッド・アングロアラブ）は初心者の乗馬に向かない馬が多いものの中級以上レベルでは乗用馬として優れた能力を発揮することが多いし、繁殖雌馬として海外の中間種の種雄馬との相性がよく、その種雄馬の長所をよく伝え日本人にあった軽快性豊かな産駒を生むことが多い。そのため、雌馬の性格・外形（コンフォメーション）・パフォーマンスが繁殖雌馬とし

てふさわしいかをよく検討したうえで、その雌馬にふさわしい種雄馬を選択することが重要である。

**競走馬から乗用馬の繁殖雌馬転用のメリット：**

① 欧米の馬術先進国では、乗用馬の品種改良にサラブレッドなどの軽種馬を導入して成功している。

② スポーツホースとしての軽快性を追求できる。

③ 競技用馬からの導入は元々の頭数が少ないうえ、活躍時期が重なるため繁殖入りが難しいので、その不足分を補う。

④ 競馬の低迷・競走馬の必要頭数減少から考慮すると､繁殖入りできる馬匹数が多い。

⑤ 競走馬の競走引退後の活用の道を広げる。

軽種馬からの繁殖入りは重要な方策と思われるので、そのための環境作り（競馬関係者から乗用馬生産者への架け橋）を生産団体や馬事関連団体が行わなければならない。

【海外からの輸入】

日本の乗用馬生産のレベルが近年非常に向上しているいちばん大きな理由は、日本馬事協会がセル・フランセ種の繁殖雌馬を導入したことである。今の日本のレベルをさらに上げるためには、海外から今まで以上に高資質の繁殖雌馬を再度輸入して、生産基地において繁殖させその産駒（雌馬）を生産者に配付することが必要と思われる。

**(3) 種雄馬**

海外の馬術先進国では凍結精液の利用が進んでいて、高資質の血統が効率的に繁殖に利用されている。日本では凍結精液は利用できていないにもかかわらず、生産頭数が少ないこともあって種雄馬自体が非常に少ない。また、国内で活躍する馬のほとんどはセン馬であるため、競技で実績を上げた後繁殖入りする種雄馬はほとんどいない。

日本の乗用馬生産では国内で生まれた雄馬が繁殖入りすることはなかったが、今後は、雄馬はすぐに去勢しないで能力をよく確かめ、上位のパフォーマンスを発揮する可能性があると思われるときはそのまま調教を進める。種雄馬としては能力の限界であると認めたときは去勢し、さらに上位にいく可能性があると思われる優秀な馬匹は引き続きそのまま調教を続ける。できれば、雄馬のまま競技会に出られるように、調教・騎乗技術のある者に依頼して競技会で活躍してもらう。本来的には預託料・調教料・競技会参加料等を全額支払うべきであるが、話し合いによりお互いの可能な範囲で歩み寄ることが大切である。また、海外のように競技と種付けを並行して行うことを目指すべきである。

競技会で活躍した雄馬（雌馬）が繁殖に戻り、その雄馬（雌馬）からさらに優れた産駒が生産されて初めて生産サイクルが完成したことになる。生産サイクルの完成により、今まで消耗型であった日本の乗用馬生産が拡大循環型になり、馬術先進国のすべてがそうであるように、将来においては国内で生産した馬で海外での活躍を目指せるようになるはずである。

【競技用馬からの導入】

国内の競技会で活躍する雄馬は非常に少ないが、今後はその数少ない高資質の雄馬の繁殖入りを促進して、競馬と同様に、その用途（競技）でいちばんいい成績を残した馬が次世代の産駒を残すようなシステムを確立していく。雌馬ほどでないにしても雄馬も繁殖時期と最良の競技時期が重なるので、できれば競技と繁殖を併用できるようにする。

【海外からの輸入】

海外から優秀な種雄馬を数頭輸入して生産地に配置し、血統が重ならないように数年毎に生産地間で入れ替えする。

【凍結精液の利用】

その他に、乗用馬の資質を高める効率的な方法として、凍結精液の利用がある。これは、海外の最高レベルの血統を導入できるばかりでなく、実馬繋養の必要がなく本交しないので危険が少なく簡単になるため、労働や経費の大幅な削減に繋がる。そのためには、海外からの凍結精液の輸入問題を解決すること、馬を扱

える人工授精師の養成とその増加、および設備の充実が必要となる。

(4) 施設・土地

よい馬を作るには、血統だけでなく広くて環境のよい放牧場と質のよい牧草の確保が絶対不可欠である。

北海道では広い放牧場を十分に活かして生産を行っているが、遠野の個人所有の放牧地は狭く乗用馬生産にあまり向いているとはいえない。そのため、広い公共牧場等を活用して年間を通じて放牧しよい馬の生産に役立てている。

新規に参入する生産者は土地を探すのに苦労することが多いため、市町村等に遊休農地の斡旋を受けるか、公共牧場や公共の採草地等を一部借用するなどの方策を馬事関連団体がシステム化すると、参入希望者が参入しやすくなる。

また、乗用馬生産が可能な地域の多くは、かなり郊外で産業があまり盛んでないところが多いので、乗用馬生産を市町村の行政とタイアップして「町興し事業」の観光資源として位置付け、地域の産業や経済の活性化に貢献できるようにする。緑豊かな広い牧草地に馬が放牧されている風景は、そこを訪れる人たちの心を癒すとともに、またそこを訪れたいと思わせずにはいられないはずである。

## 4．育成・調教段階の分離と確立

乗用馬を競技等で活用するためには、生産・育成・馴致調教・初期調教・馬術的調教・競技会出場という多くの段階が必要であるが、各段階が不明確であったり端折られたりして十分に手が加えられないまま競技用馬になることがある。

育成・調教段階の分離と確立のメリット

① 馬のパフォーマンスの向上

生産から競技までの各段階でそれぞれのプロフェッショナルが十分に手を加えれば、馬はおのずとすばらしいパフォーマンスを発揮できるようになる。

② 乗馬クラブ・牧場等の活動範囲の拡大と収入の増加

広い放牧場（草地）と馬を取り扱う技術を持った者は育成や馴致を引き受け、放牧地を持っている郊外型乗馬クラブでは馴致や初期調教、高い技術を持った者がいれば馬術的調教を実施したりそのまま競技に参加してさらに付加価値を高めることができる。

放牧地がほとんどない都市型乗馬クラブは馬体が成長してから預託を引き受け、競技用馬として最終段階の調教を実施する。

馬の用途によって各段階の分け方が違うし、また乗馬クラブによって得意とする段階が違う。それぞれが自分の持ち味を生かして活動の範囲を広げ収入を確保できる。

③ 一般乗馬愛好家の市場への参加促進

乗用馬市場では購買者のほとんどは乗馬クラブのオーナーであり、一般乗馬愛好家が１歳か２歳のほとんど未調教の馬を購入すると、長期にわたる預託・育成・調教の問題が出てきて自分だけではどうもならず、結局乗馬クラブのオーナーの伺いを立てなければ購入できないということになる。

しかし、各段階を請け負うことのできる乗馬クラブ等の情報が簡単に入手できれば、一般の乗馬愛好家も購買後の預託や調教について選択肢が増え自由に選択できるため、市場で今よりも気軽に馬を購買できるようになる。

④ 調教料の適正化

素人には判りにくい馬の調教料も、正当な労働によって新たに付け加えられた付加価値に対応したものとなって適切な料金設定がなされ、一般乗馬愛好家にも判りやすいものとなる。

⑤ 技術者の増加とレベルアップ

プロフェッショナルの必要性が増し収入が確保されるため、技術者の参入が増え、より高度な技術者が増える。

⑥　乗用馬の育成・調教が産業として確立する

技術者数と収入が増加してその収入で生活できるようになり、乗用馬の育成・調教が産業として確立する。

## 5．乗用馬生産基地の設立

日本馬事協会が輸入したセル・フランセ種の繁殖雌馬は全馬がそのまま生産者に貸与され、それらから生産された産駒のうちの雌馬の一部が繁殖に供用されているが、実際には全体としてセル・フランセ種の繁殖雌馬数の先細り感がある。したがって、今後馬事関連団体により高資質の種雄馬・繁殖雌馬が輸入された場合、その種雄馬・繁殖雌馬からさらに資質が向上した産駒が生産され、頭数が増えていくような乗用馬生産基地の設立が必要となる。

**乗用馬生産基地の必要性：**

①　輸入した種雄馬・繁殖雌馬から高資質な産駒を生産する。

輸入した高資質の種雄馬・繁殖雌馬を最高の飼養管理下に置いて高資質な産駒を生産し、そのうちの最高の雄馬を種雄馬、最高の雌馬を生産基地の基礎雌馬として残し、その他の雌馬を繁殖雌馬として生産者へ貸付する。

②　生産された馬の能力検定の実施

生産されたすべての馬は１歳･2歳･3歳･4歳で能力検定を受ける。特に、資質の高い雄馬は競技馬と種雄馬を併行して行い、競技で活躍して種雄馬としてより高い付加価値を付けるようにする。

③　基地スタッフ・生産者の研修の実施

生産基地のスタッフは自分たちも生産・育成を行いながら、海外研修や海外からの講師招聘などにより自分たちの生産・育成・馴致調教技術の向上を図るとともに、生産者に対して研修を実施し生産者のレベルアップを図る。

また、雄馬を調教し競技会に出場して活躍できる者をスタッフの中から養成する。

④　新規参入者に対する情報発信・研修

新たに参入する者を増やすため、生産界に入る敷居を低く門戸をできるだけ広くして、生産体験１泊２日コース･1週間コースなどを設定し短期研修生を受け入れる。その中で、本当に参入する意欲のある者は１年間研修（有料）等を実施する。

また、全国の地方公共団体や公共牧場との連携により、馬を生産・育成できる広い遊休地や放牧地の情報を集めて、新規参入者に紹介・斡旋する。

## 6．馬事関係団体の協力

行政をはじめ、馬事関連団体、生産者団体が協力しながら、生産・育成・調教・競技・普及・繁殖・養老という馬の一生を正しく管理するシステムを構築していく必要がある。

乗用馬の生産はその生産部分だけが独立して成り立つものではなく、乗用馬の利活用があって初めて存在するものである。生産から利活用まで各団体が同じ方向性であれば、より効率的な生産や利活用を行うことができる。特に、馬術競技での利活用・活躍が、内国産乗用馬の知名度、生産者の収入、乗馬・馬術を知らない人への普及に大きな影響を与えるので、競技用馬の生産を中心に据えて乗用馬生産全体を押し上げるようにしていくとより効率的と思われる。

**(1)　農林水産省**

①　乗用馬生産が盛り上がるために馬事関連団体が協調するよう指導する。

②　凍結精液を輸入できるようにする。

③　人工授精師が増えるようにバックアップする。

④　人工授精に必要な施設・設備の拡充を図る。

⑤　馬の診療を行える獣医師の養成、馬の装蹄師の確保を図る。

(2)　JRA

①　世界で通用するレベルの種雄馬・繁殖雌馬を輸入する。

②　輸入した種雄馬・繁殖雌馬を繁殖させる生産基地を作り、スタッフ・生産者の養成も行う。

③　馬に関する高度な技術・知識を持った職員を講習会・研修会等に派遣するなどの援助を積極的に行う。

(3) 日本馬術連盟：

日本馬術連盟は日本の乗馬・馬術界の中心的団体である。乗用馬生産の中心に競技用馬の生産・利活用があることから、乗用馬生産に関して馬術関係者への期待は大きい。

①　馬術界の意識改革の徹底

「日本の馬術のレベル向上は自分たちの作った馬を自分たちで調教して実現しなくてはならない」という強い信念を日本の馬術関係者全員が持つように日本の馬術界の意識改革を図る。

②　内国産馬の積極的な表彰

国内で生産された馬を自ら調教して活躍する者がもっと賞賛され、もっと尊敬されるような環境を作る。優秀な成績を上げた内国産馬に対しては日馬連広報誌「馬術情報」やホームページ、その他のメディアによってその名誉を褒め讃えるとともに、奨励金や賞金を増額する。

③　血統の重要性のアピール

競技会プログラムには必ず参加馬の血統を記載し、馬術関係者が乗用馬の血統の重要性について新たな認識を持ち、優秀な競技馬であればあるほど繁殖に戻さなければならないという意識をもつようにする。

(4) 全国乗馬倶楽部振興協会

全国乗馬倶楽部振興協会は乗用馬を利活用するユーザーの代表である。

ユーザー（購買者）はすぐにレッスンに使えたり本格的な調教ができる年齢の馬を購買したいと思っているが、生産者のほとんどは仕事の合間に乗用馬を生産しているため、自分のところでは１歳か２歳までしか育てることができないことが多い。その間を埋めるものとして、余力のある郊外型の乗馬クラブや競走馬の育成牧場の活用が考えられる。

また、乗馬の底辺を拡大するためには、初心者や子供たちが安心して乗れる・乗せられる初心者用・初級用の優れたレッスンホースが多数必要である。高く売れるのは競技馬であることが多いが、競技馬ばかりでなくこういった優れたレッスンホースがたくさんいて、その結果として多くの高資質の競技用馬が必要になってくるはずである。

しかし、実際には乗馬クラブで活躍する馬の多くは競走馬からの転用であり、それらは中・上級においては高い能力を発揮することも多いが、初心者用として、また子供・女性・高齢者用としてはあまり適していないことが多い。

①　乗馬クラブや育成牧場が育成・調教段階を引き受けられるように環境を整える。

乗馬クラブや育成牧場が購買者から馬を預かり1･2歳から４歳くらいまでの間、放牧や鞍付け、育成・馴致調教、初期調教などのいろいろな育成・調教段階を実施する。これらの乗馬クラブや育成牧場が得意とする段階と預託料等の条件を明確にしておけば、乗馬クラブのオーナー以外も気軽にセリに参加することができるようになるとともに、育成牧場や乗馬クラブのビジネスチャンスの拡大にも繋がる。

②　育成・調教段階を引き受ける乗馬クラブや育成牧場の情報を発信する。

育成や初期調教を受け入れる意欲のある乗馬クラブ等をピックアップし、種々条件を確認する。それらの情報を一元化して、ユーザー（購買者）にすぐに提供できるようにする。

③　乗馬クラブの優秀な雄馬・雌馬の繁殖への促進を図る。

乗馬クラブの会員の中にはすばらしい競技馬やレッスンホースを所有している方も多いが、それらの馬は繁殖可能年齢を過ぎてもそのまま使用されることが多い。こういった方たちに対して次世代の生産の必要性とその楽しみ・喜びを伝え、優秀な雄馬・雌馬の繁殖への促進を図る。

④　生産者に対してユーザーが欲している馬を明示する。

ユーザー（購買者＝乗馬クラブ）はどんな馬が欲しいのかという具体的な条件（体高、運動性、馴致調教の度合いなど）を、ユーザーを代表して生産者および生産組合に対して示す。

例えば、初級の男性が乗ってもふらふらしない体高160㎝前後の馬格・背中のしっかりしたおとなしい馬。初心者・女性・高齢者が乗りやすく扱いやすい体高145㎝前後のライディングポニー。小さな子供たちが安心して乗れる体高110㎝から130㎝くらいのおとなしいポニー等。

どんなスポーツ・芸術でもその道を極めるためには、幼いころから始めなければならないといわれており、それは乗馬・馬術も同様であるが、乗馬・馬術は生きている馬に乗るという特殊性があるため、小さくておとなしいポニーが絶対不可欠となる。日本の乗馬・馬術の底辺の拡大・頂点の向上のためには乗りやすいポニーやライディングポニーの生産を推進していかなければならない。

### (5) 日本馬事協会

日本の乗用馬生産の中心となるのは日本馬事協会である。日本馬事協会が輸入したセル・フランセ種の繁殖雌馬たちによって日本の乗用馬生産が著しくレベルアップしたことは、日本の長い馬産の歴史において最も大きな変革点といって過言ではない。

①　乗用馬生産における馬事関連団体の取りまとめ役として働き、馬事関連団体が同じ方向を向いて活動できるように働きかける。

②　他の馬事関連団体に働きかけ、世界に通用するような高資質の種雄馬・繁殖雌馬を輸入する。

③　今後は既存の生産者ばかりでなく新たな生産者層の拡大や技術・知識の向上、凍結精液の活用、人工授精師や人工授精に必要な施設・設備の拡充を図る。

### (6) 行政の関わり方

北海道と遠野における乗用馬生産の一番大きな違いは、行政との関わり方である。

遠野市は乗用馬生産を自らのアイデンティティーの確立のひとつとして、また遠野のブランド確立の重要な要素として認識しているのに対して、北海道では頭数も少なく売上げもあまり多くない乗用馬生産を乳牛・肉牛や農用馬生産などの畜産のひとつとしては捉えていない。

これからは乗用馬生産を単なる馬の生産としてだけではなく、「町興し事業」の観光資源や地域経済の活性化に貢献できる重要な産業として位置づけ、市町村の行政とタイアップしていかなければならない。生産者サイドも行政にただ「してもらいたい」と訴えるのではなく、「自分たちが地域のためになにができるか」を考えながら生産することが、乗用馬生産を産業として確立するために、また行政からのバックアップを得るためにいちばん重要なことと思われる。

# 4. 馬の総飼養状況

## (1) 平成 18 年の飼養状況

(単位 : 頭)

| 区分 | 種雄馬① | 繁殖雌馬② | 産駒③ | 育成馬④ | 競走馬⑤ | その他⑥ | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 軽種馬 | 305 | 10,297 | 7,680 | 7,628 | 21,686 | — | 47,596 |
| 農用馬 | 290 | 4,423 | 2,309 | 2,522 | 1,034 | — | 10,578 |
| 乗用馬 | 42 | 306 | 142 | 129 | — | 14,849 | 15,468 |
| 小格馬 | 96 | 600 | 364 | 352 | — | — | 1,412 |
| 在来馬 | — | — | — | — | — | 2,067 | 2,067 |
| 肥育馬 | — | — | — | — | — | 9,847 | 9,847 |
| 合計 | 733 | 15,626 | 10,495 | 10,631 | 22,720 | 26,763 | 86,968 |

## (2) 平成 19 年の飼養状況

(単位 : 頭)

| 区分 | 種雄馬① | 繁殖雌馬② | 産駒③ | 育成馬④ | 競走馬⑤ | その他⑥ | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 軽種馬 | 281 | 10,253 | 7,526 | 7,150 | 20,768 | — | 45,978 |
| 農用馬 | 241 | 3,832 | 2,147 | 2,040 | 1,102 | — | 9,362 |
| 乗用馬 | 38 | 301 | 142 | 135 | — | 14,183 | 14,799 |
| 小格馬 | 86 | 566 | 300 | 285 | — | — | 1,237 |
| 在来馬 | — | — | — | — | — | 1,851 | 1,851 |
| 肥育馬 | — | — | — | — | — | 10,748 | 10,748 |
| 合計 | 646 | 14,952 | 10,115 | 9,609 | 21,870 | 26,782 | 83,974 |

資料 1: 軽種馬①②③は、(財)日本軽種馬登録協会・(社)日本軽種馬協会「軽種馬統計」
2: 農用馬、乗用馬、小格馬の①②③及び在来馬は、(社)日本馬事協会調べ
3: ④は、それぞれの前年の生産頭数に 0.95 を乗じた推定頭数
4: 軽種馬の⑤は、日本中央競馬会、地方競馬全国協会調べ
5: 農用馬の⑤は、「地方競馬統計資料」
6: 乗用馬及び肥育馬の⑥は、(社)中央畜産会調べ
7: 乗用馬の⑥は乗馬施設で供用されている馬

## (3) 総飼養頭数の推移

(単位 : 頭)

| 年次 | 軽種馬 | 農用馬 | 乗用馬 | 小格馬 | 在来馬 | 肥育馬 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 平成 5 年 | 72,779 | 28,378 | 9,797 (9,797) | — | 3,361 | 6,778 | 121,093 |
| 6 | 72,484 | 28,397 | 10,108 (10,108) | — | 3,466 | 7,955 | 122,410 |
| 7 | 70,640 | 27,601 | 10,766 (10,766) | — | 3,157 | 10,070 | 122,234 |
| 8 | 68,489 | 25,321 | 11,234 (11,234) | — | 3,201 | 9,910 | 118,155 |
| 9 | 66,688 | 24,853 | 11,369 (11,369) | — | 2,898 | 9,506 | 115,314 |
| 10 | 64,120 | 22,412 | 11,646 (11,646) | — | 2,892 | 10,260 | 111,330 |
| 11 | 61,954 | 20,574 | 12,189 (12,189) | — | 2,677 | 9,436 | 106,830 |
| 12 | 60,795 | 19,537 | 11,739 (11,739) | — | 2,510 | 9,396 | 103,977 |
| 13 | 59,883 | 18,236 | 13,274 (12,601) | 2,013 | 2,455 | 8,700 | 104,561 |
| 14 | 58,413 | 16,963 | 14,225 (13,457) | 1,627 | 2,400 | 12,390 | 106,018 |
| 15 | 56,096 | 15,057 | 13,755 (12,971) | 1,610 | 2,301 | 13,136 | 101,955 |
| 16 | 53,027 | 13,576 | 13,705 (13,022) | 1,602 | 2,294 | 12,399 | 96,603 |
| 17 | 50,411 | 11,951 | 14,512 (13,799) | 1,486 | 2,087 | 12,439 | 92,886 |
| 18 | 47,596 | 10,578 | 15,468 (14,849) | 1,412 | 2,067 | 9,847 | 86,968 |
| 19 | 45,978 | 9,362 | 14,799 (14,183) | 1,237 | 1,851 | 10,748 | 83,974 |

(注) 乗用馬の (　) 内は、乗馬施設で供用されている馬で内数

# 5. 農用馬の種雄馬、種付雌馬及び生産頭数の推移

（単位：頭、%）

| 年次 | 種雄馬 | | 種付雌馬 | | 生産頭数 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 頭数 | 前年比 | 頭数 | 前年比 | 頭数 | 前年比 |
| 昭和 51 年 | 179 | — | 6,996 | — | 3,887 | — |
| 52 | 195 | (108.9) | 6,790 | (97.1) | 3,835 | (98.7) |
| 53 | 190 | (97.4) | 7,104 | (104.6) | 3,613 | (94.2) |
| 54 | 248 | (130.5) | 8,679 | (122.2) | 4,370 | (121.0) |
| 55 | 303 | (122.2) | 9,852 | (113.5) | 5,060 | (115.8) |
| 56 | 328 | (108.3) | 11,322 | (114.9) | 5,897 | (116.5) |
| 57 | 382 | (116.5) | 11,901 | (105.1) | 6,981 | (118.4) |
| 58 | 415 | (108.6) | 12,084 | (101.5) | 7,399 | (106.0) |
| 59 | 407 | (98.1) | 9,470 | (78.4) | 7,156 | (96.7) |
| 60 | 402 | (98.8) | 8,786 | (92.8) | 6,541 | (91.4) |
| 61 | 406 | (101.0) | 8,680 | (98.8) | 6,457 | (98.7) |
| 62 | 408 | (100.5) | 8,829 | (101.7) | 6,131 | (95.0) |
| 63 | 422 | (103.4) | 9,693 | (109.8) | 6,426 | (104.8) |
| 平成元年 | 346 | (—) | 10,347 | (—) | 5,805 | (—) |
| 2 | 372 | (107.5) | 10,788 | (104.3) | 6,202 | (106.8) |
| 3 | 456 | (122.6) | 11,385 | (105.5) | 6,710 | (108.2) |
| 4 | 402 | (88.2) | 11,197 | (98.3) | 7,031 | (104.8) |
| 5 | 546 | (135.8) | 11,780 | (105.2) | 7,479 | (106.4) |
| 6 | 494 | (90.5) | 10,578 | (89.8) | 8,097 | (108.3) |
| 7 | 411 | (83.2) | 10,588 | (100.1) | 6,758 | (83.5) |
| 8 | 397 | (96.6) | 9,953 | (94.0) | 6,383 | (94.5) |
| 9 | 405 | (102) | 9,579 | (96.2) | 6,606 | (103.5) |
| 10 | 402 | (99.3) | 8,522 | (89.0) | 5,240 | (79.3) |
| 11 | 364 | (90.5) | 7,732 | (90.7) | 4,998 | (95.4) |
| 12 | 421 | (115.7) | 7,591 | (98.2) | 4,701 | (94.1) |
| 13 | 443 | (105.2) | 7,163 | (94.4) | 4,121 | (87.7) |
| 14 | 445 | (100.5) | 6,673 | (93.2) | 3,906 | (94.8) |
| 15 | 397 | (89.2) | 5,895 | (88.3) | 3,730 | (95.5) |
| 16 | 380 | (95.7) | 5,286 | (89.7) | 3,147 | (84.4) |
| 17 | 363 | (95.5) | 4,843 | (91.6) | 2,655 | (84.4) |
| 18 | 290 | (79.9) | 4,423 | (91.3) | 2,309 | (87.0) |
| 19 | 241 | (83.1) | 3,832 | (86.6) | 2,147 | (93.0) |

資料：(社)日本馬事協会調べ

(注)：昭和 63 年までは、在来馬、ポニー、乗系馬を含む、平成元年以降は在来馬、ポニー、乗系馬を含まず、農用馬（輓系馬）のみの頭数

# 6. 乗用馬の種雄馬、種付雌馬及び生産頭数の推移

ア． 乗系種

（単位：頭、%）

| 年次 | 種雄馬 | | 種付雌馬 | | 生産頭数 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 頭数 | 前年比 | 頭数 | 前年比 | 頭数 | 前年比 |
| 平成元年 | 6 | (100.0) | 75 | (105.6) | 42 | (100.0) |
| 2 | 8 | (133.3) | 105 | (140.0) | 32 | (76.2) |
| 3 | 9 | (112.5) | 87 | (82.9) | 57 | (178.1) |
| 4 | 8 | (88.9) | 106 | (121.8) | 62 | (108.8) |
| 5 | 13 | (162.5) | 141 | (133.0) | 74 | (119.4) |
| 6 | 15 | (115.4) | 68 | (48.2) | 81 | (109.5) |
| 7 | 6 | (40.0) | 139 | (204.4) | 48 | (59.3) |
| 8 | 9 | (150.0) | 215 | (154.7) | 85 | (177.1) |
| 9 | 25 | (277.8) | 225 | (104.7) | 143 | (168.2) |
| 10 | 25 | (100.0) | 269 | (119.6) | 101 | (70.6) |
| 11 | 31 | (124.0) | 275 | (102.2) | 168 | (166.3) |
| 12 | 39 | (125.8) | 313 | (113.8) | 175 | (104.2) |
| 13 | 40 | (102.6) | 364 | (116.3) | 177 | (101.1) |
| 14 | 50 | (125.0) | 346 | (95.1) | 204 | (115.3) |
| 15 | 56 | (112.0) | 348 | (100.6) | 187 | (91.7) |
| 16 | 43 | (76.8) | 286 | (82.2) | 176 | (94.1) |
| 17 | 46 | (107.0) | 364 | (127.3) | 136 | (77.3) |
| 18 | 42 | (91.3) | 306 | (84.1) | 142 | (104.4) |
| 19 | 38 | (90.5) | 301 | (98.4) | 142 | (100.0) |

イ． 小格馬

（単位：頭、%）

| 年次 | 種雄馬 | | 種付雌馬 | | 生産頭数 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 頭数 | 前年比 | 頭数 | 前年比 | 頭数 | 前年比 |
| 平成元年 | 121 | (114.2) | 1,503 | (110.4) | 971 | (127.3) |
| 2 | 151 | (124.8) | 2,050 | (136.4) | 1,057 | (108.9) |
| 3 | 209 | (138.4) | 2,126 | (103.7) | 1,332 | (126.0) |
| 4 | 189 | (90.4) | 2,051 | (117.6) | 1,467 | (110.1) |
| 5 | 121 | (64.0) | 1,092 | (43.7) | 433 | (29.5) |
| 6 | 152 | (125.6) | 1,123 | (102.8) | 807 | (186.4) |
| 7 | − | − | − | − | − | − |
| 8 | 100 | − | 1,124 | − | 536 | − |
| 9 | 146 | (146.0) | 1,033 | (91.9) | 781 | (145.7) |
| 10 | 123 | (84.2) | 875 | (84.7) | 637 | (81.6) |
| 11 | 132 | (107.3) | 1,037 | (118.5) | 589 | (92.5) |
| 12 | 166 | (125.8) | 842 | (81.2) | 648 | (110.0) |
| 13 | 141 | (84.9) | 661 | (78.5) | 450 | (69.4) |
| 14 | 129 | (91.5) | 750 | (113.5) | 320 | (71.1) |
| 15 | 132 | (102.3) | 694 | (92.5) | 432 | (135.0) |
| 16 | 130 | (98.5) | 700 | (100.9) | 362 | (83.8) |
| 17 | 115 | (88.5) | 657 | (93.9) | 370 | (102.2) |
| 18 | 96 | (83.5) | 600 | (91.3) | 364 | (98.4) |
| 19 | 86 | (89.6) | 566 | (94.3) | 300 | (82.4) |

資料：（社）日本馬事協会調べ

# 7. 農用馬の市場取引成績の推移

（単位：頭、円）

| 年次 | 当才馬 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | 頭数 | 最高 | 最低 | 平均 | 市場名 |
| 10 | 800 | 737,100 | 1,050 | 400,694 | 上川、十勝、釧路、青森、岩手、長崎、熊本、宮崎 |
| 11 | 731 | 904,050 | 11,550 | 389,104 | 〃 |
| 12 | 548 | 751,800 | 12,600 | 333,790 | 上川、十勝、釧路、根室、青森、岩手、長崎 |
| 13 | 638 | 1,153,000 | 22,050 | 266,370 | 上川、十勝、釧路、北見、青森、岩手、宮崎、長崎 |
| 14 | 745 | 701,400 | 10,500 | 273,706 | 上川、十勝、釧路、北見、青森、岩手、宮崎、長崎、熊本 |
| 15 | 790 | 592,200 | 14,700 | 292,137 | 上川、十勝、釧路、青森、岩手、島根、長崎、熊本、宮崎 |
| 16 | 662 | 772,800 | 52,500 | 397,362 | 〃 |
| 17 | 524 | 957,600 | 10,500 | 593,482 | 上川、十勝、釧路、根室、岩手、長崎、熊本 |
| 18 | 611 | 996,450 | 15,750 | 444,273 | 上川、十勝、釧路、苫小牧、岩手、長崎、熊本 |
| 19 | 576 | 580,650 | 76,650 | 346,206 | 上川、十勝、釧路、青森、岩手、熊本 |
| 20 | 696 | 682,500 | 42,000 | 378,505 | 上川、十勝、釧路、青森、岩手 |
| 年次 | 1才馬 | | | | |
| | 頭数 | 最高 | 最低 | 平均 | 市場名 |
| 10 | 1,686 | 1,220,100 | 15,750 | 534,508 | 上川、十勝、釧路、根室、青森、岩手 |
| 11 | 1,436 | 1,583,400 | 25,200 | 562,965 | 〃 |
| 12 | 1,238 | 1,068,400 | 31,500 | 469,657 | 〃 |
| 13 | 1,473 | 2,112,600 | 4,200 | 391,585 | 十勝、釧路、根室、青森、岩手 |
| 14 | 1,293 | 736,050 | 21,000 | 382,470 | 上川、十勝、釧路、北見、根室、青森、岩手、島根 |
| 15 | 1,314 | 844,200 | 5,250 | 434,950 | 上川、十勝、釧路、根室、青森、岩手、島根 |
| 16 | 1,275 | 851,550 | 16,800 | 571,324 | 〃 |
| 17 | 1,066 | 1,252,650 | 126,000 | 691,968 | 十勝、釧路、根室、旭川、岩手、島根 |
| 18 | 859 | 996,450 | 84,000 | 630,241 | 十勝、釧路、根室、苫小牧、旭川、青森、岩手 |
| 19 | 759 | 812,700 | 15,750 | 534,138 | 十勝、釧路、根室、苫小牧、旭川、青森、岩手 |
| 20 | 790 | 876,750 | 29,400 | 603,107 | 〃 |

# 8. 乗用馬市場取引成績

（単位：頭、円）

| 地　区 | 開催年月日 | 上場数 | 売却数 | 最高価格 | 最低価格 | 平均価格 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 釧　路 | 平成 8.10.1 | 42 | 8 | 1,596,500 | 587,100 | 866,488 | |
| | 9.10.1 | 33 | 9 | 1,200,000 | 240,000 | 630,000 | |
| | 10.9.29 | 38 | 10 | 1,370,000 | 310,000 | 751,000 | |
| | 11.10.1 | 39 | 12 | 700,000 | 150,000 | 468,300 | |
| | 12.9.16 | 34 | 12 | 2,800,000 | 200,000 | 974,750 | 別海開催 |
| | 13.9.30 | 22 | 4 | 820,000 | 450,000 | 655,000 | 別海開催 |
| | 14.9.1 | 45 | 14 | 1,050,000 | 170,000 | 481,429 | |
| | 15.9.15 | 48 | 17 | 1,207,500 | 157,500 | 437,912 | |
| | 16.9.28 | 55 | 18 | 2,373,000 | 210,000 | 667,917 | |
| | 17.4.23 | 13 | 13 | 1,470,000 | 483,000 | 798,000 | スプリングセール |
| | 17.9.27 | 42 | 13 | 2,425,500 | 157,500 | 953,885 | |
| | 18.9.26 | 27 | 11 | 1,260,000 | 420,000 | 759,818 | |
| | 19.9.25 | 30 | 13 | 1,165,500 | 367,500 | 696,923 | |
| | 20.9.17 | 27 | 15 | 1,680,000 | 315,000 | 797,300 | |
| 十　勝 | 12.9.25 | 39 | 10 | 600,000 | 260,000 | 436,000 | ぬかない開催 |
| | 13.10.28 | 29 | 6 | 860,000 | 250,000 | 493,333 | ぬかない開催 |
| 遠　野 | 8.10.22 | 20 | 11 | 1,550,000 | 400,000 | 736,364 | |
| | 9.10.21 | 19 | 5 | 1,510,000 | 500,000 | 988,000 | |
| | 10.10.20 | 21 | 10 | 1,210,000 | 500,000 | 732,000 | |
| | 11.10.17 | 20 | 11 | 1,220,000 | 360,000 | 641,039 | |
| | 12.10.22 | 21 | 15 | 1,000,000 | 260,000 | 588,667 | |
| | 13.10.21 | 18 | 12 | 1,200,000 | 310,000 | 596,667 | |
| | 14.10.20 | 16 | 13 | 1,100,000 | 200,000 | 586,154 | |
| | 15.10.19 | 24 | 18 | 1,900,000 | 200,000 | 766,111 | |
| | 16.10.17 | 26 | 24 | 1,450,000 | 400,000 | 810,417 | |
| | 17.10.16 | 30 | 21 | 2,900,000 | 320,000 | 948,571 | |
| | 18.10.22 | 25 | 20 | 2,650,000 | 500,000 | 1,193,500 | |
| | 19.10.21 | 32 | 24 | 3,100,000 | 210,000 | 1,186,250 | |
| | 20.10.19 | 29 | 19 | 2,000,000 | 200,000 | 898,421 | |

# 9．補助金の受け入れ状況

（単位：千円）

| 年度 | 日本中央競馬会 | 地方競馬全国協会 | （財）全国競馬・畜産振興会 | その他 | 基金造成 | | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 地方競馬全国協会 | （財）全国競馬・畜産振興会 | |
| 平成 11 | 43,782 | 186,503 | 17,660 | | | | |
| 〃　12 | 39,932 | 188,558 | 16,198 | | | | |
| 〃　13 | 32,000 | 159,638 | 15,993 | | | | |
| 〃　14 | 24,222 | 158,743 | 14,578 | 8,716 | 96,891 | 23,336 | |
| 〃　15 | 23,720 | 131,504 | 14,566 | 4,865 | | | |
| 〃　16 | 22,341 | 115,063 | 14,254 | 4,806 | | | |
| 〃　17 | 21,472 | 80,798 | 26,974 | 4,798 | | 17,991 | |
| 〃　18 | 22,511 | 67,647 | 32,312 | 4,297 | | | |
| 〃　19 | 21,026 | 65,020 | 33,076 | 4,297 | | 60,048 | |
| 〃　20 | 22,856 | 73,341 | 20,000 | 4,308 | | 29,882 | 20 年度は交付決定額 |

# 10. 一般会計事業の推移

| 事業　　年度 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第1　乗用馬等の生産育成指導事業（JRA 事業） | | | | | | | | | | |
| 1. 乗用馬等の生産育成指導事業 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| (1) 生産育成指導管理 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| (2) 乗用馬の生産育成促進指導 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ①生産育成促進指導検討会開催 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ②飼育管理・育成技術の現地研修会開催 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | − | − | − | ○ |
| ③乗用種雄馬の配置 | ○ | ○ | ○ | ○ | − | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ④乗用繁殖雌馬の購買貸付 | ○ | ○ | ○ | − | − | − | − | − | ○ | ○ |
| (3) 乗用馬等の生産育成関係資料の収集と提供 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | − | − | ○ |
| 2. 日本在来馬の保存活用推進事業 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| (1) 連絡会議（全国会議）の開催 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | − |
| (2) 日本在来馬種の保存登録（○内の数字は馬種数） | ③ | ③ | ④ | ④ | ④ | ④ | ④ | ⑤ | ⑤ | ⑤ |
| (3) 保存のための実態調査等 | − | − | − | − | − | − | ○ | ○ | ○ | ○ |
| (4) 放牧場設置のための施設整備 | − | − | − | − | − | − | − | ○ | − | ○ |
| 3. 馬事振興検討会（登録部会） | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | − | ○ | − | ○ |
| 第2　農用馬等の生産振興事業（NAR 事業） | | | | | | | | | | |
| 1. 農用馬種雄馬の整備事業 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| (1) 国（センター）有種雄馬の借受配置 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| (2) 協会有種雄馬の購買配置 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ①外国産種雄馬 | − | ○ | − | ○ | − | ○ | − | − | − | ○ |
| ②内国産種雄馬 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | − |
| 2. 種馬の登録事業 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| (1) 登録事務の推進 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ①種馬登録審査員の任命と委嘱 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ②登録事務打合会議及び審査委員研究会の開催 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| (2) 種馬の登録審査 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| (3) 登録証明書の発行 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| (4) 種馬登録馬名簿の刊行 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | − | − | − | ○ |
| (5) 馬事振興検討会（登録部会） | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | − | ○ | − | ○ |
| 3. 馬事生産推進事業 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| (1) 優良種雄馬の適正配置 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ①国（センター）有馬の借受、配置協議会 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ②種雄馬配置協議会（配置検討会） | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ③種雄馬管理指導 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ④種雄馬名簿の刊行 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| (2) 農用馬生産振興推進 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ①馬産振興会議 | ○ | ○ | ○ | ○ | − | − | − | − | − | − |
| ②農用馬生産振興推進協議会の開催 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ③優良農用馬生産者等表彰 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ④農用馬生産振興検討会の開催 | − | − | ○ | ○ | − | − | − | − | − | − |
| ⑤馬の遺伝的能力評価 | − | − | − | − | − | ○ | ○ | − | − | − |
| (3) 生産技術指導 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ①生産技術指導 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ②馬事技術指導者養成 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ③馬事普及管理指導員の養成 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | − | − | − | − |
| ④農用馬診療技術等研修会 | − | − | ○ | ○ | ○ | ○ | − | − | − | − |
| ⑤馬の人工授精師養成講習会 | − | − | − | ○ | − | − | − | − | − | − |
| ⑥精液検査施設設置に係る賛助 | − | − | − | ○ | − | − | − | − | − | − |
| ⑦海外の馬産地における馬事事情の研修 | − | − | − | − | ○ | − | − | − | − | − |
| ⑧馬の放牧肥育技術の確立に関する実証調査 | − | − | − | − | ○ | − | − | − | − | − |
| ⑨米国ドラフト・ホース事情視察事業 | − | − | − | − | − | ○ | − | − | − | − |
| (4) 調査研究 | ○ | ○ | ○ | ○ | − | − | − | − | − | − |
| (5) 純粋種農用種雌馬の供給体制整備 | − | − | − | − | − | ○ | − | − | − | − |
| (6) 優良農用馬資源確保緊急特別対策事業 | − | − | − | − | − | − | − | − | ○ | ○ |
| 第3　馬事畜産普及啓発等対策（NAR 事業） | | | | | | | | | | |
| 1. 馬事普及啓発対策 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| (1) 馬事振興検討会 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | − | ○ | − | − |
| (2) 情報誌の発行 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | − | − | − | − |
| (3) 普及啓発 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 2. 小格馬の生産対策 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | − | − | − | − |
| 3. 日本の馬産戦後 50 年誌編纂 | ○ | − | − | − | − | − | − | − | − | − |
| 第4　家畜改良体制整備事業（家畜改良事業団事業） | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | − |
| 第5　家畜改良状況調査事業（家畜改良事業団事業） | − | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | − | − | − |
| 第6　馬放牧肥育技術確立に関する調査事業（全国肉用牛協会事業） | − | − | ○ | ○ | − | − | − | − | − | − |
| 第7　農家定点調査事業（中央畜産会事業） | − | − | − | − | − | − | − | − | ○ | ○ |

# 11．特別会計事業の推移

| 事　業 ＼ 年　度 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第１　馬事普及啓蒙推進事業基金 | | | | | | | | | | |
| １　馬事普及啓蒙推進事業 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○（事業分割） | ○ | ○ |
| （１）展示啓蒙用馬の貸付モデル事業 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | — | — | — |
| （２）馬事思想普及用機材の貸付事業 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| （３）馬事普及特別対策事業 | | | ○ | ○ | ○ | — | — | — | ○ | ○ |
| （４）馬事普及関係資料収集分析機器設置事業 | — | — | — | — | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| （５）その他会長が特に認めた事業 | — | — | — | — | — | — | — | ○ | ○ | ○ |
| （６）農用馬生産振興特別支援対策事業 | — | — | — | — | ○ | ○ | ○ | ↓（移行） | | |
| ２　農用馬生産振興支援対策事業 | — | — | — | — | — | — | — | ○（事業分割） | ○ | ○ |
| （１）優良農用馬生産振興対策 | — | — | — | — | — | — | — | ○ | ○ | ○ |
| （２）馬事知識の普及啓発 | — | — | — | — | — | — | — | ○ | ○ | ○ |
| （３）優良農用馬生産者表彰 | — | — | — | — | — | — | — | ○ | ○ | ○ |
| 第２　日本在来馬種保存事業 | | | | | | | | | | |
| １　飼養管理助成 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ２　保存活用啓発費助成 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ３　鞍購入等助成 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ４　飼養管理の巡回指導・調査等 | ○ | — | — | — | — | — | — | ○ | — | ○ |
| ５　情報誌の発行 | — | — | — | — | — | — | ○ | ○ | ○ | — |
| ６　絶滅危惧種対策の実施 | — | — | — | — | — | — | — | ○ | ○ | ○ |
| 第３　畜産振興対策支援事業（乗用馬生産振興・普及推進事業） | — | — | — | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | — | — |
| 第４　家畜等繁殖・生産技術向上対策事業（馬繁殖性改善緊急対策事業） | — | — | — | — | — | — | ○ | ○ | ○ | — |
| 第５　家畜生産技術向上等特別対策事業（馬生産技術向上緊急対策事業） | — | — | — | — | — | — | — | — | ○ | ○ |
| 第６　大家畜生産技術向上対策事業（馬繁殖技術向上対策事業） | — | — | — | — | — | — | — | — | — | ○ |

# 12．主な規程類の設定と改正経緯（平成 11～20 年度）

| 規　程　等　名 | 設定年 | 改正年（平成 11～20 年度） |
|---|---|---|
| (社)日本馬事協会　定款 | 昭和 24 年 | 平成 11 年、同 15 年 |
| (社)日本馬事協会　種雄馬管理規程 | 昭和 50 年 | 平成 14 年、同 17 年、同 19 年 |
| 特別賦課金賦課徴収規程 | 昭和 50 年 | 平成 14 年、同 17 年、同 19 年 |
| (社)日本馬事協会　種馬登録規程 | 昭和 51 年 | 平成 12 年 |
| (社)日本馬事協会　種馬登録規程事務細則 | 平成 7 年 | 平成 13 年、同 15 年、同 17 年、同 19 年 |
| 乗用雌馬貸付規程 | 昭和 56 年 | 平成 19 年 |

### 定款の改正事項

| 改正年 | 内　　容 |
|---|---|
| 平成 11 年 | ・「公益法人の設立許可及び指導監督基準」（平成 8 年 9 月 20 日閣議決定）等に基づき、関係条文を見直して改正 |
| 平成 15 年 | ・事務所が千代田区神田駿河台から、中央区新川に移転したことに伴う改正及び特別議決事項の追加、事務所備え付け書類の追加、同書類の情報公開規程の追加 |

### 種雄馬管理規程の改正内容

| 改正年 | 内　　容 |
|---|---|
| 平成 14 年 | ① 家畜改良センターが独立行政法人となったことにより、両規程での「国有貸付種雄馬」表記を「独立行政法人家畜改良センター貸付種雄馬」に改正<br>② 配置種雄馬が繁殖の用に供せられなくなった場合、当該馬の有効活用を図るため、「用途変更処分」の規定を新設 |
| 平成 17 年 | ① 会有馬を貸付 6 年後配置先に譲渡する旨及び当該馬の配置時に供託金（購買価格の 1 割）納付の義務化を新設<br>② 管理規程に規定された会有馬の廃弊事故等の場合の損害弁償金算定方法を改定（支払いを受けた当該馬の死亡廃用による共済金の一律 80％納付など）<br>③ 凍結精液製造のための精液採取の際の配置種雄馬の便宜供与規定の新設 |
| 平成 19 年 | ・ 配置種雄馬の無償借受先が家畜改良センター以外に拡大したことに伴う改正 |

### 特別賦課金賦課徴収規程の改正内容

| 改正年 | 内　　容 |
|---|---|
| 平成 14 年 | ① 寄贈に係る種雄馬については特別賦課の対象としない旨を明示<br>② 乗用種雄馬に係る特別賦課金賦課の規定を新設 |
| 平成 17 年 | ・センター有馬の配置の際の事務手数料の新設と、それに伴う徴収規定の変更 |
| 平成 19 年 | ・ 配置種雄馬の無償借受先が家畜改良センター以外に拡大したことに伴う改正 |

### 種馬登録規程の改正内容

| 改正年 | 内　　容 |
|---|---|
| 平成 12 年 | ・馬の年齢の言い表し方が平成 13 年 1 月 1 日から変更されることに伴う改正 |
| 平成 15 年 | ①登録の申し込みができる馬として軽種馬登録規程で繁殖登録された父母馬から生まれたものを追加<br>② DNA 型検査による親子判別法が確立されたことに伴い、血液型検査による親子判別を DNA 型検査による親子判定に改正 |

## 種馬登録規程事務細則の改正内容

| 改正年 | 内　　容 |
|---|---|
| 平成 13 年 | ①家畜改良センターが独立行政法人となったことにより、「国有貸付馬（登録料特例表記）」を「独立行政法人家畜改良センター」に改正<br>②品種説明文の交配表記中「サラブレッド」を軽種馬に改正 |
| 平成 15 年 | ①「馬の種類呼称」としていた呼び方を「馬の品種呼称」に改める。<br>②馬の品種を純粋種とその他の品種に大区分するほか、乗系馬の品種に「日本スポーツホース」、「日本乗系種」、「日本ポニー」を、輓系馬の品種に「日本輓系種」を追加<br>③半血種の呼称は原則廃止し、「半血種」は輓系馬のうち純粋種同士の交配のみに限定<br>④品種決定の簡便化を図るため、参考表として、「乗系馬等又は輓系馬の繁殖のための両親指定一覧表」を付すことに改正<br>⑤付表別表で乗系馬と輓系馬を交配した産駒は登録不可とする旨を規定<br>⑥その他、日本在来馬の原産地以外での生産の場合の例外規定追加など、全体の条文を大幅に見直し |
| 平成 17 年 | ①純粋種の乗系馬・スポーツホースの品種にアンダルシアンとベルギー温血種を追加<br>②宮古馬の登録の開始に当たって、「宮古馬の体型標準」を追加 |
| 平成 19 年 | ①「輓交種」の創設<br>輓系馬と乗系馬（軽種馬を含む）及び小格馬を交配した産駒は「輓交種」と呼称する。具体的な品種の呼称は「輓系馬の仔馬品種決定法」、「輓交種を加えた乗系馬等の仔馬品種決定法」による。<br>②北海道内の「ポニー」登録の開始<br>北海道ポニー協会等で行っていたポニー（在来馬以外の小格馬、以下、「ポニー」という。）の証明書の発行を中止し、新たに、当協会が北海道内のポニーの登録を開始、このため、ポニーにかかる登録料金を新設<br>③ポニーの体高基準の設定と繁殖登録時の体高のチェック<br>ポニーの体高基準「140cm 程度以下」を「148cm 以下」に改正、併せて、体高 148cm を超えるものは「日本乗系種」として繁殖登録を行う。<br>④特に体高の小さい馬を新たな品種として「ファラベラ」、「アメリカンミニチュアホース」、「日本ミニチュアホース」を追加、この場合「ファラベラ」と「アメリカンミニチュアホース」を交配した産駒は「日本ミニチュアホース」とする。そして、これらの馬については、それぞれ、背高（馬の背中で一番低い個所で測定した高さ）を「ファラベラ」にあっては 76.2cm、「アメリカンミニチュアホース」、「日本ミニチュアホース」にあっては 83.8cm 以下とする体高基準を設け、繁殖登録時に背高を測定し、それぞれの体高基準を超える場合には日本ポニーとして繁殖登録を行う。なお、具体的な品種の呼称は「小格馬の仔馬品種決定法」による。<br>⑤個体識別、内国産馬証明制度の創設<br>両親の血統が不明な馬について、個体識別証明書を発行し、この個体識別証明書を有する馬から生まれた仔馬について、内国産馬証明書を発行する制度を創設、内国産馬証明書を有する馬から生まれた仔馬については、補助血統登録書の交付を可能とする。なお、この個体識別証明書及び内国産馬証明書の発行は有料とし、別途料金表を設定<br>⑥在来馬の○○系呼称の創設<br>在来馬の品種呼称については純粋種以外で当該品種の血統を受け継いでいる馬にあっては、○○系（たとえば、木曾系）と呼称することができることとする。 |
| 平成 20 年 | ・スポーツホースに「ニュージーランド温血種」を追加 |

## 乗用雌馬貸付規程の改正内容

| 改正年 | 内　　容 |
|---|---|
| 平成 19 年 | ①協会が寄贈等を受けた馬を貸し付ける際の事務手数料の新設<br>②馬の貸付期限を 7 年としていた規定を削除<br>③貸付馬の用途変更の規定を追加 |

# 13.（社）日本馬事協会定款

設立認可　昭和 24 年 3 月 29 日農林省指令 24 畜第 1088 号
変更認可　昭和 25 年 5 月 26 日農林省指令 25 畜第 1927 号
昭和 40 年 6 月 30 日農林省指令 40 畜 B 第 1768 号
昭和 52 年 3 月 30 日農林省指令 52 畜 B 第 484 号
昭和 57 年 4 月 7 日農林水産省指令 57 畜 B 第 609 号
平成 10 年 7 月 3 日農林水産省指令 10 畜 B 第 1028 号
平成 11 年 7 月 7 日農林水産省指令 11 畜 B 第 1017 号
平成 15 年 8 月 19 日農林水産省指令 15 畜 B 第 2390 号

## 第 1 章　総　則

**（名　称）**

第 1 条　この法人は、社団法人日本馬事協会（以下「協会」という。）という。

**（事務所）**

第 2 条　協会は、事務所を東京都中央区新川二丁目 6 番 16 号に置く。

**（目　的）**

第 3 条　協会は、馬事知識の普及、馬の改良増殖並びに利用増進を図りもって馬事の振興を図ることを目的とする。

**（事　業）**

第 4 条　協会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。
(1)　馬事知識の普及に関する事業
(2)　種雄馬の繋養、種馬の登録その他馬の改良増殖に関する事業
(3)　馬の利用増進に関する事業
(4)　馬に関する調査及び研究
(5)　馬事に関する建議請願
(6)　会員及び関係団体相互の連絡協調
(7)　その他協会の目的を達成するために必要な事業

## 第 2 章　会　員

**（会員の資格）**

第 5 条　協会を構成する会員の資格を有するものは、次に掲げるとおりとする。
(1)　団体会員　協会の目的に賛同する馬事に関係する団体
(2)　個人会員　協会の目的に賛同する個人

**（入　会）**

第 6 条　協会の会員になろうとするものは、会長が理事会の議決を経て別に定める入会申込書を会長に提出

し、理事会の承認を受けなければならない。

2　前項の規定により入会申込書を提出しようとするものが、前条第１号に掲げるものであるときは、次に掲げる書類を添付しなければならない。

(1) 定款若しくは寄附行為又はこれらに代わるべき規程

(2) その他会長が必要と認めた書類

3　会長は、第１項の承認があったときは、その旨を当該申込みをしたものに通知するものとする。

**（脱　退）**

第７条　会員は、次の各号の事由の一に該当するときは、協会を脱退する。

(1) 会員から脱退の申出があったとき。

(2) 会員たる資格を喪失したとき。

(3) 後見開始若しくは保佐開始の審判又は破産宣告を受けたとき。

(4) 死亡又は解散したとき。

(5) 会費を引き続き２年以上納入しないとき。

(6) 除名されたとき。

2　前項第１号の申出は、会長が理事会の議決を経て別に定める脱退届書を会長に提出してしなければならない。

**（除　名）**

第８条　協会は、会員が次の各号の一に該当するときは、総会の議決を経て、その会員を除名することができる。この場合には、協会は、その総会の開催の日の 10 日前までに、その会員に対し、その旨を書面をもって通知し、かつ、議決の前に弁明する機会を与えるものとする。

(1) 協会の事業を妨げ、又は協会の名誉をき損する行為をしたとき。

(2) 定款又は総会の議決に反する行為をしたとき。

2　会長は、除名の議決があったときは、その旨を当該会員に通知するものとする。

**（会　費）**

第９条　会員は、毎年度、総会で別に定める会費を納入しなければならない。

2　既納の会費その他の拠出金品は、会員の脱退の場合においても、これを返還しない。

**（特別賦課金）**

第 10 条　協会は、その業務を執行するため、特に必要のあるときは総会の議決を経て、会員の全部又は一部に対して特別賦課金を課すことができる。

**（届　出）**

第 11 条　会員は、その氏名又は住所（会員が団体の場合には、その名称、所在地、代表者の氏名及び定款若しくは寄附行為又はこれらに代わるべき規程）に変更があったときは、遅滞なく協会にその旨を届け出なければならない。

2　会員が団体の場合には、あらかじめ書面をもって、会員の代表者としてその権利を行使する者を協会に届け出なければならない。これを変更しようとするときも、同様とする。

**（賛助会員）**

第 12 条　協会の目的に賛同し、会長が理事会の議決を経て別に定める入会申込書を会長に提出して理事会の

承認を受けたものは、賛助会員となることができる。

2　賛助会員は、総会で別に定める賛助会費を納入しなければならない。

3　賛助会員は、協会が発行する資料等の配付を受けるほか、会長が適当と認める場合には、協会の事業に参加することができる。

4　賛助会員は、次の各号の事由の一に該当するときは、協会を脱退する。

(1) 賛助会員から脱退の申出があったとき。

(2) 後見開始若しくは保佐開始の審判又は破産宣告を受けたとき。

(3) 死亡又は解散したとき。

(4) 賛助会費を引き続き2年以上納入しないとき。

(5) 除名されたとき。

5　既納の賛助会費その他の拠出金品は、賛助会員の脱退の場合においても、これを返還しない。

6　第8条の規定は、賛助会員について準用する。この場合において、同条中「会員」とあるのは、「賛助会員」と読み替えるものとする。

## 第 3 章　役 員 等

**(役員の定数及び選任)**

第13条　協会に、次の役員を置く。

(1) 理事　　16人以上20人以内

(2) 監事　　2人

2　理事及び監事は、総会において会員及び会員の代表者としてその権利を行使する者のうちから選任する。ただし、総会で必要と認めたときは会員及び会員の代表者としてその権利を行使する者以外の者から選任することができる。

3　理事及び監事は、相互にこれを兼ねることができない。

4　理事のうちから会長1人、副会長1人、専務理事1人及び常務理事1人を互選する。

5　理事のうち、同一親族（3等親以内の親族及びこの者と特別な関係にある者をいう。）又は特定企業の関係者である理事の占める割合は、それぞれ理事現在数の3分の1を超えてはならない。

**(役員の職務)**

第14条　会長は、協会を代表し、その業務を総理する。

2　副会長は、会長を補佐して協会の業務を掌理し、会長に事故があるときはその職務を代理し、会長が欠けたときはその職務を行う。

3　専務理事は、会長及び副会長を補佐し、事務局を統轄して会務を処理し、会長及び副会長に、事故があるときはその職務を代理し、会長及び副会長が欠けたときはその職務を行う。

4　常務理事は、会長及び副会長を補佐して協会の業務を執行し、会長、副会長及び専務理事に事故があるときはその職務を代理し、会長、副会長及び専務理事が欠けたときはその職務を行う。

5　理事は、理事会を組織し、業務を執行する。

6　監事は、民法第59条に規定する職務を行う。

**(役員の任期)**

第15条　役員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

2　補欠又は増員による役員の任期は、前任者又は現任者の残任期間とする。

**（任期満了又は辞任の場合）**

第16条　役員は、任期満了又は辞任の後においても、後任者が就任するまでは、その職務を行うものとする。

**（役員の解任）**

第17条　協会は、役員が協会の役員としてふさわしくない行為をしたときその他特別の事由があるときは、総会の議決を経て、その役員を解任することができる。この場合には、協会は、その総会の開催の日の10日前までに、その役員に対し、その旨を書面をもって通知し、かつ、議決の前に弁明する機会を与えるものとする。

**（役員の報酬）**

第18条　役員は無給とする。ただし、常勤の役員は有給とすることができる。

2　役員には、費用を弁償することができる。

3　前2項に関し必要な事項は、総会の議決を経て、会長が別に定める。

**（顧問及び参与）**

第19条　協会に顧問及び参与を置くことができる。

2　顧問は、馬事に関する学識経験者のうちから、理事会の承認を得て、会長が委嘱する。

3　参与は、馬事に関する学識経験者のうちから、理事会の承認を得て、会長が任命する。

4　顧問は、協会運営上の重要事項について、会長の諮問に応ずる。

5　参与は、協会の業務に参与する。

## 第4章　総　会

**（総会の種別等）**

第20条　協会の総会は、通常総会及び臨時総会とする。

2　総会の議長は、総会において、出席会員のうちから選出する。

3　通常総会は、毎年1回以上開催する。

4　臨時総会は、次に掲げる場合に開催する。

(1) 理事会において必要と認めたとき。

(2) 会員現在数の5分の1以上又は監事から会議の目的たる事項を示した書面により請求があったとき。

(3) 民法第59条第4号の規定により監事が招集したとき。

**（総会の招集）**

第21条　総会は、前条第4項第3号に規定する場合を除き、会長が招集する。

2　前条第4項第2号の規定により請求があったときは、会長はその請求のあった日から30日以内に総会を招集しなければならない。

3　総会の招集は、少なくともその開催の日の10日前までに、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面をもって会員に通知してしなければならない。

**（総会の議決方法等）**

第22条　総会は、会員現在数の過半数の出席がなければ開くことができない。

2　会員は、総会において、各1個の表決権を有する。

3　総会においては、前条第３項の規定によりあらかじめ通知された事項についてのみ議決することができる。ただし、緊急を要する事項については、この限りでない。
4　総会の議事は、第24条に規定する場合を除き、出席者の表決権の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。この場合において、議長は、議決に加わる権利を有しない。

**（総会の権能）**

第23条　総会は、この定款において別に定めるもののほか、協会の運営に関する重要な事項を議決する。

**（特別議決事項）**

第24条　次の各号に掲げる事項は、総会において、出席者の表決権の３分の２以上の多数による議決を必要とする。
(1) 定款の変更
(2) 解散及び残余財産の処分
(3) 会員の除名
(4) 役員の解任
(5) 長期借入金の借入
(6) 事業計画及び収支予算の決定
(7) 第40条第１項に規定する書類及び監査報告書の承認

**（書面又は代理人による表決）**

第25条　やむを得ない理由により総会に出席できない会員は、あらかじめ通知された事項につき、書面又は代理人をもって表決権を行使することができる。
2　前項の書面は、総会の開催の日の前日までに協会に到達しないときは、無効とする。
3　第１項の代理人は、代理権を証する書面を協会に提出しなければならない。
4　第１項の規定により表決権を行使する者は、出席したものとみなす。

**（議事録）**

第26条　総会の議事については、議事録を作成しなければならない。
2　議事録は、議長が作成し、少なくとも次の事項を記載し、議長及び出席会員のうちからその総会において選任された議事録署名人２人以上が署名押印しなければならない。
(1) 日時及び場所
(2) 会員の現在数、出席会員数及び出席会員の氏名（書面表決者及び表決委任者の場合にあっては、その旨を付記すること。）
(3) 議案
(4) 議事の経過の概要及びその結果
(5) 議事録署名人の選任に関する事項
3　議事録は事務所に備え付けておかなければならない。

## 第 5 章　理 事 会

**（理事会の構成等）**

第 27 条　理事会は、理事をもって構成する。

2　理事会は、必要に応じ会長が招集する。

3　理事会の議長は、会長がこれに当たる。

4　監事は、必要に応じ理事会に出席し、意見を述べることができる。

**（理事会の権能）**

第 28 条　この定款において別に定めるもののほか、次の各号に掲げる事項は、理事会において審議し、又は決定するものとする。

(1) 事業計画等総会に付議すべき事項及び総会の招集に関すること。

(2) 総会の議決した事項の執行に関すること。

(3) 会務を執行するための計画、組織及び管理の方法

(4) 諸規程の制定又は改廃に関すること。

(5) その他理事会において必要と認めた事項

**（規定の準用）**

第 29 条　第 20 条第 4 項第 2 号、第 21 条第 3 項、第 22 条、第 25 条及び第 26 条の規定は、理事会について準用する。この場合において、これらの条文中「総会」及び「会員」とあるのは、それぞれ「理事会」及び「理事」と読み替えるものとする。

## 第 6 章　専門委員会

**（専門委員会）**

第 30 条　会長は、協会の事業の円滑な運営を図るため、必要と認めるときは、理事会の議決を経て、専門委員会を置くことができる。

2　専門委員は、専門的な知識を有する者のうちから理事会の承認を得て、会長が委嘱する。

3　専門委員会の運営に関し必要な事項は、理事会の議決を経て、会長が別に定める。

## 第 7 章　事 務 局 等

**（事務局及び職員）**

第 31 条　協会の事務を処理するため、事務局を置く。

2　事務局に、職員を置く。

3　事務局及び職員に関する事項は、理事会の議決を経て、会長が別に定める。

**（業務の執行）**

第 32 条　協会の業務の執行の方法については、理事会で定める。

**（書類及び帳簿の備付け）**

第 33 条　協会は、事務所に、この定款で別に定めるもののほか、次に掲げる書類及び帳簿を備え付けておかなければならない。

(1) 定款
(2) 会員名簿
(3) 役員名簿
(4) 事業計画書
(5) 収支予算書
(6) 会員の異動に関する書類
(7) 役員の略歴書並びに職員等の名簿及び略歴書
(8) 許可、認可等及び登記に関する書類
(9) 定款に定める機関の議事に関する書類
(10) 収入及び支出に関する証拠書類及び帳簿
(11) その他必要な書類及び帳簿

2 前項第1号から第5号まで及び第40条第1項に規定する書類については、原則として、一般の閲覧に供しなければならない。

## 第 8 章　資産及び会計

**(事業年度)**

第34条　協会の事業年度は、毎年4月1日に始まり、翌年の3月31日に終わる。

**(資産の構成)**

第35条　協会の資産は、次の各号に掲げるものをもって構成する。
(1) 会費
(2) 特別賦課金
(3) 寄附金品
(4) 事業に伴う収入
(5) 資産から生ずる収入
(6) その他の収入

2 基本財産は、次の各号に掲げるものをもって構成する。
(1) 基本財産とすることを指定して寄附された財産
(2) 理事会で基本財産に繰り入れることを議決した財産

3 基本財産は、これを処分し、又は担保に供することができない。ただし、協会の事業遂行上やむを得ない理由があるときは、総会の議決を経、かつ、農林水産大臣の承認を受けて、その全部若しくは一部を処分し、又は担保に供することができる。

4 普通財産は、基本財産以外の財産とする。

**(資産の管理)**

第36条　協会の資産は、会長が管理し、その方法は、総会の議決を経て、会長が別に定める。

**(経費支弁の方法等)**

第37条　協会の経費は、資産の額を超えて支弁してはならない。

2 協会が行う事業のうち、理事会において必要と認める事業の経理については、特別の勘定を設けて、他の事業に係る経理と区別して経理しなければならない。

**（借入金）**

第38条　協会は、その事業に要する経費の支弁に充てるため、あらかじめ理事会において定めた額を限度として、その事業年度の収入をもって償還する一時借入金の借入れをすることができる。

2　協会は、その事業に要する経費の支弁に充てるため、総会の議決を経、かつ、農林水産大臣の承認を受け、資産の額を限度として、長期借入金の借入れをすることができる。

**（事業計画及び収支予算）**

第39条　協会の事業計画及び収支予算は、会長が作成し、理事会の議決を得た後、毎事業年度開始前に総会の議決を得なければならない。

2　前項の規定にかかわらず、やむを得ない理由により収支予算が成立しないときは、会長は、理事会の議決を経て、前事業年度の予算に準じ暫定予算を編成し、予算成立の日までの間、収入支出をすることができる。

3　前項の収入支出は、新たに成立した予算に基づく収入支出とみなす。

**（監査等）**

第40条　会長は毎事業年度終了後、次の各号に掲げる書類を作成し、通常総会の開催の日の10日前までに監事に提出して、その監査を受けなけなければならない。

(1) 事業報告書
(2) 収支計算書
(3) 正味財産増減計算書
(4) 貸借対照表
(5) 財産目録

2　監事は、前項の書類を受理したときは、これを監査し、監査報告書を作成して総会に提出しなければならない。

3　会長は、第1項の書類及び前項の監査報告書について、総会の承認を得た後、これを事務所に備え付けておかなければならない。

**（報　告）**

第41条　会長は、毎事業年度開始の日から3月以内に、次の各号に掲げる書類を農林水産大臣に提出しなければならない。

(1) 前年度の事業報告書及びその年度の事業計画書
(2) 前年度末の財産目録及び貸借対照表
(3) 前年度の収支計算書、正味財産増減計算書及びその年度の収支予算書
(4) 前年度末の会員名簿及び賛助会員名簿並びに前年度における会員及び賛助会員の異動状況を記載した書類

## 第 9 章　定款の変更、解散及び残余財産の処分

**（定款の変更）**

第 42 条　この定款の変更は、農林水産大臣の認可を受けなければその効力を生じない。

**（解　散）**

第 43 条　協会は、民法第 68 条第 1 項第 2 号から第 4 号まで及び第 2 項第 2 号の規定によるほか、総会の議決を経、かつ、農林水産大臣の認可を受けて解散する。

**（解散の場合の残余財産の処分）**

第 44 条　協会が解散した場合において、その債務を弁済してなお残余財産があるときは、総会の議決を経、かつ、農林水産大臣の許可を受けて、協会の目的と類似の目的を有する他の公益法人に寄附するものとする。

## 第 10 章　雑　則

**（細　則）**

第 45 条　この定款に定めるもののほか、協会の事務の運営上必要な細則は、理事会の議決を経て、会長が別に定める。

**附　則**

この定款の変更は、農林水産大臣の認可のあった日（平成 15 年 8 月 19 日）から施行する。

# 14．役職員の推移

| | |
|---|---|
| ●会長理事 | |
| 犬伏孝治 | 平成 8. 6. 5 － 14.12.24 |
| 岩崎充利 | 15. 6. 7 － 17.10.21 |
| 赤保谷明正 | 17.12.20 － 現在 |
| | |
| ●会長職務代行 | |
| 瀬川良一 | 平成 14.12.24 － 15. 6. 7 |
| | |
| ●副会長理事 | |
| 瀬川良一 | 平成 4. 6. 5 － 15. 6. 6 |
| 小川　　諄 | 15. 6. 7 － 現在 |
| | |
| ●専務理事 | |
| 杉野　　毅 | 平成 10. 6. 7 － 14. 6. 6 |
| 西　　勝海 | 14. 6. 7 － 16. 6. 6 |
| 澤村興隆 | 16. 6. 7 － 20. 1.15 |
| 倉澤景晴 | 20. 1.15 － 現在 |
| | |
| ●常務理事 | |
| 金谷和夫 | 平成 10. 9. 5 － 15. 8. 9 |
| 堤　　孝正 | 16. 6. 7 － 17. 3.31 |
| 安武正秀 | 17. 6. 7 － 現在 |
| | |
| ●理事 | |
| 庄村清治 | 昭和 44. 2.13 －平 12.6. 6 |
| 中村悟朗 | 58. 6. 7 － 12. 6. 6 |
| 宮崎六雄 | 61. 6. 6 － 16. 6. 6 |
| 飛騨野三雄 | 平成 2.11. 1 － 14. 6. 6 |

| | |
|---|---|
| 小山清尉 | 元．6. 7 － 16. 6. 6 |
| 髙本延吉 | 6. 6. 7 － 20. 6. 6 |
| 香川荘一 | 7. 6. 7 － 20. 6. 6 |
| 澤田　　啓 | 昭和 61. 6. 7 －平 16.6. 6 |
| 岡本　　篤 | 60. 6. 7 － 12. 1.26 |
| 植田晃雄 | 平成 9. 6. 7 － 14. 6.27 |
| 高橋昌晴 | 5. 6. 7 － 13. 6.20 |
| 土畠一男 | 8. 6. 7 － 11. 7.12 |
| 佐藤　　茂 | 5. 6. 7 － 14. 6.20 |
| 木原竹弘 | 2. 6. 7 － 14. 6.27 |
| 八戸芳夫 | 7. 6. 7 － 16. 6. 6 |
| 三河喜美男 | 10. 6. 7 － 12. 6. 6 |
| 時田茂光 | 12. 6. 7 － 現在 |
| 宮本輝昭 | 12. 6. 7 － 17. 3.31 |
| 府内哲熊 | 12. 6. 7 － 18. 6. 6 |
| 二口清造 | 12. 6. 7 － 14. 6.21 |
| 千葉　　伝 | 12. 6. 7 － 現在 |
| 池本元一 | 14. 6. 7 － 20. 6. 6 |
| 佐々木義隆 | 14. 6. 7 － 20. 6. 6 |
| 小瀬　　泰 | 15. 6. 7 － 現在 |
| 遠藤秀孝 | 15. 6. 7 － 18. 6. 6 |
| 山田昭義 | 15. 6. 7 － 19. 6. 7 |
| 枳穀勝久 | 15. 6. 7 － 現在 |
| 金谷和夫 | 16. 6. 7 － 現在 |
| 杉野　　毅 | 16. 6. 7 － 現在 |
| 鈴木重格 | 16. 6. 7 － 現在 |
| 長畑良雄 | 16. 6. 7 － 19. 6. 6 |
| 神谷孝之 | 17. 6. 7 － 現在 |

| | |
|---|---|
| 穴見盛雄 | 18. 6. 7 － 現在 |
| 木下一己 | 18. 6. 7 － 現在 |
| 伊藤政光 | 19. 6. 7 － 20. 6.17 |
| 山内正孝 | 19. 6. 7 － 現在 |
| 草野信一 | 20. 6. 7 － 現在 |
| 西　勝海 | 20. 6. 7 － 現在 |
| 信國卓史 | 20. 6. 7 － 現在 |
| 松下隆之 | 20. 6. 7 － 現在 |
| ●監事 | |
| 西澤鐵藏 | 平成 9. 6. 7 － 16. 6. 6 |
| 澁谷昌巳 | 7. 6. 7 － 16. 6. 6 |
| 武石正之 | 16. 6. 7 － 18. 6. 6 |
| 高橋　彪 | 16. 6. 7 － 18. 6. 6 |
| 星野大清 | 18. 6. 7 － 現在 |
| 川野洋和 | 18. 6. 7 － 現在 |
| ●顧問 | |
| 澤崎　坦 | 昭和 61. 6. 6 －平 13.6.30 |
| ●参与 | |
| 平原榮人 | 平成 7. 8. 5 － 12. 3.31 |
| 時田茂光 | 10. 6. 7 － 12. 3.31 |
| 杉野　毅 | 14. 6. 7 － 16. 6. 6 |
| 堤　孝正 | 15.10. 1 － 16. 6. 6 |
| 安武正秀 | 17. 4. 1 － 17. 6. 6 |
| 垂石征一 | 17. 4. 1 － 19. 3.31 |
| ●職員（嘱託含む） | |
| 佐藤たけ | 昭和 49. 7. 1 －平 12.3.31 |
| 岡田和子 | 62. 7. 1 － 現在 |
| 渕山達男 | 平成 3. 4. 1 － 11. 3.31 |

| | |
|---|---|
| 館　義明 | 7. 4. 1 － 12. 3.31 |
| 津田　宏 | 7. 4. 1 － 13.12.31 |
| 大友健壽 | 8. 1.16 － 12. 9. 1 |
| 山下大輔 | 11. 4. 1 － 現在 |
| 堀江功一 | 11. 4. 1 － 18. 3.31 |
| 小松利通 | 11. 4. 1 － 13.12.31 |
| 伊東敏枝 | 12. 4. 1 － 現在 |
| 土田武夫 | 12. 4. 2 － 17. 3.31 |
| 所　和暢 | 12. 4. 1 － 13. 3.31 |
| 宮﨑國雄 | 13. 4. 1 － 現在 |
| 白井興一 | 13. 4. 1 － 18. 3.31 |
| 藤原弘雅 | 13. 4. 2 － 17. 3.31 |
| 高橋　健 | 14. 4. 1 － 現在 |
| 西　勝海 | 14. 6. 1 － 14. 6. 6 |
| 澤村興隆 | 16. 4. 1 － 16. 6. 6 |
| 岩村俊春 | 19. 4. 1 － 現在 |
| 村山好子 | 19. 7. 1 － 現在 |
| 大沼孝宣 | 20. 4. 1 － 現在 |
| ●派遣職員（地全協） | |
| 栗原晴夫 | 平成 9. 4. 1 － 12. 3.31 |
| 永峰一弘 | 12. 4. 1 － 15. 3.31 |
| 西　勝海 | 14. 4. 1 － 14. 5.31 |
| 小木昭博 | 16. 4. 1 － 19. 3.31 |
| 倉澤景晴 | 19. 4. 1 － 20. 1.14 |
| 山﨑慎介 | 19. 4. 1 － 現在 |

# 15. (社)日本馬事協会役員名簿

平成 21 年 3 月 31 日現在

| | |
|---|---|
| 会　長 | 赤保谷　明正 |
| 副会長 | 小川　　諄 |
| 専　務 | 倉澤　　景晴 |
| 常　務 | 安武　　正秀 |
| 理　事 | 穴見　　盛雄 |
| 〃 | 金谷　　和夫 |
| 〃 | 神谷　　孝之 |
| 〃 | 枳穀　　勝久 |
| 〃 | 木下　　一己 |
| 〃 | 草野　　信一 |
| 〃 | 小瀬　　泰 |

| | |
|---|---|
| 理　事 | 杉野　　毅 |
| 〃 | 鈴木　　重格 |
| 〃 | 千葉　　伝 |
| 〃 | 時田　　茂光 |
| 〃 | 西　　勝海 |
| 〃 | 信國　　卓史 |
| 〃 | 松下　　隆之 |
| 〃 | 山内　　正孝 |
| 監　事 | 星野　　大清 |
| 〃 | 川野　　洋和 |

# 16. (社)日本馬事協会会員名簿

平成 21 年 3 月 31 日現在

| 団体会員 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 名称 | | 〒 | 住所 | ☎ |
| ホクレン農業協同組合連合会 | | 060-8651 | 札幌市中央区北 4 条西 1 丁目ホクレンビル | 011-232-6180 |
| | 札幌支所 | 060-0004 | 同　上　北農ビル 16F | 011-232-6467 |
| | 岩見沢支所 | 068-0025 | 岩見沢市 5 条 5 丁目 2 － 1 | 0126-23-0032 |
| | 倶知安支所 | 044-0011 | 虻田郡倶知安町南 3 条西 3 丁目 | 01362-2-1133 |
| | 函館支所 | 040-8722 | 函館市宮前町 33 － 13　農業会館 | 0138-43-2311 |
| | 苫小牧支所 | 053-0021 | 苫小牧市若草町 5-5-3　北農連日胆農業会館 | 0144-32-7171 |
| | 北見支所 | 090-8650 | 北見市とん田東町 617 | 0157-25-4596 |
| | 稚内支所 | 097-0001 | 稚内市末広 4-2-31　農業会館 | 0162-34-2111 |
| | 留萌支所 | 077-8660 | 留萌市末広町 2 丁目　農業会館 | 0164-42-1470 |
| 根室生産農業協同組合連合会 | | 086-1006 | 標津郡中標津町東 6 条南 1 丁目 2 番地 | 01537-2-2148 |
| 根室馬事振興協議会 | | 086-1006 | 同　上　根室生産連内 | 〃 |
| 根釧乗用馬生産育成振興会 | | 087-0022 | 根室市昭和町 2-12　川目　將　方 | 0153-24-4094 |
| はまなす乗用馬生産組合 | | 086-1641 | 野付郡別海町尾岱沼 4-173<br>野付ライディングファーム内 | 01538-6-2846 |
| 釧路農業協同組合連合会 | | 085-0018 | 釧路市黒金町 12 丁目 10 番地 1 | 0154-23-1131 |
| ㈶神翁顕彰会 | | 085-0018 | 同　上　釧路農協連内 | 〃 |
| 釧路馬事振興連合会 | | 085-0018 | 同　上　〃 | 〃 |
| 十勝農業協同組合連合会 | | 080-0013 | 帯広市西 3 条南 7 丁目 14 番地 | 0155-24-2131 |
| 十勝馬事振興会 | | 080-0013 | 同　上　十勝農協連内 | 〃 |
| 十勝乗用馬生産振興会 | | 080-0013 | 同　上　〃 | 〃 |
| 上川生産農業協同組合連合会 | | 070-0030 | 旭川市宮下通 14 丁目右 1 号 | 0166-24-1003 |
| 上川馬事振興会 | | 070-0030 | 同　上　上川生産連内 | 〃 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 道北乗用馬生産振興会 | 070-0030 | 同　上　上川生産連内 | 〃 |
| ㈳北海道家畜人工授精師協会 | 060-0004 | 札幌市中央区北4条西1丁目1番地<br>北農ビル13階 | 011-242-9655 |
| 北海道和種馬保存協会 | 063-0804 | 札幌市西区二十四軒4条5-9-3北海道獣医師会館3F<br>㈳日本馬事協会 北海道事務所内 | 090-6269-778 |
| ㈲日高軽種馬共同育成公社 | 059-2412 | 新冠郡新冠町節婦町71番地の4 | 01464-7-2281 |
| 農業生産法人㈲道南ファーム | 041-1405 | 茅部郡鹿部町字駒見37番地 | 01372-7-3121 |
| 日高生産農業協同組合連合会 | 056-0016 | 日高郡新ひだか町静内本町4丁目1番6号 | 0146-42-1781 |
| 日本純血アラブ馬協会 | 082-0382 | 河西郡芽室町雄馬別12-27<br>石村由有子方 | 0155-66-2334 |
| 帯広市 | 080-8670 | 帯広市西5条南7丁目1番地 | 0155-24-4111 |
| 青森県畜産農業協同組合連合会 | 039-2567 | 上北郡七戸町字鶴児平72番地1 | 0176-60-1070 |
| 田名部畜産農業協同組合 | 035-0021 | むつ市田名部字下川18 | 0175-22-4716 |
| 青森県七戸畜産農業協同組合 | 039-2501 | 上北郡七戸町荒熊内67 | 0176-62-2125 |
| 三本木畜産農業協同組合 | 034-0001 | 十和田市大字三本木字野崎40-433 | 0176-23-3581 |
| とうほく天間農業協同組合 | 039-2654 | 上北郡東北町塔ノ沢1-311 | 0175-62-2112<br>畜産課 |
| ㈳岩手県畜産協会 | 020-0173 | 岩手郡滝沢村滝沢字砂込389-7 | 019-694-1300 |
| ㈳岩手県馬事振興会 | 020-0173 | 〃　㈳岩手県畜産協会内 | 〃 |
| 盛岡畜産農業協同組合 | 020-0873 | 盛岡市松尾町17-15 | 0196-23-2305 |
| 九戸畜産農業協同組合 | 028-7801 | 久慈市侍浜町字本町7-65-2 | 0194-58-2115 |
| 遠野市乗用馬生産組合 | 028-0592 | 遠野市東舘8番12号<br>遠野市産業振興部　農林振興課内 | 0198-62-2111<br>内線114 |
| 花巻農業協同組合 | 025-0052 | 花巻市野田316番地の1 | 0198-23-3333 |
| ㈳遠野市畜産振興公社 | 028-0545 | 遠野市松崎町駒木4-120-5 | 0198-62-5561 |
| 安比高原放牧組合 | 028-7534 | 八幡平市荒屋新町113　種市幸雄方 | 0195-72-2650 |
| 新岩手農業協同組合 | 020-0172 | 岩手郡滝沢村鵜飼新田7-76 | 019-699-3311 |
| 岩手ふるさと農協馬産部会 | 029-4301 | 奥州市衣川区古戸393-4 | 0197-52-3212 |
| (財) 山梨県馬事振興センター | 408-0044 | 北杜市小淵沢町10060-3 | 0551-36-3945 |
| 日本中央競馬会 | 106-8401 | 港区六本木6-11-1 | 03-3591-5251 |
| 地方競馬全国協会 | 106-8639 | 港区麻布台2丁目2番1号 | 03-3583-6841 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 全国公営競馬獣医師協会 | 106-0041 | 港区麻布台２丁目２番１号 | 03-5570-1248 |
| ㈳日本馬術連盟 | 104-0033 | 中央区新川 2-6-16　馬事畜産会館 | 03-3297-5611 |
| ㈳日本家畜商協会 | 104-0033 | 中央区新川 2-6-16　馬事畜産会館 | 03-3297-5545 |
| 全国畜産農業協同組合連合会 | 104-0033 | 中央区新川 2-6-16　馬事畜産会館 | 03-3297-5531 |
| ㈱野沢組 | 100-0005 | 千代田区丸の内 3-4-1　新国際ビル | 03-3216-3476 |
| 東京都競馬株式会社 | 103-0027 | 中央区日本橋 3-3-9　開発課 | 03-3271-6894 |
| ㈳日本軽種馬協会 | 105-0004 | 港区新橋 4-5-4 | 03-5473-7091 |
| ㈶日本軽種馬登録協会 | 105-0004 | 港区新橋 4-5-4 | 03-3434-5315 |
| ㈳日本獣医師会 | 107-0062 | 港区南青山 1-1-1　新青山ビル西館 23 階 | 03-3475-1601 |
| ㈳日本装蹄師会 | 111-0051 | 台東区蔵前４丁目５番９号　OT ビル４階 | 03-5833-1751 |
| ㈳全国乗馬倶楽部振興協会 | 158-0098 | 世田谷区上用賀 2-1-1 | 03-3427-0117 |
| ㈶馬事文化財団 | 231-0853 | 横浜市中区根岸台 1-3 | 045-662-7581 |
| ㈳全国家畜畜産物衛生指導協会 | 101-0021 | 千代田区外神田 2-16-2<br>第２ディーアイシービル９階 | 03-6206-0840 |
| ㈳畜産技術協会 | 113-0034 | 文京区湯島 3-20-9　緬羊会館 | 03-3836-2301 |
| ㈳中央畜産会 | 101-0021 | 千代田区外神田 2-16-2<br>第２ディーアイシービル９階 | 03-6206-0840 |
| 木曽馬保存会 | 397-0301 | 木曽郡木曽町開田高原末川 5596-1<br>（財）開田高原振興公社　木曽馬の里乗馬センター内 | 0264-42-3085 |
| 隠岐どうぜん農業協同組合 | 684-0302 | 隠岐郡西ノ島町大字別府 21-2 | 08514-7-8005 |
| 野間馬保存会 | 794-0081 | 今治市阿方甲 246-1<br>越智今治市農協乃万支所内 | 0898-32-0007 |
| ＪＡ全農ながさき | 850-0862 | 長崎市出島町１番 20 号 | 095-820-2184 |
| 対州馬振興会 | 817-0013 | 対馬市厳原町中村 606-19<br>対馬農協内 | 0920-52-1116 |
| 島原雲仙農業協同組合 | 859-1306 | 雲仙市国見町神代己 476 番地 | 0957-65-3111 |
| 熊本県畜産農業協同組合連合会 | 861-2192 | 熊本市桜木 6-3-54　熊本県畜産会館 | 0963-65-8811 |
| 熊本県畜産農業協同組合 | 861-2192 | 熊本市桜木 6-3-54　熊本県畜産会館 | 0963-69-0077 |
| 南阿蘇畜産農業協同組合 | 869-1603 | 阿蘇郡高森町色見 2241 | 0967-62-0715 |
| 都井岬馬保護対策協力会 | 888-0001 | 串間市大字西方 5550<br>串間市役所総合政策課内 | 0987-72-1111 |
| えびの市農業協同組合 | 889-4301 | えびの市大字大明司 1061-1 | 0984-33-3100 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 都城農業協同組合 | 885-0012 | 都城市上川東3丁目4-1 | 0986-22-9828 |
| こばやし農業協同組合 | 886-0004 | 小林市大字細野1321 | 0984-23-1313 |
| トカラ馬保存会 | 890-0065 | 鹿児島市郡元1-21-24<br>鹿児島大学農学部家畜育種学教室内 | 0992-85-8589 |
| あいら農業協同組合 | 899-5114 | 霧島市隼人町西光寺521番地1 | 0995-42-6570 |
| 沖縄県農業協同組合 | 900-0023 | 那覇市楚辺2-33-18 | 098-831-5166 |
| 与那国馬保存会 | 907-1800 | 八重山郡与那国町字与那国59-3<br>与那国町商工会気付 | 09808-7-2944 |
| 宮古馬保存会 | 906-0204 | 宮古島市上野字上野395-1<br>宮古島市経済部農政課畜産振興係内 | 0980-76-6840<br>内線124 |
| 宮古島市 | 906-0012 | 宮古島市平良字西里186番地 | 0980-76-6840 |

| 個人会員 | | | |
|---|---|---|---|
| 氏名 | | | |
| 赤保谷明正 | 神谷孝之 | 杉野毅 | 八戸芳夫 |
| 安部哲朗 | 河村敏明 | 田口光雄 | 星井静一 |
| 井上晴夫 | 草野信一 | 竹澤哲男 | 堀内精司 |
| 池本元一 | 倉澤景晴 | 堤孝正 | 三浦次男 |
| 市川健夫 | 髙本延吉 | 時田茂光 | 宮崎六雄 |
| 岩崎充利 | 小山清尉 | 中村悟朗 | 安武正秀 |
| 小川諄 | 佐々木正一 | 成田正美 | 山本志郎 |
| 香川莊一 | 佐々木啓文 | 西勝海 | 吉川友喜 |
| 金谷和夫 | 澤村興隆 | 西岡宗俊 | 米田弘 |
| 上岡淳宏 | 澁谷昌巳 | 信國卓史 | 米富規存 |

# 17. (社)日本馬事協会支部・事務委託先・事務所

平成 21 年 3 月 31 日現在

| 支部及び支部長名 | 〒 | 住　　所 | ☎ |
|---|---|---|---|
| 青森県支部<br>山　内　正　孝 | 039-2567 | 上北郡七戸町字鶴児平 72-1<br>青森県畜産農業協同組合連合会内 | 0176-60-1070<br>FAX 0176-60-1073 |
| 岩手県支部<br>長　澤　壽　一 | 020-0173 | 岩手郡滝沢村滝沢字砂込 389-7<br>(社)岩手県畜産協会家畜改良部内 | 019-694-1300<br>FAX 019-694-1305 |
| 長野県支部<br>田　中　勝　己 | 397-0302 | 木曽郡木曽町開田高原末川 5596-1<br>(財)開田高原振興公社　木曽馬の里乗馬センター内 | 0264-42-3085<br>FAX 0264-42-3085 |
| 長崎県支部<br>栗　田　泰　之 | 850-0862 | 長崎市出島町 1-20<br>JA 全農ながさき内 | 095-820-2184<br>FAX 095-823-7840 |
| 宮崎県支部<br>福　永　昌　徳 | 880-0806 | 宮崎市広島 1 丁目 13-10<br>(社)宮崎県畜産協会内 | 0985-41-9302<br>FAX 0985-24-3774 |
| 鹿児島県支部<br>樋　脇　建　治 | 890-8577 | 鹿児島市鴨池新町 10-1<br>鹿児島県畜産課内 | 099-286-2111<br>FAX 099-286-5599 |
| 事務委託先 | | | |
| ㈳栃木県畜産協会 | 321-0905 | 宇都宮市平出工業団地 6-7　畜産会館 | 028-664-3434<br>FAX 028-683-1077 |
| ㈳島根県畜産振興協会 | 690-0887 | 松江市殿町 19-1　島根県農林会館 | 0852-31-3609<br>FAX 0852-32-2209 |
| ㈳高知県畜産会 | 780-8125 | 高知市五台山 5015-1 | 088-883-8161<br>FAX 088-880-0024 |
| ㈳熊本県畜産協会 | 861-2101 | 熊本市桜木 6-3-54　熊本県畜産会館 | 096-369-9176<br>FAX 096-331-1018 |
| ㈳沖縄県家畜改良協会 | 900-0024 | 那覇市古波蔵 112 | 098-855-0474<br>FAX 098-855-0476 |

(社)日本馬事協会北海道事務所

〒 063-0804　札幌市西区二十四軒 4 条 5 丁目 9 番地 3 号　北海道獣医師会館 3 F

電　話　011-642-5554 番

ＦＡＸ　011-642-5521 番

# 18. 日本在来馬保存会一覧

平成 21 年 3 月 31 日現在

| 馬種<br>団体名<br>会長名 | 郵便番号 | 事務所所在地<br>担当者 | 電話<br>（ファックス） |
|---|---|---|---|
| 北海道和種馬<br>北海道和種馬保存協会<br>近藤誠司 | 063-0804 | 札幌市西区 24 軒 4 条 5 丁目 9-3<br>北海道獣医師会館３Ｆ<br>(社)日本馬事協会北海道事務所内<br>白井興一 | 011-642-5554<br>(011-642-5521) |
| 木曽馬<br>木曽馬保存会<br>田中勝己 | 397-0301 | 木曽郡木曽町開田高原末川 5596- 1<br>(財)開田高原振興公社<br>木曽馬の里 乗馬センター内<br>中川剛 | 0264-42-3085<br>(0264-42-3085) |
| 野間馬<br>野間馬保存会<br>大澤譲兒 | 794-0081 | 今治市阿方甲 246-1<br>ＪＡ越智今治乃万支所内<br>大澤勝幸 | 0898-32-0007<br>(0898-33-4502) |
| 対州馬<br>対州馬振興会<br>吉野栄二 | 817-0013 | 対馬市厳原町中村 606 番地 19<br>対馬農業協同組合内<br>阿比留三郎 | 0920-52-1116<br>(0920-52-1118) |
| 御崎馬<br>都井岬馬保護対策協力会<br>鈴木重格 | 888-0001 | 串間市大字西方 5550<br>串間市役所総合政策課内<br>今村政樹 | 0987-72-1111<br>(0987-72-6727) |
| トカラ馬<br>トカラ馬保存会<br>大山英隆 | 890-0065 | 鹿児島市郡元 1-21-24<br>鹿児島大学農学部家畜育種学教室内<br>岡本新 | 099-285-8589<br>(099-285-8525) |
| 宮古馬<br>宮古馬保存会<br>下地敏彦 | 906-0204 | 宮古島市上野字上野 395-1<br>宮古島市経済部農政課畜産振興係内<br>宮平和法 | 0980-76-6840<br>(0980-76-3477) |
| 与那国馬<br>与那国馬保存会<br>大嵩長史 | 907-1801 | 八重山郡与那国町字与那国 59-3<br>与那国町商工会気付<br>前楚和秀 | 0980-87-2944<br>(0980-87-2160) |

# 19.「ホースメイト」総索引


**創刊号〈南部馬特集〉 1990.12**

市川健夫教授、南部馬を語る …… 3
南部馬について …… 7
南部地方馬マップ …… 青森県・岩手県編 13
遠野の乗用馬産地 …… 15
稱徳館の資料拝見　展示資料の解説にかえて　中村七三 17
記憶と本能 …… 澤崎坦 22
馬との出会い …… 早坂昇治 23
劇作家木下順二氏を訪ねて …… 25
品種と毛色 …… 28
骨・骨格から見た馬 …… 竹永士郎 33
馬と友達になりましょう …… 千葉幹夫 36
中国の馬たち（1） …… 八戸芳夫 37
北海道総合畜産共進会 …… 国際馬事文化講演会 39
北海道ホーストレッキング紹介 …… 41
女性乗馬教室 …… 45
「愛馬の日」馬事公苑を訪れて …… 47
フランスのバカンス乗馬風景 …… 土屋朋子 49
ばんえい競馬 …… 51

**第２号〈木曾馬特集〉 1991.3**

木曾馬の栄枯盛衰 …… 伊藤正起 3
木曾馬の姿形 …… 澤崎坦 9
木曾馬を生んだ風土 …… 市川健夫 12
木曾馬保存にジーンバンク …… 岩村俊春 15
木曾馬のこれから …… 開田村役場 16
漢詩への招待 …… 鈴木一 17
品種と毛色（2）下飯坂隆・中村悟朗・加世田雄時朗 18
輸入馬ラッシュ …… 和合宏康 24
中部地方馬マップ …… 25
ホースマンの描いた馬の絵 …… 内田靖夫 27
大井の夜間競馬～トゥインクル・レース …… 29
ストックホルムで馬術の極致を見る …… 原昌三 31
馬事漫談 …… 佐藤正人 34
馬との出会い（2） …… 早坂昇治 35
心臓と循環から見たウマ …… 久保勝義 37
ウマ科学会の発足 …… 本好茂一 40
馬と友達になりましょう（2） …… 千葉幹夫 41
ヨーロッパに馬を訪ねて …… 高本延吉 42
日本トレッキング・上三川ホースパーク 永見津平・篠崎宏司 48
北国の馬（根室地方） …… 笹田文章 51
全国観光馬車巡り（長瀞、塩原）高本延吉・須田孝 53
中国の馬たち（2） …… 八戸芳夫 55
馬とのふれあいDAY …… 57
馬は天才バレリーナ …… 澤崎坦 59
「信州　馬の歴史」ほか …… 60
出羽卓次郎ほか …… 61

**第３号〈九州の馬〉 1991.7**

大陸からの馬文化の接点・九州 …… 市川健夫 3
九州の馬作り …… 澤崎坦 6
働きものの対州馬を残そう …… 兼松仁郎 10
御崎馬の沿革と現状 …… 加世田雄時朗 13
保存と活用に懸命のトカラ馬 …… 橋口勉 15
品種と毛色（3） …… 下飯坂隆・千葉滋 18
馬マップ …… 九州地方 21
オセアニア馬紀行 …… 香川荘一 23
ウィーンにあるのになぜスペイン乗馬学校なのか佐藤正人 26
馬との出会い（3） …… 早坂昇治 27
愛馬“美白”の成長を願って …… 永井順子 29
福岡県馬術競技場を訪ねて …… 水見寿男 31
胃と消化からみたウマ …… 市川文克 33
歯医者から騎手まで …… 出羽卓次郎 35
南九州の軽種馬 …… 中西信吾 39
野間馬ハイランド（今治市） …… 和田清身 41
高浜の「おまんと祭り」 …… 都築利治 43
国際馬術連盟総会開かる …… 原昌三 45
小さいけれど力もち（湯布院、長崎の対州馬） … 47
競馬法及び日本中央競馬会法の一部を改正する法律について …水野政義 49
馬と友達になりましょう（3） …… 千葉幹夫 51
南部の馬たち …… 八戸芳夫 52
古文書に現れた九州の馬 …… 村井秀夫 53
ホースメイト　アンケート調査 …… 55

**第４号〈北海道の馬（その１）〉 1991.11**

開拓と馬の歴史 …… 八戸芳夫 3
ばんえい競走馬の生い立ちと今日 …… 鈴木一彦 8
輓系馬の改良 …… 千葉滋 11
競走馬を作る人々（生産地の現状） …… 宇野駿 13
馬産王国釧路の快挙／日本釧路種の馬像ができました … 池田国定 15
ボリューム満点の馬43頭が揃う …… 高本延吉 18
品種と毛色（4） …… 下飯坂隆・澤崎坦 19
北海道（生産の部） …… 23
ばんえい競馬 …… 中川達雄 25
野付半島の放牧馬たち …… 大西光博 27
ケンタッキー・ホースパークを訪ねて … 佐野佳久 29
私の馬談義 …… 昌子武司 31
「写真は感性を映す鏡である」 …… 山本容子 23
井上喜久子さんを訪ねて …… 千葉幹夫 35
競馬を支える陰の力 …… 渋谷昌巳 37
「どさんこ」十年ぶりの富士登山 …… 加藤秀一 39
十勝にできた馬の小径（こみち）高橋大介・山口佳男 40
千島の馬に思いをはせて …… 佐々木正一 43
筋肉と運動から見た馬 …… 久保勝義 45
馬の知能 …… 佐藤正人 48
鞍（くら）の発明 …… 早坂昇治 49
馬と友達になりましょう（4） …… 千葉幹夫 51
先人の知恵 …… 澤崎坦 52
全国乗馬倶楽部振興協会／受精卵移植で道産馬誕生　佐藤正・高倉宏輔 53
若いギャルに大もて（水上温泉のトテ馬車）高本延吉 55
馬耕のもたらした農業革命 …… 市川健夫 56
「ぼくの黒い馬」（小学生の作文） …… 57

**第５号〈北海道の馬（その２）〉 1992.3**

ドサンコの生いたち …… 八戸芳夫 3
最近増えてきたポニー …… 横田禎 8
道東で乗用馬生産はじまる …… 千葉滋 10
土つくりに貢献するドサンコ …… 千葉幸男 12
最近の道南のドサンコ …… 岡野勝 13
馬産に苦労した人達（座談会） …… 三浦次男 15
品種と毛色 ⑸ノリーカ、パロミノ、アパルーサ、ファラベラ …宮崎六雄 22
行動と生態からみた馬 …… 楠瀬良 35
人工授精と家畜改良センター …… 大巻信 39
うまの靴を作る人達 …… 青木修 43
馬と友達になりましょう（5） …… 千葉幹夫 45
競走馬のふるさと北海道の競馬 …… 田畑甲子郎 27
北海道馬マップ《活用の部》 …… 編集部 29
道東で行われる馬事競技大会 …… 編集部ほか 31
ドサンコ釧路湿原をかける …… 桜井せつ子 47
道産馬とともにいきる …… 市川健夫 21
無くて七癖（馬にもある） …… 澤崎坦 34
タヌキがウマになった話 …… 早坂昇治 41
「沼尻駒踊り」と「白糠駒踊り」交流会 …桜井久也 46
虻田町の馬頭観世音 …… 後藤隆 54
馬と牧場と私（桑原画伯の話） …… 桑原弘 37
馬の写真館（馬と子供達） …… 山本容子 51
国後島の馬紀行 …… 那須正次郎 55
日本のサラブレッドは強くなったか …… 永田雄三 19
観光に活躍する北都の馬たち …及川壮一・伊藤淳 49
国際色豊かに　第二回女子馬術大会 …… 編集部 53
図書紹介、ホースサミット案内 …… 編集部 57

**第６号〈特集　関東に見る馬たち〉 1992.7**

供給基地であった関東 …… 市川健夫 3
馬の遺跡より …… 早坂昇治 7
馬産今昔
（那須） …… 斉藤金吾 9
（房総） …… 高岡明仁 11
乗馬の現況 …… 米富規存 13
馬マップ（関東地方） …… 編集部 39
地方競馬教養センター …… 加藤博 41
馬事公苑 …… 星山透 43
競馬学校 …… 星山透 45
宇都宮育成牧場 …… 星山透 46
競馬博物館 …… 星山透 48
根岸競馬記念公苑 …… 早坂昇治 49
警視庁のうま …… 美齊津記 50
宮内庁、御料牧場 …… 美齊津記 51
日本の馬の歴史（馬車の発達） …… 八戸芳夫 15
鶴が岡八幡宮の流鏑馬 …… 鎌倉市 23
神話のなかの馬 …… 早坂昇治 27
馬乗り馬頭観音（その１） …… 栗田直次郎 29
野馬土手 …… 高岡明仁 58
品種と毛色
シャイヤー …… 宮崎六雄 18
スタンダードブレッド …… 千葉滋 19
フィヨルド …… 加世田雄時朗 20
ウェルシュ・ポニー …… 千葉滋 21
母の乳房 …… 澤崎坦 31
天馬図章泥にちなんで …… 妹尾俊彦 32
馬と友達になりましょう（6） …… 千葉幹夫 54
ポニーと楽しく（江戸川区） …… 谷川政男 25
草競馬（信州望月） …… 竹花健太郎 33
馬の写真館（3） …… 山本容子 35
甲冑騎馬行列（信玄公祭り） …… 野田金男 52
スペイン乗馬学校の遺風 …… 千葉幹夫 37
モンゴル大草原を駆ける …… 桜井せつ子 55
ホースサミット …… 太田正克 57

**第７号〈特集　関西に見る馬たち〉 1992.11**

誰がつくった古墳の馬 …… 早坂昇治 3
世紀の大架橋が馬を甦らせるか …… 高本延吉 6
馬産今昔
（野間馬） …… 大沢勝幸 11
（隠岐） …… 竹内友英 13
馬マップ（関西地方） …… 編集部 31
兵庫県立西脇馬事公苑（西脇市） …… 山本茂之 33
碇高原総合牧場（京都府丹後町） …… 岩岡兼始 35
しあわせ村（神戸市） …… 小森正幹 36
古文書に現れた西国の馬 …… 村井秀夫 15
青潮文化と馬（その１） …… 市川健夫 25
馬乗り馬頭観音（その２） …… 栗田直次郎 27
祭礼の馬
藤森祭り　藤森神社（京都） …… M.Y. 記 49
金比羅宮例大祭（香川） …… M.Y. 記 51
賀茂競馬　賀茂別雷神社（京都） …… M.Y. 記 52
馬駈神事　住吉神社（大阪） …… M.Y. 記 52
石上神宮例祭（奈良） …… M.Y. 記 53
八風大祭奉納草競馬（三重） …… M.Y. 記 53
カルスト高原秋吉台の馬たち …… （投稿）24
馬の写真館（その四） …… 山本容子 47
品種と毛色
ラインランド …… 加世田雄時朗 18
アンダルシアン …… 澤崎坦 19
オルデンブルク …… 加世田雄時朗 20
果下馬 …… 八戸芳夫 21
馬の一口話
つむじ関談 …… 妹尾俊彦 17
テーブルマナー …… 澤崎坦 39
馬との出会い …… 守谷久 40
運動時の肺と呼吸からみたウマ（その１）久保勝義 41
馬と友達になりましょう（7） …… 千葉幹夫 55
長野県知事夫人（きき手） …… 市川健夫 43
スペイン乗馬学校の馬たち …… 千葉幹夫 37

バイカル湖畔を駈ける …… 桜井せつ子 45
日本在来馬の保存活用連絡会議を終えて　みよし 29
華子妃殿下をお迎えしての
第三回全国女性馬術競技大会 …… M.Y. 記 56

**第８号〈特集　沖縄の馬たち〉　1993.3**

沖縄の馬栄枯盛衰 …… 池田正治 3
馬産今昔
（宮古群島）…… 荷川取勝幸 6
（石垣島）…… 那根元 9
（与那国島）…… 前富里公一 11
馬マップ（沖縄地方）…… 編集部 27
首里城祭 …… 仲本博律 13
青潮文化と馬（その２）…… 市川健夫 15
赤馬像由来記 …… 那根元 17
新羅の傑作　騎馬人物形土器 …… 妹尾俊彦 23
沖縄の春駒 …… 早坂昇治 25
在来馬と宮古農林高校 …… 小禄恵良 31
ウンジャミ（海神祭）…… 上江洲均 33
八重山　馬の祭典 …… 那根元 24
宮古島　サニツ浜カーニバル …… 長浜博文 34
馬の写真館（その五）…… 山本容子 47
品種と毛色
シュレスヴィッヒ …… 加世田雄時朗 18
プシバルスキー …… 宮崎六雄 19
ドン …… 佐藤彰 20
通じ合う気持（心の交流）…… 澤崎坦 22
馬車でゆっくり御通勤 …… みよし 29
馬と友達になりましょう（8）…… 千葉幹夫 37
運動時の肺と呼吸からみたウマ（その２）久保勝義 43
馬好きな微生物学者を訪ねて …… 村田昌芳 35
別海町産業フェアーに参加して …… S. & O. 54
フランスの馬車駅伝 …… 小木昭博 38
カナダのばん馬生産農家を訪ねて …… 河合生吉 41
スペイン乗馬学校　馬術の妙技 …… 千葉幹夫 45
スイスの愛馬訓 …… 大豆生田真弓 52
沖縄諸島の牧野ダニ撲滅作戦 …… 那根元 14
ドサンコの持久力調査 …… 前山秀雄 49
共進会三〇年ぶりに復活 …… 中村正人 51
農村リゾート …… 守谷久 53
ウマ科学会を終えて …… 青木修 55

**第９号　1993.7**

いわしを食べて生きたドサンコ …… 岡田和子 11
土佐馬のおいたち …… 樋口孝男 16
種雄馬ボユー号活躍中 …… 笹田文章 39
地駄引き …… M.Y. 47
シルクロードの馬を訪ねて（連載一）… 坂内誠一 3
一六〇〇年御神期大祭 …… 高良大社 6
こども騎馬武者行列 …… 菅野教博 8
琉球王朝と馬（連載一）…… 高良鉄夫 25
尻屋崎のカンダチメ …… 市川健夫 27
神様は馬に乗ってくる …… 早坂昇治 29
自然保護とトレッキング …… 守屋久 10
馬とこどもたち …… 岡田和子 21
馬の写真館（その六）…… 山本容子 35
馬とスポーツあれこれ（連載一）…… 新庄武彦 41
馬のホッケー「ポロ」 …… 早坂昇治 51
世界の馬たち
ウエストファーレン …… 千葉幹夫 19
アハルテケ …… 加世田雄時朗 20
うまづら …… 妹尾俊彦 24
エイズに良く似た馬の伝染性貧血（連載一）中島英男 31
馬と友達になりましょう（9）…… 千葉幹夫 43
母馬の愛 …… 澤崎坦 44
馬の栄養と飼料（連載一）…… 森本宏 53
馬が零式戦闘機を引く …… 出羽卓治郎 55
忘れられない軍馬 …… 米丸忠之 55
馬が大好き …… 前田博之 56
絵馬師を訪ねて …… M.Y. 33
馬頭琴とモンゴル民族 …… 星野百合子 37
生きた馬のメリーゴーラウンド …… 大豆生田真弓 45
ドサンコの木村さん東京でトークショウ　菊山みち 23
ポニーと遊んだ園児たち …… 佐藤忠一 49
ドサンコ・チャリティ体験乗馬会開催される 編集部 50

**第１０号　1993.11**

木曾馬飼いは嫁の仕事 …… 佐藤たけ 3
ユルリ島の馬 …… 岡田和子 11
都城・北諸種雄馬管理センター …… 別府純一 15
シルクロードの馬を訪ねて（連載二）… 坂内誠一 8
昔苦労した権兵衛街道 …… 美齊津康民 13
農業に関わった小岩井農場の馬たち … 畠山章一 18
琉球王朝と馬（連載二）…… 高良鉄夫 27
馬にまつわる日本の地名 …… 市川健夫 29
新宿駅に残る馬水槽 …… 美齊津康民 33
北海道鹿追町にこんな美術館が …… 三浦次男 41
八戸の騎馬打毬 …… 美齊津康民 43
長屋神社の馬駈祭り …… 祭保存会 45
戦国時代の「馬揃え」 …… 八戸芳夫 53
馬の写真館（その七）…… 山本容子 35
馬のスポーツあれこれ（連載二）…… 新庄武彦 39
馬を飼う（今と昔）…… 澤崎坦 17
世界の馬たち
アメリカペルとフランスペルの比較 …… 千葉滋 21
トラケーネン …… 千葉幹夫 23
ソライア …… 加世田雄時朗 24
エイズに良く似た馬の伝染性貧血（連載二）中島英男 31
ひづめのあと …… 妹尾俊彦 38
雄馬の膀胱から胎児の骨出現 …… 金井良三 49
馬の栄養と飼料（連載二）…… 森本宏 51
馬と友達になりましょう（10）…… 千葉幹夫 54
テレビ映画のウソ（連載一）…… 早坂昇治 55
西藏の馬 …… 八戸芳夫 25
モンゴルの馬とナーダム競馬 …… 新庄武彦 47
ドサンコチャリティーショーで大活躍 … 佐藤たけ 34
十勝の馬唄全国大会 …… 伊藤篤 37
チベット高原に馬の新種 …… 編集部 50
アンケート御礼 …… 編集部 56

**第１１号　1994.3**

奥羽牧場百年を振り返り …… 戸城孝治 11
オイラ　ドサンコだい（冬を山で過ごす馬）佐久間陽三 29
対州馬も嫁に飼われた …… 編集部 46
地駄引き　冬の編（青森）…… 編集部 53
対州馬の歴史（一）…… 市川健夫 3
シルクロードの馬を訪ねて（連載三）… 坂内誠一 6
小学生に可愛がられたポニー …… 西村修一 17
お供馬の走り込み …… 清水俊郎 19
馬と自然と人 …… 北京一 21
養蚕の守護神は馬だった …… 佐藤忠一 23
三社大祭で賑わう八戸の街 …… 編集部 51
馬ソリを楽しむ（岩手）…… 編集部 16
馬の写真館（その八）…… 山本容子 31
馬のスポーツあれこれ（連載三）…… 新庄武彦 35
権兵衛峠を歩こう …… 編集部 55
しつけ（鼎）…… 澤崎坦 15
ドサンコの駄載力テスト …… 長内光弘 27
馬と友達になりましょう（11）…… 千葉幹夫 34
毛色の遺伝（一）芦毛・粕毛・佐目毛・優性白色 宮崎六雄 37
世界の馬たち
ハノーバー（乗系馬）…… 千葉幹夫 39
ドイツの馬「馬のみち」（その一）…… 山口住男 40
馬の労役量調べ …… 中村悟朗 42
馬の栄養と飼料（連載三）…… 森本宏 43
テレビ映画のウソ（連載二）…… 早坂昇治 56
北アメリカならびにヨーロッパに生息する野生馬 … 加世田雄時朗 25
トレッキング・セミナーから …… 守谷久 5
貴重な在来馬を残そう …… 編集部 9
乗馬用のセリ市風景（遠野・釧路）…… 編集部 13
バーゼル市に乗合馬車復活 …… 編集部 33
前漢代に女性戦士が大活躍 …… 編集部 57

**第１２号　1994.7**

木崎や又重の牧は今 …… 新井田壽弘 11
民話の国から　遠野乗用馬生産の道のり　編集部 15
炭鉱で働いていた馬たち …… 編集部 25
馬と松尾芭蕉 …… 北京一 3
対州馬の歴史（二）…… 市川健夫 5
シルクロードの馬を訪ねて（連載四）… 坂内誠一 7
御田祭　にぎやかに …… 藤本茂 23
馬車鉄道を偲ぶ …… 編集部 28
中学生の彫った馬頭観音 …… 西村修一 39
木曾谷のワラ馬づくり …… 編集部 46
秩父の御田植祭 …… 新井直行 49
みちのくの輓馬競技大会 …… 佐竹仁男 13
馬を観て、触れて、語って …… 加藤智泰 21
馬の写真館（その九）…… 山本容子 31
馬のスポーツあれこれ（連載四）…… 新庄武彦 43
なまかみ …… ロシナンテ 10
馬が合う …… 澤崎坦 20
世界の馬たち
ドイツの馬「馬のみち」（その二）ゲーザ・オルデハーフェル 33
クリオージョ（乗系馬）…… 澤崎坦 35
アイスランドポニー（小格馬）…… 千葉幹夫 37
毛色の遺伝（二）芦毛・粕毛・佐目毛・優性白毛 宮崎六雄 38
馬のからだの中の馬具 …… 妹尾俊彦 41
馬と友達になりましょう（12）…… 千葉幹夫 42
テレビ映画のウソ（連載三）…… 早坂昇治 45
馬の栄養と飼料（連載四）…… 森本宏 53
オーストラリアでの馬事研修を終えて … 植田祐介 29
アスタコーン馬とアルタミラ洞窟の壁画 … 加世田雄時朗 47
十勝で千百頭の馬市 …… 斎藤篤 19
近畿農政局の馬の週 …… 高浜宏章 51
科学技術週間にパネル展示（家衛試）… 佐藤忠一 51
十勝馬事振興会に青年部会が発足 …… 編集部 52
馬事思想普及啓蒙用資料の紹介 …… 編集部 56

**第１３号　1994.11**

昆布漁に活躍した馬たち …… 編集部 11
榛名湖トテ馬車稼業の方たち …… 編集部 15
一茶の馬 …… 北京一 3
日本最西端の島に生きる与那国馬（一）市川健夫 5
シルクロードの馬を訪ねて（連載五）… 坂内誠一 7
金峰神社の幌負い流鏑馬 …… 編集部 21
鐙の起源 …… 早坂昇治 31
名馬池月の母を偲んだ馬頭観音 …… 編集部 55
馬の写真館（その一〇）…… 山本容子 35
士幌町の競馬大会盛大に …… 飯島和吉 37
ジョセフィン号の思いで …… 千葉幹夫 39
馬のスポーツあれこれ（連載五）…… 新庄武彦 48
洞窟に線刻馬を見る …… 妹尾俊彦 10
肌の匂い …… 澤崎坦 20
馬のインフルエンザ …… 今川浩 27
半野生馬、御崎馬の最大の厄日 … 加世田雄時朗 33
子馬と餅 …… ロシナンテ 41
世界の馬たち
ホルスタイン（乗系馬）…… 千葉幹夫 42
カマルグ沼沢地の半野生馬 …… 加世田雄時朗 43
馬と友達になりましょう（13）…… 千葉幹夫 50
馬の栄養と飼料（連載五）…… 森本宏 51
スイス、チューリヒの春の祭典『ゼクセロイテン』… 大豆生田真弓 45
在来馬保存連絡会議開催 …… 編集部 13
身体障害者乗馬セミナー（十和田市）… 植田祐介 19
北海道総合畜産共進会の開催 …… 編集部 23
農用馬の白毛馬誕生 …… 編集部 25
御崎馬と馬文化 …… 日高敏郎 26
よみがえるモウコウマ（プシバルスキー）　編集部 30
泥板遺跡からのメッセージ …… 編集部 54
二五才の高齢馬出産 …… 斎藤篤 54

**第１４号　1995.3**

ドサンコ生産に励む後継者達 …… 編集部 20
京都府警察に騎馬隊が誕生 …… 牧村泰弘 24
原生花園の除草に馬が活躍 …… 林直樹 31
遠野市市制 40 周年記念 …… 海老勝彦 33
春駒の誕生を期待して …… 斎藤篤 49
日本の鐙（あぶみ）…… 早坂昇治 3

日本最西端の島に生きる与那国馬（二）　市川健夫　5
シルクロードの馬を訪ねて（連載六）…　坂内誠一　7
美術にあらわれたウマ　柴田真美　11
現代俳句の馬　北京一　17
寒河江市の馬走り祭り　井田博　45
マルと一緒に北海道の旅　西田美春　29
馬の写真館（その一一）　山本容子　35
馬のスポーツあれこれ（連載六）　新庄武彦　37
群馬に生きた馬の跡　大江正直　10
ドサンコの走行耐久力調査　瀬川鶴雄　15
万葉の馬の毛色　妹尾俊彦　19
日本釧路種に憶う　中村悟朗　27
世界の馬たち
　ドイツの馬「乗用馬の生産と育成」…Gesa Oldehaver　39
　クライズデール（乗輓兼用馬）　千葉幹夫　42
　ワイオミングの野生馬（ムスタング）　加世田雄時朗　43
馬と友達になりましょう（14）　千葉幹夫　41
馬の栄養と飼料（連載完）　森本宏　53
幻の汗血馬　出口勝男　13
全国障害者交流乗馬大会が開かれる　…　三木則男　47
日本ウマ科学会学術集会の開催　澤崎坦　51

**第 15 号　1995.7**

十勝馬事振興会青年部会の代表者に聞く　編集部　3
大正乃馬と農業　編集部　46
水戸黄門さんと馬　編集部　11
宮古における馬文化（一）　市川健夫　13
シルクロードの馬を訪ねて（連載七）…　坂内誠一　15
夏目漱石の馬　北京一　19
将軍吉宗とペルシャ馬　鈴木健夫　24
美術にあらわたウマ（二）　柴田真美　27
埴輪馬を作ったムラ　石井清司　43
室根山の大祭　太田和明　33
馬の写真館（最終回）　山本容子　35
郡山石筵ふれあい牧場誕生　編集部　37
馬のスポーツあれこれ（連載七）　新庄武彦　41
乗馬を体育の正課に・信州短期大学　…　市川健夫　53
“どさんこトロイカ”で走る私の夢　……　相馬幸子　55
馬の藁ぐつ　妹尾俊彦　18
馬と中世の武士達　大江正直　29
「人間の土地」と馬　横田喜美子　45
世界の馬たち
　ブライオアマウンテン野生保護区　加世田雄時朗　39
フランスでの農用種雄馬購買記　編集部　8
セーブル島の再野生馬群　木村李花子　21
シャンティイの馬の博物館　新庄武彦　30
子供達で賑わう、Eggスポーツ乗馬センターの水曜日の午後（スイス）　大豆生田真弓　50

**第 16 号　1995.11**

馬産事情意見交換の集い　編集部　3
今でも馬が農業の担い手　編集部　23
馬が活躍した東海道五十三次　編集部　41
シルクロードの馬を訪ねて（連載八）…　坂内誠一　9
将軍吉宗とペルシャ馬と通弁　編集部　15
芥川龍之介の馬　北京一　21
宮古における馬文化（二）　市川健夫　35
美術にあらわれたウマ（三）　柴田真美　53
高ボッチ高原観光草競馬大会　佐野健二　19
ヒゲジーサンと馬と子供たち　編集部　25
盲学校生とドサンコの一日　編集部　27
武州（埼玉）上岡の馬頭観音祭り　編集部　45
馬のスポーツあれこれ（連載八）　新庄武彦　47
晋州からの馬牌　妹尾俊彦　12
夜道は馬に聞け　編集部　18
ルシターノ　乗系馬　上原崇市　37
馬の人工授精
20 年前の精子で子馬誕生　大場光洋　38
「人間の土地」と馬　横田喜美子　39
馬に乗ってみましょう（1）　千葉幹夫　43
眞の野生馬、プルツェワルスキー馬がモンゴルの野生に帰った　加世田雄時朗　51
アメリカでの農用馬購買記　編集部　6
スペイン・ヘレスの馬祭り　上家哲　31
根室家畜市場の歩み　編集部　13
神田駿河台を馬が行く　編集部　55
愛らしくなったドサンコ　前田博之　56

**第 17 号　1996.3**

農業の発展と馬―留辺蘂百年―　23
信州望月牧場の渡来人たち　古曳正夫　3
シルクロードの馬を訪ねて（連載九）…　坂内誠一　11
春の馬と冬の馬の蕪村　北京一　17
北海道の風土と土産馬　市川健夫　33
第三回全国障害者交流乗馬大会　植田祐介　19
障害者と乗馬　三宅泰弘　21
第十八回北海道和種馬・第一回ポニー共進会　八戸芳夫　35
20 種以上の馬が揃う、第一回十勝馬まつり　高本延吉　38
産品の消費拡大を図る　斎藤馨　53
絵画に残る馬飼いの四季　56
藤崎八旛宮例大祭　岩下忠佳　14
吾妻神社の馬だし祭り　加藤雅毅　27
馬のスポーツあれこれ（連載九）　新庄武彦　47
馬で街中を闊歩　加藤智泰　51
種子骨　妹尾俊彦　6
し尿馬橇街道―国道 36 号線―　40
馬の原動機　41
馬に乗ってみましょう（2）　千葉幹夫　45
「人間の土地」と馬　横田喜美子　55
古殿流鏑馬キルギス共和国にて　鎌田光衛　7
シルクロードのスーパー競馬マラソン参戦記　…石橋雄士　9
ポルトガル王室結婚記念闘牛とその馬術をみて　上原崇市　29
ビール樽を運ぶ馬車―スイスから―　大豆生田真弓　37

**第 18 号　1996.7**

馬を愛された明治天皇　早坂昇治　13
シルクロードの馬を訪ねて　坂内誠一　20
紙馬（チーマー）　杉山享司　23
美術にあらわれたウマ（4）　柴田眞美　25
馬と自然を愛した一茶　北京一　41
鈴かけ馬おどり　徳永浩之　10
つくばの馬好き　17
馬のスポーツあれこれ（連載一〇）　新庄武彦　33
欽チャンの馬　高校馬術で活躍　田口和彦　49
「人間の土地」と馬　横田喜美子　16
愛宕山の石段　妹尾俊彦　40
御崎馬の生態―越冬―　加世田雄時朗　43
馬に乗ってみましょう（3）　千葉幹夫　47
流鏑馬に沸いたハワイ　小笠原清忠　27
初体験　キツネ狩り　中川可能作　37
リハビリとミニチュアホース　西村脩一　3
自閉症とミニチュアホース　松上利男　7
馬の情報館インターネットに登場　高島邦夫　45
著者紹介
　親愛なる人間さまへ　53
　馬たちの 33 章　54
馬事啓蒙普及資材の紹介　55
絵画に残る馬飼いの四季（5～9 月）　56
根室生産農協連馬事振興協議会　青年部誕生　…　51
北海道和種馬　厳冬期の能力調査　51

**第 19 号　1996.11**

小説「人間の土地」を訪ねて　横田喜美子　11
美術にあらわれたウマ　柴田眞美　17
馬に託した一茶の情念　北京一　37
大津絵「民画」に描かれたウマ　杉山享司　49
武田騎馬隊の秘密　古曳正夫　52
地域振興の一環としての「馬の道」構想　三宅勝　3
「ホースキャンプ IN とかち」計画から実施まで　高堂雅美　4
ドキュメント 夢大陸・十勝に人が酔い・馬と踊った日　6
馬に魅せられた少女　25
馬に乗ってみましょう（4）　千葉幹夫　23
御崎馬の生態―カラスとダニ―　…　加世田雄時朗　43
王立アンダルシア馬術学校　上家哲　19
馬は車の大先輩　佐々木千恵美　29
オーストラリア耐久選手権競技　新庄武彦　45
苦難の壁を越える人と馬　加藤雅毅　14
御霊会風流・玉若酢命神社　億岐正彦　31
ポニーのいる小学校　田澤堯　34
オリンピック・レポート～　総合馬術六位入賞　…原昌三　39
著書紹介
　木曽馬とともに　55
　日本農書全集　55
絵画に残る馬飼いの四季（9～12 月）　56

**第 20 号　1997.3**

美術にあらわれたウマ　柴田眞美　23
「民画」に描かれたウマ　絵馬　杉本享司　31
貸し馬の里―鬼無里村―　市川健夫　33
馬に遊んだ子規　北京一　39
馬に乗ってみましょう（5）　千葉幹夫　41
御崎馬の生態　種雄馬　与八の悲劇　…加世田雄時朗　47
厳寒を生き抜く―ドサンコ―　佐久間陽三　49
人馬共存―モンゴルの人と馬―　野沢延行　7
一馬が跳んだ　優・志萱―馬の障害飛越挑戦記　小林正樹　20
馬の祭典―ウィーン―　佐々木千恵美　25
「わらしべ園」の実践　村井正直　3
十勝の馬産　佐藤文俊　10
馬の「ストレス解消」調教法　亀谷勉　13
純血アラブ馬にとりつかれた人々　旋丸巴　17
鞍なし子供ポニーミニレース　濱野日出夫　28
木曽馬「豊月」と初詣　永井順子　36
木曽馬を育てる　臼井四郎　37
少年流鏑馬　落馬を乗り越えて　加藤雅毅　43
北海道和種馬保存協会 20 周年　八戸芳夫　53
著書紹介
　「馬と人間の歴史」　56
　「馬の医学書」　56

**第 21 号　1997.7**

馬と飯田蛇笏と自然と　北京一　15
『太平記絵巻』の馬（1）　金子眞士　53
幌馬車 100 日旅（1）　関口治　6
人と馬「友情物語」　佐々木千恵美　17
インドネシア・ロンボクの二輪馬車　編集部　26
スペインの馬紀行（1）　上家哲　33
マダガスカルで出会った馬　横田喜美子　52
陽光の中で―ドサンコ―　佐久間陽三　21
馬に乗ってみましょう（6）　千葉幹夫　31
好意に救われた仔馬　旋丸巴　37
馬とあそぼう　新庄武彦　40
人は動物をもとめ動物は人をいやす　林良博　3
自然体験留学と馬　加藤平八郎　11
「ナチュラル　愛のゆくえ」撮影余話　…　本巣俊光　27
野間馬ハイランド　リニューアル・オープン　…井手克彦　43
戦国絵巻再現　川中島合戦　編集部　47

**第 22 号　1997.11**

馬糞考　北京一　15
民画に描かれた馬　杉山享司　37
緋色への憧憬　関義則　53
幌馬車 100 日旅（2）　関口治　6
見てきたテヴィス・カップ　新庄武彦　22
スペイン馬紀行（2）　上家哲　39
若駒の躍動―ドサンコ夏・秋―　佐久間陽三　17
馬に乗ってみましょう（7）　千葉幹夫　27
馬溢れる道東への期待と不安　旋丸巴　43
学校・馬飼いのすすめ　林良博　3
馬から学んだ乗馬の心理学（1）　昌子武司　11
「駒の日」と山のクリーン・キャンペーン…　上幸夫　29
駒ヶ岳ドサンコ登山とクリーン作戦　岩崎芳夫　31
「かなぎウェスタンライディングパーク」　岡本一郎　33
共進会　第 20 回北海道和種　第 3 回ポニー　渡辺裕　46
乗馬セラピーの実践をめざして　明見健治　49

**第 23 号　1998.3**

勇躍する馬・室生犀星　北京一　13
本駒菖蒲革腰差しタバコ入れ　谷田有史　32

さきたまに馬がやってきた…… 岡本健一 35
「太平記絵巻」合戦と馬 …… 杉山正司 49
アフリカ最西端　セネガルの馬 …… 和合宏康 6
サーカスを彩る馬の芸 …… 佐々木千恵美 29
スペイン馬紀行（3）…… 上家哲 39
人も馬も生きいきと逞しかった　モンゴル　野沢延行 45
馬に乗ってみましょう（8）…… 千葉幹夫 19
馬への恩返し …… 青木修 21
共進会見学の勧め …… 旋丸巴 43
人と馬で築くヒポ・セラピー…… 林良博 3
ドイツにおける「治療的乗馬」の世界（1）　滝坂信一 9
馬から学んだ乗馬の心理学（2）…… 昌子武司 15
南の島の馬暮らし　与那国馬 …… 久野マサテル 25
現役・対州馬 …… 川島尚己 53
馬事啓蒙普及用資材 …… 編集部 56

**第 24 号　1998.7**

馬をモチーフとした伝統工芸（1）…… 外山徹 14
「やきもの」に現われた馬 …… 杉山亨司 17
仔馬のいる風景 …… 北京一 27
中世のウィーン・壮麗な騎士たち…… 末崎真澄 47
フランス・ベルギー　馬の資源調査から　平原榮人 19
パソーラ祭とスンバの馬 …… 久野マサテル 51
哺乳の感慨 …… 旋丸巴 7
馬に乗ってみましょう（9）…… 千葉幹夫 45
馬から学んだ乗馬の心理学（3）…… 昌子武司 3
馬からの贈りもの（1）…… 春日幸雄 9
ドイツにおける「治療的乗馬」の世界（2）　滝坂信一 24
日本　乗馬療育インストラクター養成学校開校… 村井正直 29
うらかわ優駿ビレッジ AERU オープン　山根博範 33
第 9 回ホースサミット「乗馬療育」推進を公式宣言　編集部 35
素人の馬飼い・13 年…… 柳川京 37
遠野　馬の里　物語 …… 臼井悦男 41
書籍・資料紹介 …… 編集部 56

**第 25 号　1998.11**

花鳥風月の虚子と馬 …… 北京一 23
馬をモチーフとした伝統工芸（2）…… 外山徹 36
伴大納言絵巻に見る馬 …… 黒田泰三 48
スペインのカウボーイ …… 上家哲 25
僕のオレゴン・トレイル（1）…… 永見津平 31
「勇気」をくれたマリオ・ルラスキー　佐々木千恵美 39
馬に乗ってみましょう（10）…… 千葉幹夫 29
新乗用馬の試み …… 旋丸巴 45
馬から学んだ乗馬の心理学（4）…… 昌子武司 3
馬からの贈りもの（2）…… 春日幸雄 7
日本・エンデュランスの黎明 …… 新庄武彦 13
ドイツにおける「治療的乗馬」の世界（3）滝坂信一 16
星野　円さんの挑戦 …… 黒田朋子 19
「釧路ふれあいホースパーク」オープン　川村和男 43
北海道・人と馬の絆 …… 八戸芳夫 51
日本在来馬の保存と活用のための連絡会議から…編集部 55

**第 26 号　1999.3**

兵馬・母仔馬・白馬 …… 北京一 15
馬をモチーフとした伝統工芸（3）…… 外山徹 47
伴大納言絵巻にみる馬（2）…… 黒田泰三 51
仏カドルノワール　日本公演 …… 岡部長忠 3
スペインの騎馬闘牛 …… 日立野次郎 23
ぼくのオレゴン・トレイル（2）…… 永見津平 43
モンティーロバーツの馴致法 …… 楠瀬良 11
ウマの走りと蹄と装蹄（1）…… 青木修 35
馬からの贈りもの（3）…… 春日幸雄 7
日本の「ホース・ウィスパラー」…… 旋丸巴 17
北海道和種馬　共同馴致・調教 …… 八戸芳夫 20
馬から学んだ乗馬の心理学（5）…… 昌子武司 27
ドサンコ種雄馬「秀王」物語 …… 佐久間陽三 31
馬が心の扉をノックする（1）…… 篠崎宏司 39
優良農用馬生産者の表彰 …… 編集部 50
書籍紹介「馬醫版本の研究」「テリントン・タッチ」 55

**第 27 号　1999.7**

桐原のわら駒 …… 金井義宏 20
馬の切手（1）…… 田内昂作 31
女性俳句の馬 …… 北京一 43
天馬美術館開館 …… 藤野一茂 45
零下 60 度　逞しく生きる人と馬…… 細野雅人 15
「ポルトガルの馬」見聞録 …… 上家哲 37
ウマの走りと蹄と装蹄（2）…… 青木修 23
馬からの贈りもの（4）…… 春日幸雄 3
日本で初　済州馬の仔馬誕生 …… 嘉手苅林俊 8
三木ホースランドパーク開国 …… 中俣修 11
馬から学んだ乗馬の心理学（6）…… 昌子武司 27
馬が心の扉をノックする（2）…… 篠崎宏司 33
全日本障害者乗馬協議会発足 …… 編集部 42
馬と人の祭り『北国の草競馬』…… 旋丸巴 49
「乗馬」と「馬」の情報源 …… 編集部 51
社団法人　日本馬事協会　創立 50 周年　編集部 54

**第 28 号　1999.11**

馬の切手（2）…… 田内昂作 25
馬にもやさしい山頭火 …… 北京一 35
馬のいる暮らし　モンゴル …… 浅野里美 17
フランス　農用馬事情 …… 金谷和夫 31
ポルトガルの騎馬闘牛 …… 日立野次郎 41
ウマの走りと蹄と装蹄（3）…… 青木修 27
馬からの贈りもの（5）…… 春日幸雄 3
徳蔵さんと「神居古潭」の長生きくらべ… 編集部 8
馬から学んだ乗馬の心理学（7）…… 昌子武司 11
雪中トレッキングのすすめ……山口まどか 15
馬が心の扉をノックする（3）…… 篠崎宏司 21
静内農高の身障者乗馬交流 …… 編集部 37
エンデュランスとアラブ馬 …… 旋丸巴 46
ばんえい競馬　電話投票を導入 …… 編集部 48
第 22 回　日本在来馬の保存と活用連絡協議会から　編集部 49
書籍紹介 …… 編集部 56

**第 29 号　2000.3**

馬を恍惚とみる …… 北京一 21
馬の切手（3）…… 田内昂作 31
北欧の馬たち　スウェーデン、デンマーク　津川和重 9
ドイツ　馬の街 …… 池本元一 47
ウマの走りと蹄と装蹄（4）…… 青木修 33
若馬の教育と訓致（1）…… 山野辺啓 51
馬からの贈りもの（6）…… 春日幸雄 3
人と馬の旅　二題 …… 13
　パイオニア・ホース・キャラバン 600 キロ 中野渡利彦
　三日月（北海道和種馬）と人馬二人旅　中川大
馬から学んだ乗馬の心理学（8）…… 昌子武司 23
乗用馬のための温泉診療施設が完成 … 石黒建吉 27
馬一途　50 年―馬と歩いた役者道―…… 編集部 37
国体・馬術競技を支えた生徒たち　菊池農高　塚本親治 41
馬の顔 …… 旋丸巴 45
優良農用馬の生産者などを表彰・書籍紹介　編集部 55

**第 30 号　2000.7**

称徳館リニューアル・オープン …… 岡山新一 7
偉大なる馬のもの …… 北京一 15
馬の切手（4）…… 田内昂作 29
浮世絵にみる東海道と木曽街道の旅 …… 編集部 47
乗馬三昧　タスマニア・ライディング… 田中義朗 25
オマーン王室厩舎の純血アラブ馬 …… 佐藤美子 51
ウマの走りと蹄と装蹄（5）…… 青木修 17
若馬の教育と馴致（2）…… 山野辺啓 43
馬から学んだ乗馬の心理学（9）…… 昌子武司 3
木曽馬「馬鈴」と古代米を作る …… 渡辺久夫 11
子どもたちからの贈りもの…… 春日幸雄 21
老人とポニー …… 荒谷穣治 31
木曽馬による障害者体験乗馬 …… 慶野裕美 35
「サーヴァント」から「コンパニオン」へ　辻井弘忠 38
仔馬の季節 …… 旋丸巴 41
21 世紀から　馬は一歳若くなる …… 編集部 56
お知らせ …… 編集部 56

**第 31 号　2000.11**

伝馬の制度と駄賃の額―江戸時代― …… 斉藤司 11
馬の切手（5）…… 田内昂作 31
馬を楽しむ …… 北京一 45
ヨルダン王室のアラブ馬を語る …… 佐藤美子 7
もうひとつのオリンピック…… 佐々木千恵美 21
若馬の教育と馴致（3）…… 山野辺啓 33
ウマの走りと蹄と装蹄 …… 青木修 49
馬から学んだ乗馬の心理学（10）…… 昌子武司 3
「明治村」は馬車が似合う …… 編集部 15
「男の隠れ家」…… 旋丸巴 18
学校馬飼いの勧め …… 吉田孚 23
エンデュランス（耐久競技）公式スタート　編集部 27
「馬事研究所」ものがたり …… 柏原孝夫 38
どっこい生きてる「宮古馬」…… 宮国博 41
10 月 1 日・都民の日・馬を楽しむ …… 編集部 47
書評 …… 編集部 54
日本馬事協会インフォメーション …… 編集部 55

**第 32 号　2001.3**

蒼き馬の源義 …… 北京一 15
馬の切手（6）…… 田内昂作 29
宿場の成立と馬子の風俗 …… 斉藤司 39
王室「馬事・ラクダショー」―オマーン―…佐藤美子 7
白馬のプリンス　ロレンツォ…… 佐々木千恵美 17
フランシュ・モンターニュ高原とセニュレジエの馬祭り　大豆生田真弓 31
キルギス・騎馬民族の誇り「コクボル」　清水隼人 43
上手な馬の分娩管理 …… 三宅陽一 11
農用馬の人工授精 …… 川邊久浩 25
若馬の教育と馴致（4）…… 山野辺啓 47
馬から学んだ乗馬の心理学（11）…… 昌子武司 3
登校拒否・不登校児童生徒の乗馬体験　高橋良臣 21
南の島（宮古島）を馬車が往く …… 編集部 35
馬の国・アイルランドの底力 …… 旋丸巴 51
平成 12 年度優良農用馬生産者等表彰 … 編集部 54
内国産農用種雄馬の購買・配置 …… 編集部 55

**第 33 号　2001.7**

楽しき馬の石鼎 …… 北京一 15
馬の切手（7）…… 田内昂作 29
タキ（プルジェワルスキー）の里帰り … 佐藤美子 7
アイスランド　馬追いの旅 …… 片山龍峯 25
馬の総合博覧会「エクイターナ」… 大豆生田真弓 35
若馬と教育と馴致（5）…… 山野辺啓 17
馬から学んだ乗馬の心理学（12）…… 昌子武司 3
フリージャンが闊歩する街 …… 編集部 11
世界初！？　ミニ・ケッテイ誕生 …… 旋丸巴 22
対州馬「樹」…… 編集部 31
農用馬を撮り続けて半世紀 …… 編集部 39
楽しいホースセラピー …… 高橋良臣 43
馬への愛、整体に込め …… 編集部 47
新たな世紀、馬事文化を広げる …… 武市銀治郎 51
馬事協会インフォメーション…… 編集部 55
書評 …… 編集部 56

**第 34 号　2001.11**

大名文化の粋―井伊家伝来の鞍― …… 丹羽貴之 7
“馬力”を貰ったか風生 …… 北京一 21
馬車の履歴書（1）…… 齊藤俊彦 31
馬の切手（8）…… 田内昂作 43
「プリンスたちの島」の馬 …… 佐藤美子 11
世界ベルシュロン大会に参加して …… 金谷和夫 23
馬の病気の基礎知識 Q & A（1）…… 大和康夫 15
馬の毛色考 …… 旋丸巴 18
若馬の教育と馴致（6）…… 山野辺啓 39
馬から学んだ乗馬の心理学（13）…… 昌子武司 3
ばんえい競馬、初の海外遠征 …… 鷲見陽一 27
よなぐにうまとなかよし…… 久野マサテル 35
人気上昇、流氷トレッキング …… （社）北海道うまの道ネットワーク協会　事務局 45
64 歳、苛酷で華麗なる挑戦…… 編集部 49
世界最大のアウトドア・イベント　カルガリー祭　稲場洋二 52
馬を知る …… 55

日本馬事協会インフォメーション …… 57

**第 35 号　2002.3**

馬の活用　期待大きい乗用馬、森林保全 近藤誠司 3
「馬力」出して頑張るぞ …… 入島敦子 9
馬と人をめぐる「笑いと俳味」…… 北京一 19
馬車の履歴書（2）…… 齊藤俊彦 31
馬の切手（9）…… 田内昂作 43
若馬の教育と馴致（7）…… 山野辺啓 27
馬の病気の基礎知識　Q & A（2）…… 大和康夫 35
ポニーの可能性 …… 旋丸巴 45
春の到来を告げる仮面の騎士の祭り … 佐藤美子 11
馬から学んだ乗馬の心理学（14）…… 昌子武司 15
午年は騎馬参拝から始まる …… 吉野祐司 21
強く生きることを学んだ　寒立馬と歩こう 湯浅聖一 24
ただ今　出番です　多芸なポニー大もて 編集部 39
汗血馬の謎 …… 上家哲 48
馬を知る …… 51
日本馬事協会インフォメーション …… 53
BSE（牛海面状脳症）の正しい知識を …… 56

**第 36 号　2002.7**

わが国馬文化の再構築（上）…… 新庄武彦 3
馬車の履歴書（3）…… 齊藤俊彦 25
お供馬と菊間祭 …… 渡部祐一 35
競べ馬と競馬と …… 北京一 45
キリシタン宣教師が見た日本の馬 … 入間田宣夫 49
馬の切手（10）…… 田内昂作 55
馬の病気の基礎知識 Q & A（3）…… 大和康夫 37
カマルグの白い馬 …… 上家哲 11
英女王陛下の馬たち …… 佐藤美子 21
馬車で遠足、スイスの老人ホーム　大豆生田真弓 29
イタリア・オーストリア・ハンガリーの農用馬 … 柏村文郎 41
馬劇『神隠しの果て』…… 中野渡利彦 8
農用馬「澄姫号」15 連産の快挙…… 川邉久浩 15
進む高品質馬肉生産 …… 編集部 19
馬から学んだ乗馬の心理学（15）…… 昌子武司 31
和種馬復活かけ流鏑馬競技大会 …… 旋丸巴 47
日本馬事協会インフォメーション …… 52
北海道アウトドア資格制度にトレイルライディングガイド登場…編集部 53

**第 37 号　2002.11**

わが国馬文化の再構築（下）…… 新庄武彦 7
戦の備え平時の備え　徳川美術館蔵品から 編集部 15
モンゴルには「ウマ」という言葉が少ない　バイ・フホムチル 20
馬くさい馬・ものいう馬たち…… 北京一 23
飯田八幡神社の鉄砲祭り …… 黒田佳之 33
馬車の履歴書（4）…… 齊藤俊彦 35
馬の切手（11）…… 田内昂作 43
危地の馬を助けるレスキュー隊 … 大豆生田真弓 3
プリンセスの動物病院　ヨルダン …… 佐藤美子 29
森の騎馬隊が誕生 …… 榎本淳一 13
北海道馬事の礎を築いたお雇い教師（上）―E・ダン― … 田辺安一 25
発育よく馬体の向上目立つ　北海道総合畜産共進会 編集部 39
馬から学んだ乗馬の心理学（16）…… 昌子武司 45
活動・研究領域広がる海外の障害者乗馬　深野聡 49
日本馬事協会インフォメーション …… 54
北の大地を熱くするばんえい新人ジョッキー 編集部 55
書籍ガイド …… 57

**第 38 号　2003.3**

大地が育んだ異能　神田日勝の世界 …… 菅訓章 11
はつらつたる春の駒 …… 北京一 15
「義経公東下り」行列…… 関宮治良 23
馬車の履歴書（5）…… 齊藤俊彦 31
馬の切手（12）…… 田内昂作 49
アメリカ、カナダのドラフトホース最新事情 斉藤晃一 7
ブルーノと愉快な仲間たち …… 大豆生田真弓 17
ガルディアンの祭り …… 上家哲 45
馬を主役に地域活性化へ …… 三浦賢良 3
「雨、また、雨のバンクーバー」…… 田渕順子 20
馬から学んだ乗馬の心理学（17）…… 昌子武司 25
ぼくらの運動会は乗馬演技 …… 久野マサテル 29
ドサンコで騎馬参拝 …… 飛塚優 35
雪原に響く園児の歓声 …… 旋丸巴 37
北海道馬事の礎を築いたお雇い教師（下）―E・ダン― …田辺安一 39
「お供馬」と野間馬の里…… 編集部 43
大輪開花、ばんえい新人騎手 …… 編集部 51
日本馬事協会インフォメーション …… 編集部 52
書籍ガイド …… 編集部 56

**第 39 号　2003.7**

奔放な風の如くに　謎の馬絵画家「露山」を訪ねて（上）…佐々木克明 17
馬にも人にもあたたかく …… 北京一 21
金沢百万石まつり …… 中村均 31
馬の切手（13）…… 田内昂作 49
馬学講座　第 1 回―遙かな時空を超えて―
　本在来馬の起源と系統 …… 野澤謙 3
馬、この良き友 …… 八戸芳夫 8
日本における馬の歴史と文化 …… 市川健夫 9
日本馬事協会種馬登録規程・同事務細則改正の概要　土田武夫 36
スペインの純血アラブ …… 上家哲 23
優雅、気品漂うルーマニアのリピッツァ　佐藤美子 39
イギリス、アイルランドの農用馬…… 柏村文郎 43
馬の生活環境を考える …… 大豆生田真弓 51
隠岐・西の島の馬を訪ねて …… 井上晴夫 14
馬から学んだ乗馬の心理学（18）…… 昌子武司 27
体験乗馬、馬車に歓声 …… 編集部 33
乗馬学習を正課に　北海道立鹿追高校 … 編集部 47
功労軍馬の肖像 …… 旋丸巴 53
日本馬事協会インフォメーション …… 編集部 55
書籍ガイド …… 編集部 57

**第 40 号　2003.11**

奔放な風の如くに　謎の馬絵画家「露山」を訪ねて（下）…佐々木克明 15
どこまでも明るい馬たち …… 北京一 17
新連載・南部馬の光芒（1）…… 南部駒研究会 19
加賀美流附伝騎馬打毬 …… 上野雄輔 33
馬の切手（14）…… 田内昂作 53
馬学講座　第 2 回　馬の見方、見分け方
　品種の外貌、特性備えたものを …… 岩村俊春 3
　馬、この良き友② …… 八戸芳夫 10
天空の秘境を駆ける　チベットの馬祭り　熊谷正宏 11
人馬一体、スイスのパトロール・ライディング … 大豆生田真弓 37
モンゴルのウマの井戸 …… バヨード・フホムチル 40
馬を仲立ちに地域交流 …… 編集部 23
戦場の馬たちに捧ぐ …… 瀬藤範子 25
戦場の馬 …… 中村悟朗 29
千頭が集う馬市場 …… 旋丸巴 35
「お馬さんと遊ぼ」…… 編集部 43
馬そり・馬車職人一筋 …… 編集部 45
馬の生産から「馬刺」小売りまで …… 編集部 49
“ばんえい”をもっと身近に …… 三浦俊幸 51
日本馬事協会インフォメーション …… 編集部 55
書籍ガイド …… 編集部 57

**第 41 号　2004.3**

小迫の延年 …… 千葉光郎 11
南部馬の光芒（2）…… 南部駒研究会 23
きびしい馬からなごやかな馬まで…… 北京一 33
漢詩に見る馬の愛景 …… 高本城山 39
馬の切手（15）…… 田内昂作 45
馬学講座　第 3 回
　逃げる草食動物、馬の行動 …… 近藤誠司 13
　馬　この良き友③ …… 八戸芳夫 20
馬車でリサイクリング　スイス…… 大豆生田真弓 21
カナダ冬の農業祭と北米の馬事事情 … 白井興一 41
〈特集〉愛馬と共にカントリーライフ … 海川道郎 3
〈特集〉日本在来馬と伝統文化を継承 … 宮崎昭行 7
〈特集〉山の馬しごと　馬力集材 …… 小田聡子 28
日本在来馬の起源を探る …… 戸崎晃明 35
日本ウマ科学会　第 16 回学術集会から … 編集部 47
日本純血アラブ馬協会 …… 旋丸巴 49
日本馬事協会インフォメーション …… 編集部 51
書籍ガイド …… 編集部 55
読者のひろば …… 56

**第 42 号　2004.7**

種子取祭のカタバル馬 …… 兼次浩三 27
忘れえぬ さまざまな馬たち …… 北京一 29
漢詩に見る馬の愛景 …… 高本城山 35
馬の切手（16）…… 田内昂作 37
南部馬の光芒（3）…… 南部駒研究会 39
馬学講座 第 4 回
　スポーツ栄養学からみた馬の飼養管理　朝井洋 13
　馬　この良き友④ …… 八戸芳夫 20
往時の躍動再び、済州島の馬 …… 河合正人 31
スイスのヒポセラピーセンター…… 大豆生田真弓 47
〈特集〉馬を飼う学校
　「ラッキー」は、みんなの宝 …… 編集部 3
　学校馬飼いを地域ぐるみで支援 …… 編集部 5
　“学校馬飼い”は楽しい …… 吉田孚 7
　遠野、受け継がれる伝統と新しい風 … 高草操 10
〈特集〉馬に魅せられた人々
“人間復権”へ馬牧場民宿…… 編集部 21
馬コレクション 50 年、世界の馬具 3,200 点を市に寄贈 編集部 24
絵本『赤べえ』が出来るまで …… 旋丸巴 44
あなたも未来の“神田日勝”！…… 菅訓章 50
日本馬術連盟が乗馬登録規程改正 …… 編集部 51
青木修氏、国際馬専門獣医師殿堂入り 9 月、
　恵庭市で北海道和種馬・北海道ポニー共進会 52
日本馬事協会インフォメーション …… 編集部 53
書籍ガイド …… 編集部 55
読者のひろば …… 57

**第 43 号　2004.11**

玉若酢命神社御霊会風流 …… 脇田泰造 24
南部馬の光芒（4）…… 南部駒研究会 27
それぞれの馬たち …… 北京一 35
馬の切手（17）…… 田内昂作 39
漢詩に見る馬の愛景 …… 高本城山 53
馬学講座 第 5 回
　馬の健康管理（上）…… 吉原豊彦 17
馬　この良き友⑤ …… 八戸芳夫 23
“馬王国”の誇りと自信 …… 堤孝正 31
だれも双子だって分かんなくて…結果は、みんなハッピー！…大豆生田真弓 37
〈特集〉馬に魅せられた人々
　夢はでっかく　ばんえい馬生産 …… 旋丸巴 3
　わが家に馬がきた …… 小杉弘美 7
酷寒の原野に挑んだ人と馬　映画「北の零年」…角田朝雄 9
乗馬が身近になってきた！ …… 編集部 13
10 回を迎えた「馬の絵作品展」…… 齊藤隆博 41
北海道新冠町でホースサミット …… 編集部 43
馬上からの風景に感激、馬力大会賑わい　櫻屋敷晴世 46
日本馬事協会インフォメーション …… 編集部 49
トピックス・書籍ガイド…… 編集部 55
「愛馬の日」―馬事イベントデー …… 編集部 57

**第 44 号　2005.3**

対馬初午祭「馬跳ばせ」　対馬初午祭実行委員会 21
南部馬の光芒（5）…… 南部駒研究会 43
おとなしい馬たち …… 北京一 37
馬の切手（18）…… 田内昂作 47
馬学講座　第 6 回
　馬の健康管理（下）…… 吉原豊彦 27
　馬　この良き友⑥ …… 八戸芳夫 36
インドの馬産と馬事情（上）…… 木村李花子 11
ポルトガルの乗馬体験と騎馬闘牛 …… 安本清 23
〈特集〉馬を飼う学校・幼稚園
　札幌市の宮ノ丘幼稚園 …… 旋丸巴 3
　北海道大樹町歴舟小学校 …… 旋丸巴 4
　北海道浦河町野深小学校 …… 杉本貢 6
　沖縄市の新エルサレム幼稚園 …… 玉置富男 9
キキとサラ　双子飼育日誌（上）…… 谷渕隆朗 15
流転の軍馬、壽号を訪ねて …… 高草操 39

優雅に、盲目の馬場の女王 …… 藤森亮二 49
日本馬事協会員インフォメーション …… 編集部 53
馬の博物館イベント予定 …… 編集部 57

**第 45 号 ＜宮古馬特集＞ 2005.7**

【巻頭グラビア】日本の在来馬 …… 編集部 3
日本在来馬の保存と文化的価値 …… 市川健夫 7
宮古馬、ピンチからの脱出 …… 新城明久 11
宮古馬はかけがえのない島の遺産 …… 伊志嶺亮 15
ドサンコ活用へ流鏑馬競技大会 …… 編集部 18
日本在来馬と伝統古式馬術 …… 寺岡輝朝 21
フランスの優美、パリの馬博覧会 …… 上家哲 27
インドの馬産と馬事情（下）…… 木村李花子 37
フランスの農用馬事情 …… 廣岡俊行 47
馬の切手（19） …… 田内昂作 25
若々しい馬と夢二的馬と …… 北京一 35
南部馬の光芒（6）…… 南部駒研究会 41
牧場の守護神、生馬神社祭 …… 編集部 51
キキとサラ　双子飼育日誌（下）…… 谷渕隆朗 31
北海道の馬文化とドサンコのあゆみ…… 小林孝二 45
日本ウマ科学会　第 17 回学術集会から … 編集部 53
馬事インフォメーション …… 編集部 55
「ホースメイト」バックナンバーの主な内容…… 58

**第 46 号〈北海道和種馬特集〉 2005.11**

【巻頭グラビア】わが心のドサンコ … 佐久間陽三 3
北海道和種馬の起源と利用・保存 …… 近藤誠司 6
大規模農業支えた重種馬 …… 安藤哲 13
北海道和種馬、地道に活用の道を模索　渕山達男 17
北海道和種馬の流れについて …… 宮上博 20
北海道における洋式農法の導入と馬 … 三浦泰之 21
ドサンコ賛歌　世界に羽ばたけ …… 相馬幸子 25
　地域・学校との交流に一役 …… 石川大輔 25
馬学講座　第７回　子馬の生産 …… 三宅陽一 31
馬の人工授精の現状と期待 …… 宮澤清志 35
普及段階を迎えた凍結精液を活用した馬人工授精技術…東幹彦 39
郷愁の馬を追う …… 北京一 29
馬の切手（20） …… 田内昂作 43
アラブ馬世界チャンピオン大会 …… 上家哲 26
馬の街、シャンティイ …… 高草操 49
「日本釧路種」を創った神　八三郎翁、没後 50 年　編集部 45
地域活性化へ“馬牧場”スタート …… 編集部 52
馬事インフォメーション …… 編集部 55
「ホースメイト」バックナンバーの主な内容…… 58

**第 47 号〈与那国馬特集〉 2006.3**

【巻頭グラビア】日本最西端の島に生きる …… 3
与那国馬の起源・利用・保存と課題 … 新城明久 5
日本最西端の与那国馬を訪ねて …… 編集部 11
与那国馬は“癒しの島”の主役 …… 入福浜賢 17
与那国馬　あれこれ …… 米城惠 20
民謡の馬たち …… 北京一 27
時又初午はだか祭り …… 伊原聰 39
江戸時代の馬の疾病対策（上）…… 折坂金弘 41
馬の切手（21） …… 田内昂作 45
スイスの馬の丸太引き大会 …… 大豆生田真弓 25
馬学講座　第８回
　分娩後の母・子馬管理の要点 …… 中島文彦 33
馬　この良き友⑦ …… 八戸芳夫 37
現役輓馬が熱演　映画「雪に願うこと」　田辺順子 29
“あの名馬の走りを科学する”が呼んだ大反響！　青木修 47
木曽馬を仲立ちに地域で乗馬交流 … 辻野清太郎 49
障害持つ子らに夢を …… 菅寿恵 53
馬事インフォメーション …… 編集部 54
「ホースメイト」バックナンバーの主な内容…… 58

**48 第号〈対州馬特集〉 2006.7**

蘇れ　対馬の“たから”…… 岡本新 3
対州馬振興会の活動と今後の取り組み　吉野栄二 9
「半農半漁」を支えた良き仲間 …… 編集部 13
対州馬の里を訪ねて …… 編集部 15
対州馬の現況と活用への視点 …… 山下大輔 21
墓標のない埋葬地 …… 編集部 23
日本の歴史で馬が果たした役割と文化　市川健夫 27
海外の在来馬、ソライア、ムスタング、およびカマルグ馬の現状　上家哲 33
馬学講座　第９回
馴致・調教の基本と癖を未然に防ぐ心得… 千葉祥一 43
川柳・狂歌に躍る馬 …… 北京一 31
馬の切手（22） …… 田内昂作 41
江戸時代の馬の疾病対策（中）…… 折坂金弘 47
上野動物園の馬飼育史 …… 小宮輝之 37
人々の暮らしを支えた馬 …… 編集部 51
馬と人との年代記 …… 編集部 53
100 歳、長寿の秘訣は乗馬 …… 編集部 55
馬からの贈り物 …… 旋丸巴 56
馬事インフォメーション …… 編集部 57
「ホースメイト」バックナンバーの主な内容…… 62

**第 49 号〈トカラ馬特集〉 2006.11**

トカラ列島に生きる孤高の馬 …… 岡本新 3
トカラ馬保存会の活動と課題 …… 大山英隆 9
トカラ馬…海上の道　はるか …… 編集部 11
喜界島は馬の大産地だった …… 編集部 15
南西諸島の在来馬と棒締頭絡 …… 小島摩文 19
モンゴル馬紀行 …… 上家哲 29
馬学講座　第 10 回
　ヒヅメは皮爪から蹄へ …… 青木修 23
天河神社七夕祭 …… 編集部 27
馬の切手（23） …… 田内昂作 35
日本古式馬術の世界（1） …… 寺岡輝朝 37
江戸時代の馬の疾病対策（下）…… 折坂金弘 48
馬肥ゆる …… 北京一 51
災害救援へ騎馬赤十字奉仕団 …… 井野優 18
見本林の復活にドサンコが一役 …… 宮上博 34
体型・資質向上目立つ農用馬　北海道総合畜産共進会　編集部 45
人と馬・新たな文化の創造 …… 安武正秀 53
たおやかに回れ　砂糖車 …… 編集部 58
農用馬 …… 柏村文郎 55
馬事インフォメーション …… 編集部 60

**第 50 号〈木曽馬特集〉 2007.3**

木曽馬よ　世界へ羽ばたけ …… 富田武 3
木曽馬の単一毛色化の現状と課題 …… 向山明孝 7
木曽馬保存会の活動と今後 …… 田中勝巳 15
木曽馬のふるさと …… 編集部 17
木曽馬の歴史とその文化 …… 市川健夫 22
木曽馬にまつわる文化調査 …… 伊藤尚人 27
馬学講座　第 11 回
　「動物愛護管理法」の改正と馬の福祉 … 青木玲 30
馬の切手（24） …… 田内昂作 35
春暁の馬 …… 北京一 39
日本古式馬術の世界（2） …… 寺岡輝朝 41
ポニーが元気をくれた …… 編集部 37
ばんえいファン　全国へ広げよう…… 編集部 45
ばんえい競馬、帯広単独開催への経過 … 編集部 48
北海道を馬車で行く …… 堤孝正 49
教育、療育活動分野広げる …… 編集部 51
種馬登録規程事務細則の改正について　安武正秀 53
沖縄の動物園で与那国馬が活躍 …… 中川美和子 56
馬の躾を考える …… 編集部 57
馬事インフォメーション …… 編集部 59

**第 51 号〈野間馬特集〉 2007.7**

日本最小の在来馬―野間馬 …… 橋口勉 3
野間馬保存会の活動状況と今後 …… 大澤勝幸 10
野間馬故郷へ帰る …… 編集部 13
ピラミッドの国のアラブ馬…… 上家哲 21
馬学講座　第 12 回
　ばんえい競馬の仕組みと歴史（上）… 田島芳郎 27
ばんえい競馬の楽しみ方 …… 斎藤修 31
ばんえい競馬、ファン拡大へアイデア競う　旋丸巴 35
熊野本宮大社本宮祭　御輿渡御　文・大嶋由美　写真・林佳夫 19
甲斐にかがやく馬 …… 北京一 25
馬の切手（25） …… 田内昂作 39
日本古式馬術の世界（3） …… 寺岡輝朝 41
三国志をいろどる馬たち …… 編集部 50
“バロン西”をめぐる人々 …… 編集部 45
『馬頭さん』を祭る人々 …… 編集部 51
農用馬の撮影 55 年、写真集を自費出版　帯広の松井和實さん　編集部 53
日本初、照月湖エンデュランス国際馬術大会… 文・坂本愛　写真・田中宣明 55
中京競馬場に“平安時代。再現 …… 中川剛 57
馬事インフォメーション …… 編集部 59
書籍ガイド …… 38

**第 52 号〈御崎馬特集〉 2007.11**

悠久の命をつなぐ御崎馬 …堀井洋一郎・妙中友美 3
保護対策協力会の活動と課題 …… 鈴木重格 9
野生馬の世界 …… 編集部 12
日向の馬産と馬文化 …… 山口富郎 17
離島の日本在来馬を「フレンドホース」に！ 高草操 21
「原義亮の足跡から辿る木曽馬の来た道」は、こうして刊行された …富田武 25
中央アジアの馬、アハルテケの謎 …… 上家哲 31
北アイルランド乗馬トレッキングツアー／コネマラの魅力　安本清 55
馬学講座　第 13 回
　ばんえい競馬の仕組みと歴史（下）… 田島芳郎 37
出雲伊波比神社の児の流鏑馬 …… 佐藤春生 28
馬の切手（26） …… 田内昂作 35
そのままの馬 …… 北京一 43
日本古式馬術の世界（4） …… 寺岡輝朝 51
歴史異聞 …… 編集部 24
最果ての馬 …… 近藤顕子 45
JRA 馬事公苑「愛馬の日」 …… 編集部 49
馬事インフォメーション …… 編集部 58
書籍ガイド …… 61

**第 53 号〈日本在来馬特集〉 2008.3**

座談会　次代へ残そう、日本の在来馬 …… 3
　小川諄、川嶋舟、木村李花子
在来馬　秘める高い潜在能力 …… 11
　戸崎晃明、富田武、野澤謙、新城明久、
　小宮輝之、市川健夫、久野雅照、高草操
北海道和種馬保存協会道南支部の挑戦 … 編集部 20
「在来馬の保存と利活用基本構想」を推進　編集部 25
馬学講座　第 14 回
　馬肉生産と流通の現状 …… 若杉保英 47
馬の切手（27）―フランス― …… 田内昂作 29
常陸・房総の馬の祭り …… 上家哲 41
『「治療的乗馬」研究集会 2007』開く…… 深野聡 28
〈特集〉馬の居場所 …… 編集部 31
　流鏑馬には和種馬が似合う
　新任大使を送迎する馬車列 …… 32
　観光新時代 …… 33
　おいらはレンジャー …… 35
　北海道は森林愛護・国立公園騎馬隊 …… 36
動物園に在来馬や元ばんえい馬… …… 37
自然にやさしい―地駄曳き …… 38
島の医師、環境と調和を実践 …… 宮崎昭行 39
映画「三本木農業高校、馬術部」…… 藤森亮二 44
日本ウマ科学会　第二〇回学術集会シンポから…編集部 56
「ホースメイト」総索引 …… 61

# 編　集　後　記

日本馬事協会は、昨年秋に本会内に創立60周年記念事業の一環として「60年のあゆみ」編集委員会を設け、検討を重ねてきた。

前回の50周年の節目として、その足跡を軸にわが国の馬事・馬産について記述し、検証した。これに対し今回は比較的最近である「その後の10年間」に取り組んできた事業を振り返り、新たな対応を紹介した。

例えば、乗用馬のように乗馬人口の増加、ホーストレッキング、ホースセラピーなど馬に対し新しいニーズが広がる一方で、生産面では農用馬、日本在来馬と同様に生産者の高齢化が進み、新たな担い手の確保難、飼養管理技術の継承が途切れる恐れが出てきた。そのために指導的技術者の養成、飼養管理技術の向上、凍結精液による人工授精の推進、在来馬については地域・馬種に合った保存・利活用が求められていることを紹介した。

ばんえい競馬売上金の低迷等から農用馬は生産意欲が低下し、厳しい状況が続いている。その状況をいかに打開するか—生産技術向上対策事業等からも対策を進めている。その1つが人工授精師の養成や馬事に携わる人材確保の期待を持って各地で開いている馬事知識普及公開セミナーなどである。

本会に対する助成団体、会員並びに関係団体のご協力に感謝するとともに、われわれのそうした思いや意図するところが、一人でも多くに伝われば幸いである。

平成21年3月　吉日

**日本馬事協会「60年のあゆみ」編集委員会**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 編集委員 | 倉澤景晴 | 宮﨑國雄 | 大沼孝宣 |
| | 安武正秀 | 山下大輔 | 高橋　健 |
| | 山﨑慎介 | 伊東敏枝 | 岡田和子 |
| | 岩村俊春 | 村山好子 | |


**日本馬事協会　60年のあゆみ**

発行所　社団法人日本馬事協会
〒104-0033　東京都中央区新川2丁目6－16
TEL　03-3297-5626　　FAX　03-3297-5628
ＵＲＬ　http://www.bajikyo.or.jp
E-mail　jeaa@bk9.so-net.ne.jp
印刷所　日本印刷株式会社